SHARP

プロジェクター

ViewLight®

ビューライト

形名 **XP-A201U-B**

設置説明書

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この設置説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

● ご使用の前に「安全にお使いいただくために」（5 ページ）を必ずお読みください。

もくじ

はじめに …… 4
安全にお使いいただくために …… 5
本書の表記について …… 26

1. 製品概要、添付品、名称を確認する …… 27

1-1. 特長 …… 27
1-2. 添付品の確認 …… 29
1-3. 本体各部の名称 …… 30
1-4. リモコン各部の名称 …… 37

2. 映像を投写する（基本操作） …… 43

2-1. 映像を投写する流れ …… 43
2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する …… 44
2-3. 本機の電源を入れる …… 47
2-4. 入力信号を選択する …… 49
2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する …… 51
2-6. 映像や音声を調整する …… 58
2-7. 本機の電源を切る …… 59
2-8. あとかたづけ …… 60

3. 便利な機能 …… 61

3-1. 投写光を消灯する（レンズシャッター） …… 61
3-2. オンスクリーン表示を消去する（オンスクリーンミュート） …… 61
3-3. 映像の一部を拡大する (部分拡大) …… 62
3-4. 輝度（明るさ）を調整する …… 63
3-5. 台形の歪みを調整する（4 点補正） …… 66
3-6. 市販の USB マウスを接続してメニュー操作をする …… 69
3-7. スタートアップロックを設定して無断使用を防止する …… 71
3-8. HTTP を使用したウェブブラウザーによる操作 …… 74
3-9. レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を保存する（レンズメモリー） …… 77
3-10. フォーカスのずれを自動補正する（アダプティブフォーカス） …… 81

4. マルチスクリーン投写 …… 82

4-1. マルチスクリーン投写でできること …… 82
4-2. 1 台のプロジェクターを使って 2 種類の映像を投写する（PIP/PICTURE BY PICTURE） …… 83
4-3. 複数のプロジェクターを並べて、解像度の高い映像をさらに大画面で投写する（タイリング） …… 86
4-4. 投写画面の境界を調整する（エッジブレンディング） …… 88

5. オンスクリーンメニュー …… 95

5-1. オンスクリーンメニューの基本操作 …… 95
5-2. オンスクリーンメニュー一覧 …… 100
5-3. 入力端子 …… 107
5-4. 調整 …… 110
5-5. 表示 …… 123
5-6. セットアップ …… 132
5-7. 情報 …… 165

6. 別売品などの取り付け／取り外し …… 167

6-1. レンズユニット（別売）…… 167
6-2. アイボルト（市販）…… 172

7. 機器と接続する …… 173

7-1. コンピューターと接続する …… 174
7-2. 映像機器と接続する …… 175
7-3. HDBaseT 対応の伝送機器（市販）と接続する …… 177
7-4. 有線 LAN と接続する …… 179
7-5. 複数のプロジェクターを接続する …… 180

8. 本体のお手入れ …… 182

8-1. レンズの清掃 …… 182
8-2. キャビネットの清掃 …… 183

9. 付　録 …… 184

9-1. 投写距離とスクリーンサイズ …… 184
9-2. 対応解像度一覧 …… 190
9-3. 仕　様 …… 193
9-4. 外観図 …… 196
9-5. 主な端子のピン配列と信号名 …… 198
9-6. ポートレート（縦向き）投写をする …… 200
9-7. プロジェクターをスタック設置して投写する …… 202
9-8. 故障かな？と思ったら …… 203
9-9. インジケーター表示一覧 …… 206
9-10. ASCII コントロールコマンドについて …… 209
9-11. Art-Net の DMX パラメーター一覧 …… 211
9-12. トラブルチェックシート …… 213
9-13. 別売品 …… 215

アフターサービスについて …… 216
使いかたのご相談など／修理のご相談など …… 裏表紙

はじめに

このたびは、プロジェクター（本機）をお買いあげいただき誠にありがとうございます。
本機は、コンピューターやブルーレイプレーヤーなどに接続して、文字や映像をスクリーンに鮮明に投写するプロジェクターです。
本機を安全に正しく使用していただくため、ご使用の前に、この設置説明書（本書）をよくお読みください。また、万一ご使用中にわからないことや故障ではないかと思ったときにお読みください。
本製品には「保証書」を添付しています。保証書は、お買いあげの販売店から必ずお受け取りのうえ、大切に保存してください。
本機は、日本国内向けモデルです。

● 本書で説明している機種名
XP-A201U-B

[注意]

（1）本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
（2）本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
（3）本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きのことがありましたらご連絡ください。
（4）本機の使用を理由とする損害、逸失利益等の請求につきましては、当社では（3）項にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

2024 年 10 月　初版
シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社の許可なく複製・改変などはできません。

安全にお使いいただくために

電波障害に関する注意事項

この装置は、クラスA機器です。この装置を住宅環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI ー A

警告：本装置を住宅環境で使用すると無線障害を引き起こす可能性があります。

プロジェクターに接続する信号ケーブルは、フェライトコア付きやシールドタイプを使用してください。
それ以外のタイプのケーブルを使用した場合、受信障害の原因となることがあります。
詳しくは、本書の「機器と接続する」をご覧ください。

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

絵表示について

この説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡や大けがをするなど人身事故の原因となります。**
注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人がけがをしたり周囲の財産に損害をあたえたりすることがあります。**

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）をうながすことを表しています。 図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠記号はしてはいけないことを表しています。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号はしなければならないことを表しています。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く）が描かれています。

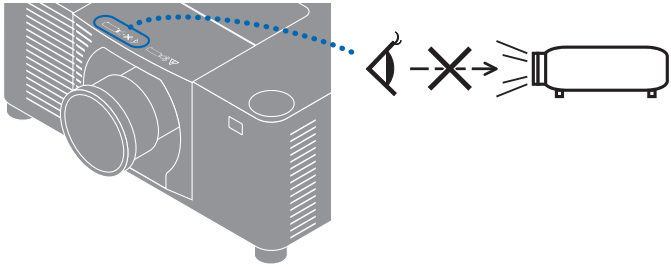
警告

プロジェクターの投写光について

禁止

投写光と本体の表示

- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。
  動作中は強い光が投写されていますので、視力障害の原因となります。またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。特にお子様には注意してください。
- 投写光を、光学機器（ルーペや反射鏡など）を使ってのぞかないでください。視力障害の原因になります。
- プロジェクターの電源を入れる際は、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。
- お子様に一人でプロジェクターを操作させないでください。お子様が操作する場合は、必ず大人が付き添い、お子様から目を離さないでください。
- レンズの上のプロジェクター上面に、次ののぞきこみ禁止を表す図記号を表示しています。



次ページへ続く

警告

● プロジェクター本体に次のラベルを貼付しています。

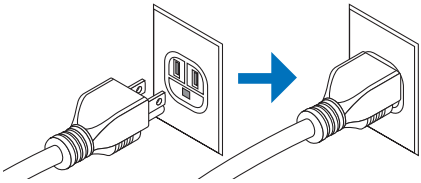
【ランプ警告／レーザー説明ラベル】

・ 本機は IEC 62471-5:2015 規格においてリスクグループ 3 に分類されています。本機はプロフェッショナル用途のため、専門の設置業者による安全が担保された設置が必要です。
リスクグループについて、詳しくは 17 ページをご覧ください。

・ レーザー光線の安全に関する注意事項は 17 ページをご覧ください。

⚠警告

電源について

国内専用	**プロジェクターは日本国内専用です** ● このプロジェクターと添付の電源コードは国内使用専用です。 ● 日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。 またこの製品に関する技術相談、アフターサービス等も日本国外ではお受けできません。 This product is designed for use in Japan and can not be used in any other countries.
必ず行う	**正しい電源電圧で使用する** ● このプロジェクターは、交流 100 ～ 240 ボルト , 50/60 Hz の電源で使用するように設計されています。プロジェクターを使用する前に、プロジェクターを接続する電源が要求を満たすものかを確認してください。 ● プロジェクターの電源はコンセントを使用してください。危険ですので直接電灯線に接続しないでください。
アース線を接続せよ	**アース端子を接続する** ● 本機は電源コードのアース端子をアースに接続することを前提に設計されている 3 芯プラグ機器です。機器の安全確保のため、電源コードは、3 芯コンセントに直接接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。 2 芯プラグへの変換アダプターは使用しないでください。詳細は 44 ページをご覧ください。 ● プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。 プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。 ● アース工事は専門業者にご依頼ください。 

警告

禁止

感電注意

ぬれた手で
さわらない

電源コードの取り扱い

- このプロジェクターに添付している電源コードは、このプロジェクター専用です。安全のため他の機器には使用しないでください。

- 電源コードは大切に取り扱ってください。コードが破損すると、火災・感電の原因となります。
  - ・添付されているもの以外の電源コードは使用しない
  - ・コードの上に重い物をのせない
  - ・コードをプロジェクターの下敷きにしない
  - ・コードの上を敷物などで覆わない
  - ・コードを傷つけない、加工しない
  - ・コードを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしない
  - ・コードを加熱しない

  電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口に交換をご依頼ください。
- 雷が鳴りだしたら、電源プラグに触れないでください。感電の原因となります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

設置について

禁止

次のような所では使用しない

- 次のような所では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
  - ・ぐらついた台の上、傾いた所など、不安定な場所
  - ・風通しや換気の悪い所
  - ・直射日光のあたる所や熱器具のそば
  - ・振動の多い所
  - ・湿気、ほこり、油煙、湯気の当たる所
  - ・腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）の存在する所
  - ・屋外
  - ・温度、湿度が急激に変化し結露ができやすい所

  結露が起きたときには、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

次ページへ続く

警告

水ぬれ禁止

プラグを抜く

- 次のような水にぬれるおそれがある所では使用しないでください。またプロジェクターの上に水の入った容器を置かないでください。火災・感電の原因となります。
  - ・雨天や降雪時、海岸や水辺で使用しない
  - ・風呂やシャワー室で使用しない
  - ・エアコン等水を排出する機器の近くで使用しない
  - ・プロジェクターの上に花びん、植木鉢を置かない
  - ・プロジェクターの上にコップ、化粧品、薬品を置かない

  万一プロジェクターの内部に水などが入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口に連絡してください。

注意

天吊り設置

- 天吊りやアイボルトを使用して吊り下げるなどの特別な工事が必要な設置についてはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。
  設置業者様は、21 ページの「設置や保管についての注意事項」をご覧ください。
- 設置や取り扱いが適切でない、誤使用、改造、天災などに起因する事故、損害については、当社は一切責任を負いません。
- 天吊りなどの設置をしたときはプロジェクターにぶらさがらないでください。落下してけがの原因となります。
- 天吊り設置のときは電源プラグを抜き差しできるように手の届くコンセントを使用してください。

使用について

禁止

プラグを抜く

内部に物を入れない

- プロジェクターの通風口などから内部に金属類や燃えやすいものなど異物を差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいる家庭では注意してください。万一異物がプロジェクター内部に入った場合は、まずプロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口に連絡してください。

警告

プラグを抜く	**故障したときは電源プラグを抜く** ● プロジェクターから煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする場合や、プロジェクターを落としたりキャビネットを破損した場合は、プロジェクターの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となるだけではなく、視力障害ややけどの原因になります。お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ修理を依頼してください。 お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
分解禁止	**プロジェクターの分解禁止** ● プロジェクターのキャビネットを外したり、あけたりしないでください。 また改造しないでください。内部には電圧の高い部分があり、火災・感電およびレーザー光がもれることによる視力障害ややけどの原因となります。 内部の点検・調整・修理はお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ依頼してください。
禁止 高温注意	**プロジェクターの動作中にレンズの前に物を置かない** ● 動作中にレンズにレンズキャップをしないでください。レンズキャップが高温になり変形します。 ● 動作中にレンズの前に物を置いて光をさえぎらないでください。物が高温になり、破損や火災の原因となります。 ● 上記を警告するために、プロジェクター本体に次の図記号を表示しています。
禁止	**プロジェクターの清掃時** ● レンズやキャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。
禁止	**極めて高い信頼性を必要とする業務に使用しない** ● 生命維持にかかわる医療機器などの人命に直接かかわる業務や、航空機、原子力設備などの極めて高い信頼性を必要とする業務には使用できません。

⚠注意

電源コードについて

必ず行う	**電源コードの取り扱い** ● 電源プラグを抜き差ししやすい場所のコンセントを使用してください。 ● プロジェクターの AC IN 端子に電源コードを接続する際は、コネクターを奥までしっかり差し込み、必ず電源コードストッパーを使って固定してください。電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。
必ず行う プラグを抜く	**火災や感電を防ぐために、次のことを守る** ● 電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。 ● お手入れのときや、夜間、休業日などで長時間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。 ● 電源プラグや電源コードが熱いとき、またコンセントへの差し込みがゆるく電源プラグがぐらついているときは、使用をやめてお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。
必ず行う	**電源プラグのほこりなどは定期的に取る** ● 火災・感電の原因となることがあります。
必ず行う	**電源コードやケーブル類を抜いてから移動する** ● コードやケーブルが引っ掛かり、落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。電源コードが傷つき火災や感電の原因となることがあります。
禁止	**電源コードは、タコ足配線しない** ● タコ足配線をすると、過熱により火災の原因となることがあります。

設置について

必ず行う	**レンズユニットは落下防止用ワイヤーで固定する** ● 天吊りなど、本機を高所から吊り下げて設置するような場合は、落下防止用ワイヤー（市販品）を使ってレンズユニットを固定してください。固定しないと、レンズユニットが外れた場合に落下するおそれがあります。

⚠注意

使用について

禁止

過電圧が加わるおそれのあるネットワークには接続しない

- プロジェクターの HDBaseT ポートおよび LAN ポートは、過電圧が加わるおそれのないネットワークに接続してください。
  HDBaseT ポートおよび LAN ポートに過電圧が加わると、感電の原因となることがあります。

必ず行う

レンズシフト、フォーカス、ズームの操作

- レンズシフト、フォーカス、ズームはプロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。
- レンズシフト動作中は、レンズの周囲に手を近づけないでください。キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

必ず行う

乾電池は適切に取り扱う

乾電池は誤った使いかたをすると液もれや破裂によるけがの原因となることがあります。

- 指定以外の電池を使用しない。
- 乾電池のプラスとマイナスを、表示のとおり正しく入れる。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。
  乾電池は種類によって特性が異なります。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しない。
  新しい乾電池の寿命を短くしたり、古い乾電池から液がもれるおそれがあります。
- 乾電池が使えなくなったら、すぐに取り出す。
  液がもれて故障の原因となるおそれがあります。
  漏れた液に触れたときは、ただちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。
  漏れた液が目に入ったときは、こすらずにすぐに水道水などのきれいな水で十分に洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
  皮膚がかぶれたり、目に障害を与える原因となるおそれがあります。
- 長時間使わないときは、乾電池を取り出す。
- 高温になる場所や気圧の低い場所に放置しない。
  破裂したり乾電池から可燃性の液やガスが漏れる可能性があります。
- 乾電池を水の中に投入したり、器具で押しつぶしたり、焼却、加熱、切断、改造しない。
  破裂のおそれがあります。

次ページへ続く

注意

必ず行う	• 乾電池をショートや充電をしない。 • 乾電池を廃棄する際は、プラス（＋）とマイナス（－）をセロハンテープで絶縁して廃棄する。 廃棄する際は販売店、または自治体に問い合わせてください。
禁止 高温注意	**通風口について** ● プロジェクターの通風口をふさがないでください。またプロジェクターの下に紙や布などのやわらかい物を置かないでください。火災の原因となることがあります。 プロジェクターを設置する場所は周囲から適当な空間をあけてください。（→ 23 ページ） ● 投写中および投写終了直後は、排気口付近をさわらないでください。排気口付近が高温になる場合があり、やけどの原因となることがあります。
禁止	**プロジェクターの持ち運び** ● レンズユニットを取り外した状態で、ハンドルをつかんで、2 人以上で持ち運んでください。 1 人で持ち運んだ場合、けがや腰痛の原因となることがあります。 ● プロジェクターを持ち運ぶときに、ハンドル以外の部分を持たないでください。プロジェクターが落下して、けがの原因となることがあります。 ● プロジェクターを持ち運ぶときに、レンズの挿入口に手をかけないでください。また、接続端子部のくぼみに手をかけないでください。プロジェクターが破損して落下し、けがの原因となることがあります。
必ず行う	**レンズの取り外し / 取り付け** ● レンズユニットを着脱する際は、プロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。視力障害ややけどの原因となることがあります。 ● プロジェクターを高所に設置した状態でレンズユニットを着脱しないでください。 レンズユニットが落下して、破損やけがの原因となることがあります。

⚠注意

禁止	**本機を強く押さない、乗らない、つかまない、ぶら下がらない、硬いものでこすったり、たたいたりしない** ● 破損して火災、感電、けがの原因となることがあります。
必ず行う	**温度や湿度が急激に変化する環境での使用、保存を避ける** ● 以下の使用環境･保存環境で本機をご使用､保存ください｡守らなかった場合は故障、火災や感電などの原因となることがあります。 動作温度：0 ～ 45 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと) 保存温度：-10 ～ 50 ℃ / 湿度：20 ～ 80 % (結露のないこと)
点検と清掃について	
必ず行う	**プロジェクターの点検・本体内部の清掃** ● 1 年に一度くらいは内部の清掃をお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。プロジェクターの内部にほこりがたまったまま、長い間清掃をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に清掃すると、より効果的です。なお、内部の清掃費用につきましてはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。

レーザー光線の安全に関する注意事項

警告

クラス 1 レーザー製品

- 本製品は、レーザー製品の安全基準 JIS C 6802:2018、および IEC 60825-1:2014 においてクラス 1 に分類されています。
- 本製品にはレーザーモジュールが内蔵されています。本書に記載した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の露光に結びつくことがあります。
  またレンズ近くでのレーザー光への露光は、やけどを引き起こす可能性があります。

【内蔵されたレーザーの概要】

・波長：455 nm
・最大出力：576 W

リスクグループについて

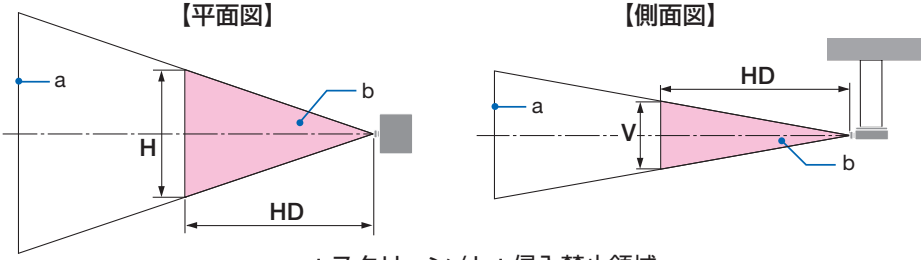
警告

リスクグループ 3 製品

- 本機は IEC 62471-5:2015 規格においてリスクグループ 3 に分類されています。
  本機はプロフェッショナル用途となり、安全が担保される設置が必要です。そのため専門の設置業者が設置することが義務付けられていますので、必ず販売店へご相談ください。お客様による設置は絶対におやめください。視力障害などの原因となります。
- 目へのビームの直接被ばくを禁止します。RG3 IEC 62471-5:2015
- プロジェクターのレンズをのぞかないでください。視力傷害の原因になります。
- 機器管理者（オペレーター）は、侵入禁止領域内でのビームへの被ばくを管理するか、侵入禁止領域内での観客の目への露光を避ける高さに本機を設置すること。
- プロジェクターの電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。

侵入禁止領域と注意事項

下図の範囲は、IEC 62471-5:2015 にてリスクグループ 3（RG3）に分類された投写光の範囲（侵入禁止領域）を表しています。



a：スクリーン / b：侵入禁止領域

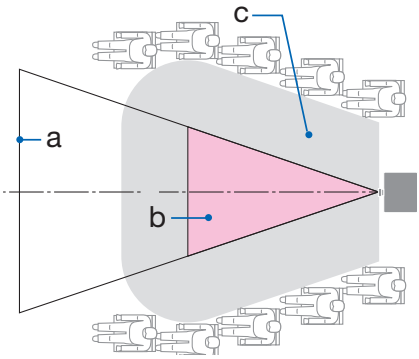
レンズユニット		侵入禁止領域（m）		
		HD	水平 H	垂直 V
XP-51ZL/NP51ZL	ワイド	0.29	0.70	0.40
	テレ	0.40	0.70	0.50
XP-52ZL/NP52ZL	ワイド	0.39	0.70	0.50
	テレ	0.57	0.70	0.50
XP-53ZL/NP53ZL	ワイド	0.53	0.70	0.50
	テレ	0.85	0.80	0.50
XP-54ZL/NP54ZL	ワイド	0.61	0.60	0.40
	テレ	1.25	0.70	0.50
XP-55ZL/NP55ZL	ワイド	1.35	0.80	0.50
	テレ	3.01	0.80	0.50
XP-56ZL/NP56ZL	ワイド	3.89	1.00	0.60
	テレ	7.30	1.00	0.60

保安領域について

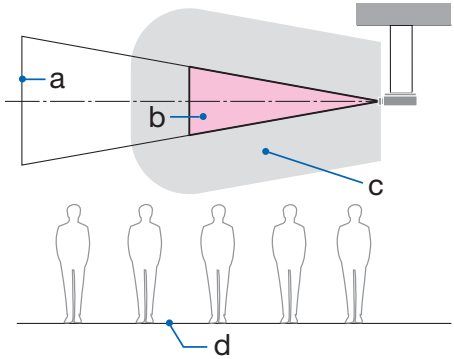
保安領域や物理的バリアを設けることで、人の目が侵入禁止領域に侵入することを防止できます。
公共の施設など、機器管理者（オペレーター）が侵入禁止領域内への観客の侵入を制御できないときは、観客の安全を考慮した保安領域として、侵入禁止領域から 1 m 以上の空間を確保することをおすすめします。また、プロジェクターを頭上に設置する場合は、床面と侵入禁止領域の距離を垂直方向に 3 m 以上確保することをおすすめします。

保安領域を考慮した設置例

① 床置きまたはデスクトップ設置の例



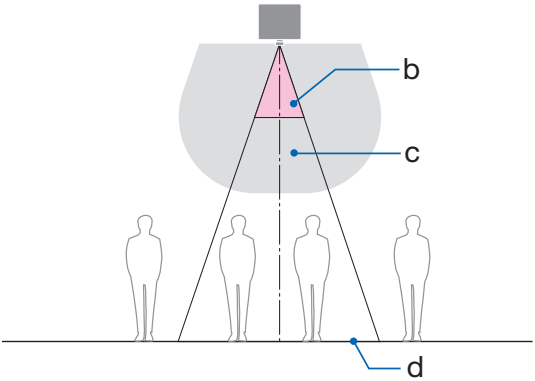
② 天吊り設置の例

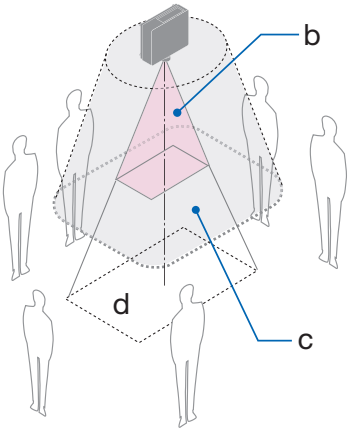


a：スクリーン / b：侵入禁止領域 / c: 保安領域 / d：床面

注意	天吊り時に侵入禁止領域へ観客の侵入が想定される場合（例えば床面と保安領域の距離が 2 m 以下の場合）は、その範囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

③ 天井に設置して下向き投写の例





b：侵入禁止領域 / c: 保安領域 /d：床面

注意	床面と侵入禁止領域の間の保安領域を確保できない場合は、右図のように画面の周囲への観客の立ち入りに制限が必要です。

※ レンズシフトをお使いの場合は、画面が移動します。シフト量も考慮してください。

⚠注意

安全確保のため、以下の事項を順守してください。

設置について

- 設置場所のレイアウト設計の際には本書に記載された安全への処置の実施を遵守すること。
- 危険回避のため、緊急時に電源プラグをコンセントから抜けるように、コンセントは手の届く範囲に設置すること。
  もしくは、プロジェクターを停止できるようなデバイス（ブレーカー）を設けること。
- 前項の侵入禁止領域へ人の目が入らないような安全処置をすること。
- 設置する場所に適したレンズを選定し、レンズごとに設定された安全のための領域を確保する処置を適切にすること。
  プロジェクターを動作させて光の調整作業などをする前に、必ず適切な処置を完了すること。
- 設置後にレンズごとに設定された安全確保の処置が適切に施行されているか妥当性を確認すること。
  妥当性の確認は定期的に実施し、確認結果の記録を保管すること。

設置業者または販売店から機器管理者（オペレーター）に対して、必ず以下を実施してください

- 機器管理者（オペレーター）に対して、安全に関する教育を機器使用前に必ず実施すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、動作前点検（投写光に対する安全の確認を含む）を必ず実施するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、プロジェクター動作時には必ず機器管理者（オペレーター）が緊急時の対応が出来るような状態で管理するように指示すること。
- 機器管理者（オペレーター）に対して、本書、点検記録をいつでも参照できるところへ保存・保管しておくよう指示すること。
  各国、各地域の規制を遵守した状態であることを明確にしておくように指示すること。

設置や保管についての注意事項

●次のような場所に設置したり、保管したりしないでください。

・振動や衝撃が加わる場所
動力源などの振動が伝わる所に設置したり、車両、船舶などに搭載すると、プロジェクターに振動や衝撃が加わって内部の部品が傷み、故障の原因となります。
・高圧電線や動力源の近く
妨害を受ける場合があります。
・強い磁界が発生する場所
故障の原因となります。
・屋外および湿気やほこりの多い場所
油煙や湯気の当たるような場所
腐食性のガスが発生する場所
キャビネットに油や薬品、水分などが付着した場合、キャビネットの変形またはひび割れ、金属部分の腐食、および故障の原因となります。

● 設置業者様へ

① 落下防止のためプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に長期間耐えるようにしてください。
② 設置は、天井取付けユニットの取扱説明書に従って、正しく確実に作業してください。所定のネジや固定金具はすべて確実に取り付けてください。
③ 落下防止のために落下防止ワイヤーを使用してください。
・市販の金具などを用いて建物や構造物の丈夫な箇所とプロジェクターのセキュリティバーを落下防止ワイヤーで接続してください。
・市販の金具や落下防止ワイヤーはプロジェクターおよび天井取付けユニットの荷重に耐えられるように十分強度のある物をご使用ください。
・落下防止ワイヤーはプロジェクターに負荷をかけないように、少したるませるように設置してください。
・セキュリティバーの位置については、32 ページをご覧ください。

廃棄について

地球環境保全と資源の有効活用のため、不要になった製品のリサイクルにご協力ください。
詳しくは当社ホームページをご覧ください。
「製品リサイクルのご案内」について
https://www.sharp-nec-displays.com/jp/environment/recycle/index.html

個人情報の初期化について

本機には、IP アドレス等、個人情報が記録されている可能性があります。廃棄・譲渡する際には、オンスクリーンメニューの「プロジェクター初期化」を実行して、設定の初期化をしてください。

プロジェクターの性能確保のための注意事項

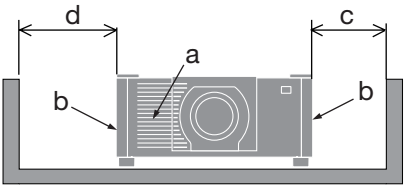
- レーザー光線のような強い光がレンズから入り込むと、故障の原因となります。
- たばこの煙の多い場所での使用・長時間の使用
  たばこの煙･ほこりの多い場所で使用する場合、または長時間連続して使用する場合は、あらかじめ本書の裏表紙に掲載しているシャープサポートページをご確認ください。
- コンピューターなどで同じ絵柄の静止画を長時間投写すると、その絵柄が画面に若干残りますが、しばらくすると消えます。これは液晶パネルの特性上発生するもので、故障ではありません。コンピューター側でスクリーンセーバーをお使いになることをおすすめします。
- プロジェクターを高所（気圧の低い所）で使用すると、光学部品の交換時期が早まる場合があります。
- プロジェクターの持ち運びについて
  ・いったんレンズユニットを取り外し、レンズに傷が付かないように必ずレンズキャップを取り付けてください。また、プロジェクターには防塵キャップを取り付けてください。
  ・プロジェクターに振動や強い衝撃を与えないでください。
  プロジェクターの故障の原因となります。
- チルトフットはプロジェクターの傾き調整以外の用途には使用しないでください。
  チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。
- 投写レンズ面は素手でさわらないでください。
  投写レンズ面に指紋や汚れが付くと、拡大されてスクリーンに映りますので、投写レンズ面には手を触れないでください。
- 投写中に電源コードを抜かないでください。プロジェクターの AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- リモコンの使用上の注意
  ・リモコン受光部に直接日光や強い照明が当たっているとリモコンが動作しにくくなります。
  ・リモコンとリモコン受光部との間に障害物があると、操作できないことがあります。
  ・乾電池が消耗してくると、操作できる距離が徐々に短くなります。早めに新しい乾電池に交換してください。
  ・蛍光灯などが近くにある場合は、動作しにくいことがあります。
  ・誤動作防止のために、エアコンやステレオコンポなど他の機器のリモコンと同時に使用しないでください。
  ・他の機器のリモコンによる影響が懸念される場合は、リモコンの識別 ID（リモコン ID またはコントロール ID）を設定するなどして誤動作を防止してください。
  ・プロジェクターから約 20 m 以内でプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作してください。
  ・リモコンを落としたり、誤った取り扱いはしないでください。

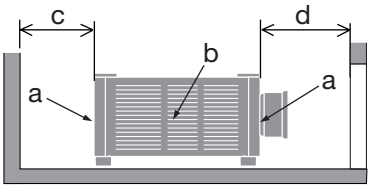
・リモコンに水や液体をかけないでください。万一ぬれた場合は、すぐにふき取ってください。
・できるだけ熱や湿気のないところで使用してください。

- スクリーンへの外光対策をしてください。
  スクリーンには、照明などプロジェクター以外からの光が入らないようにしてください。外光が入らないほど、ハイコントラストで美しい映像が見られます。
- スクリーンについて
  ご使用のスクリーンに汚れ、傷、変色などが発生すると、きれいな映像が見られません。スクリーンに揮発性のものをかけたり、傷や汚れが付かないよう取り扱いにご注意ください。

設置する際の周囲との距離についての注意

- プロジェクターを設置する際は、下記のように周囲に十分な空間を作ってください。
  プロジェクターから出た高温の排気が再びプロジェクターに吸気される場合があります。
  また、エアコンから吹き出された風がプロジェクターに当たらないようにしてください。プロジェクターの温度制御で異常（温度エラー）を感知して自動的に電源が切れることがあります。



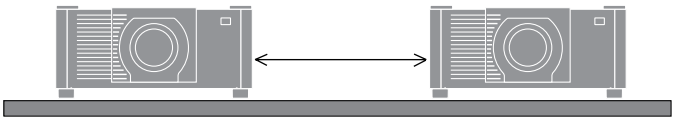


a：吸気口 / b：排気口 / c：20 cm 以上 / d：30 cm 以上

［注意］

- 上の図において、プロジェクターの上方には十分な空間があるものとします。

- マルチスクリーン投写など、複数台のプロジェクターを並べて設置する場合は、吸気と排気に障害が生じないように、本体の周囲に十分な空間をあけてください。吸気と排気に障害が生じると、プロジェクターの内部温度が上昇し、故障の原因となります。



投写する映像の著作権について

- 営利目的または公衆に視聴させることを目的として、プロジェクターを使って映像を投写する場合、プロジェクターの機能を使ってオリジナルの映像に対して投写範囲を小さくしたり変形したりすると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがあります。
  アスペクト、台形補正、部分拡大などの機能を使用する場合はご注意ください。

オートパワーオフ機能についてのお知らせ

本機は、工場出荷時にオートパワーオフを 15 分に設定しています。入力信号がなく、また本機を操作しない時間が 15 分続いた場合、消費電力を抑えるために、本機の電源が自動的に切れます。外部機器から制御する場合は「オフ」に変更してください。
詳しくは、162 ページをご覧ください。

有線 LAN に関するご注意

- 本機の HDBaseT ポートおよび LAN ポートは公衆回線（電気通信事業者から貸与またはレンタルされたルーターを含む）に直接接続することを意図して設計されていません。そのため HDBaseT ポートおよび LAN ポートを公衆回線に直接接続することは電気通信事業法で禁止されています。

商標について

- ViewLight、ビューライト、Cinema Quality Picture ロゴ、ProAssist、Virtual Remote は、シャープ NEC ディスプレイソリューションズ株式会社の商標または登録商標です。
- Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、HDMI のトレードドレスおよび HDMI のロゴは、HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

- HDBaseT™ および HDBaseT Alliance ロゴは、HDBaseT Alliance の商標です。

- PJLink 商標は、日本・米国その他の国や地域における登録商標または出願商標です。
- ブルーレイは、Blu-ray Disc Association の商標です。
- CRESTRON、CRESTRON ROOMVIEW は Crestron Electronics, Inc. の米国その他の国における登録商標または商標です。
- イーサネットは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標です。
- Extron および XTP は RGB Systems, Inc.（RGB システムズ社）の米国における登録商標です。
- Art-Net™ Designed by and Copyright Artistic Licence Holdings Ltd
- その他説明書に記載のメーカー名および商品名は、各社の登録商標または商標です。
- Virtual Remote Tool は Nicomsoft Ltd. の Win I2C/DDC ライブラリを利用しています。

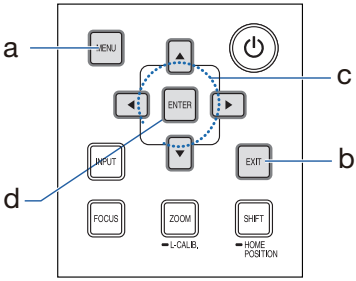
本書の表記について

マークの意味

[重要]	データが消えたり、もとに戻せない操作など、十分に注意していただきたいことを表しています。
[注意]	注意や制限事項を表しています。
[参考]	補足説明や役立つ情報を表しています。
→ 00 ページ	本書内の参照ページを表しています。

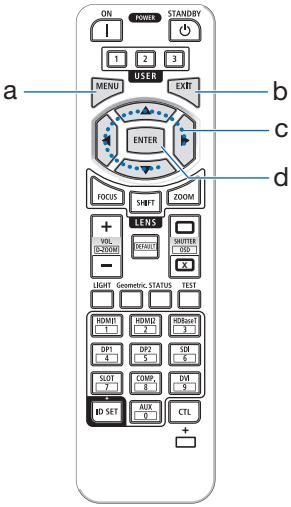
操作ボタンの表記例

●本体の操作ボタン



a：MENU
b：EXIT
c：上下左右の場合：▼▲◀▶
　左右の場合：◀ / ▶
　下の場合：▼
d：ENTER

●リモコンの操作ボタン



[参考]

● 本書に載せている表示画面は、実際と多少異なる場合があります。

1. 製品概要、添付品、名称を確認する

1-1. 特長

● 液晶方式の高輝度・高解像度プロジェクター

表示解像度 1920 ドット× 1200 ライン（WUXGA)、アスペクト比 16:10、明るさ 20000 lm※のプロジェクターです。
※ AC100V 時は 12000 lm です。

● 長寿命レーザー光源を採用

レーザー光源は長寿命のため、光源の交換や調整などのメンテナンスが長期間不要です。

● 高い防塵性能を可能とした独自の密閉構造

防塵性能に優れているため、フィルターを搭載していません。そのため、フィルターの交換が不要です。

●赤レーザー光採用により色再現性向上

従来の青レーザー光源方式に加え、赤レーザー光を追加し、色再現性を向上。鮮やかな映像を表示します。

●設置場所に応じて選べるオプションレンズ

6 種類のオプションレンズに対応しており、様々な設置場所、投写方法に合わせたレンズを選択することができます。
なお、工場出荷時はレンズ未装着のため、別途オプションレンズをお買い求めください。

● 360° の設置、ポートレート投写が可能

垂直方向に 360° どの角度でも投写できる「チルトフリー」や、水平方向に 360° どの角度でも投写できる「ロールフリー」機能を搭載しています。

● Cinema Quality Picture テクノロジーによる高画質な映像

デジタルシネマプロジェクターの開発技術と、長年にわたるプロジェクター開発によって蓄積された画像処理技術を応用して、高画質な映像を表示します。

● 複数台のプロジェクターを用いたマルチスクリーン投写

HDBaseT IN ポートと HDBaseT OUT ポートを搭載しています。
LAN ケーブルを使って、映像・音声信号に加えて制御信号を伝送することが可能です（最大 4 台まで接続可能)。
また、複数台で一つの映像を投写する際は、「エッジブレンディング機能」により画面の境界を滑らかにすることができます。

● 2 つの映像を同時表示（PIP/PICTURE BY PICTURE）

本機 1 台で 2 つの映像を同時に投写することができます。
2 画面の配置には 2 種類あり、主画面の中に小さな子画面を表示する「PIP」と、主画面と副画面を左右に並べて表示する「PICTURE BY PICTURE」があります。

● 信号切り替え時の画面変更をスムーズに見せるシームレススイッチング機能

入力端子切り替え時、切り替え前の映像を保持することで、無信号状態を経ずに切り替え後の映像が映し出されます。

● 有線 LAN

LAN ポートと HDBaseT ポートを装備しているため、有線 LAN に接続してコンピューターから本機を制御することができます。

● 便利なアプリケーションソフトに対応

当社のアプリケーションソフト（NaViSet Administrator 2、ProAssist、Virtual Remote Tool など）に対応しています。有線 LAN で接続したコンピューターからプロジェクターを制御することができます。

- NaViSet Administrator 2
  プロジェクターの状態をモニタリングしたり、様々な機能を制御することができます。
- ProAssist
  マルチスクリーン投写で必要な調整がスムーズにできます。
- Virtual Remote Tool
  コンピューターの画面上に仮想のリモコンを表示して、プロジェクターの電源の入／切や信号切り替えなどの簡単な制御をします。

● CRESTRON ROOMVIEW、Extron XTP に対応

CRESTRON ROOMVIEW に対応しています。コンピューターから、ネットワークに接続した複数の機器を管理・制御することができます。
また、本機を Extron 社の XTP トランスミッターに接続して、映像出力や制御をすることができます。

● スタンバイ時の消費電力が最小で 0.20 ワットの省エネ設計

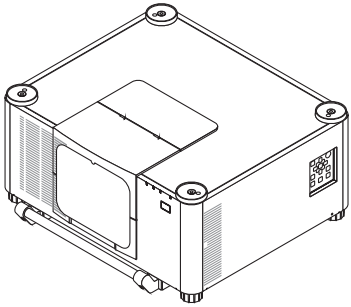
オンスクリーンメニューで省電力を「オン」に設定すると、スタンバイ時の消費電力がネットワーク有効時は 0.8 W、ネットワーク無効時は 0.20 Wになります。

● ライトモードとカーボンメーター表示

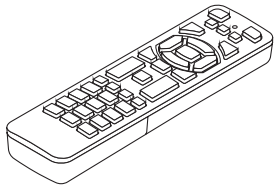
使用目的などに合わせて、3 つのライトモードを選択できます。
また、ライト調整で出力を下げて使用すると、消費電力を抑えることができます。このときの省エネ効果が CO_2 排出削減量に換算され、電源を切るときの「確認メッセージ」およびオンスクリーンメニューの「情報」に表示されます（カーボンメーター）。

1-2. 添付品の確認

添付品の内容をご確認ください。

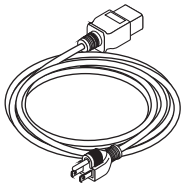


プロジェクター（本機）
防塵キャップ

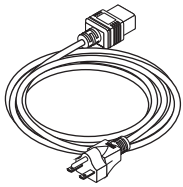


リモコン

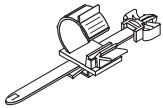
単 4 形アルカリ乾電池
（リモコン用）2 本



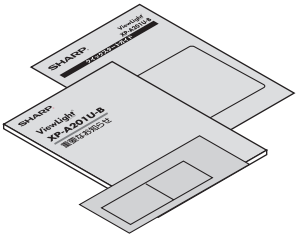
AC100V 用 電源コード
（3 芯タイプ）（3m）



AC200V 用 電源コード
（3 芯タイプ）（3 m）



電源コードストッパー



クイックスタートガイド
重要なお知らせ
保証書

天吊り金具固定用ネジ　6 本
別売の天吊り金具 XP-15CM を本機に取り付けるときに使用します。

※ 取り付けは、販売店に依頼してください。

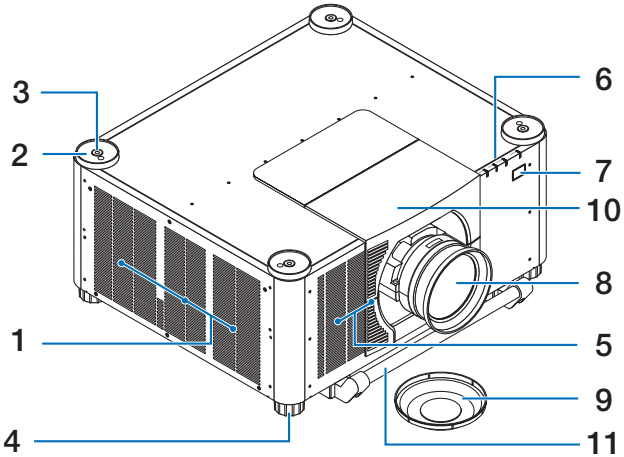
[参考]

- 万一添付品などが不足していたり破損している場合は、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。
- 添付品の外観が本書のイラストと多少異なる場合がありますが、実用上の支障はありません。

1-3. 本体各部の名称

本体前部

レンズは別売です。レンズユニット XP-54ZL を装着している状態で説明しています。



1　排気口
内部の熱を排気します。

2　スタッキングホルダー（4箇所）
本機を2台積み重ねて設置するときに、上側のプロジェクターのチルトフットをのせます。

3　アイボルト取り付け用穴（4 箇所）
移動や設置のためにプロジェクターを吊り下げる場合に使用します。
アイボルトの取り付けは、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご依頼ください。

4　チルトフット（4 箇所）
チルトフットを回して左右の傾きを微調整します。

5　吸気口
外気を取り込み、内部を冷却します。

6　インジケーター表示部
電源入／スタンバイなど本機の状態をインジケーターの点灯／点滅で知らせます。
（→ 33、206 ページ）

7　リモコン受光部
リモコンの信号を受ける部分です。本体の前面と背面の 2 箇所にあります。

8　レンズ
ここから映像が投写されます。（レンズユニットは別売です。）

9　レンズキャップ（レンズユニットに装着）

レンズを保護します。

10 レンズカバー

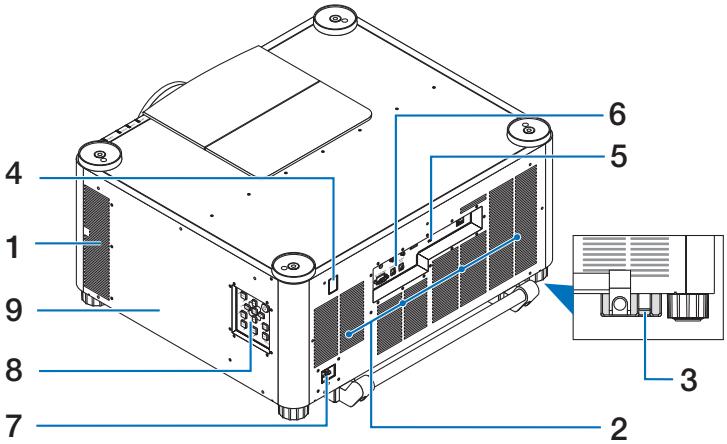
レンズユニットを着脱するときに外します。

11 ハンドル（2 箇所）

本機を移動させるときは、このハンドルをつかんで持ち上げます。

⚠注意	● ハンドルをつかんで、2 人以上で持ち運んでください。 1 人で持ち運んだ場合、けがや腰痛の原因となることがあります。 ● 本機を持ち運ぶ場合に、ハンドル以外の部分を持たないでください。 落下してけがの原因となることがあります。

本体後部



1　排気口
内部の熱を排気します。

2　吸気口
外気を取り込み、内部を冷却します。

3　セキュリティバー
盗難防止用チェーン（またはワイヤー）を取り付けます。
本機のセキュリティバーは、直径 4.6 mm の太さのものまで対応しています。

4　リモコン受光部
リモコンの信号を受ける部分です。
本体の前面と背面の 2 箇所にあります。

5　セキュリティスロット
盗難防止のためワイヤーケーブルを付ける際に使用します。
詳しくは下記の［参考］をご覧ください。

6　接続端子部
各種映像信号や音声信号のケーブルを接続します。

7　AC IN 端子
添付の電源コードを接続します。

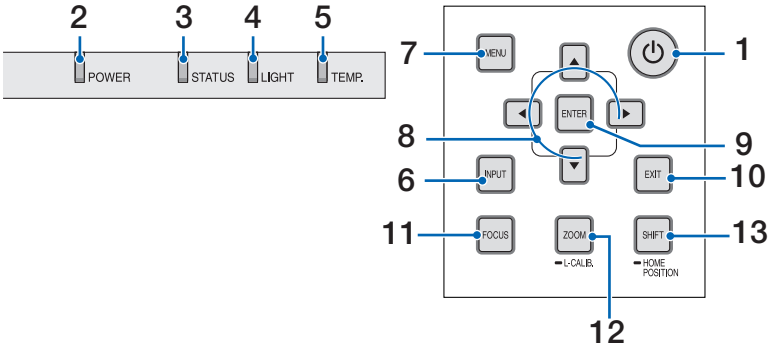
8　本体操作部
本機の電源の入／切や、投写する映像信号の切り替え操作などができます。

9　ラベル

［参考］

- セキュリティスロットについて
  セキュリティスロットは、市販のケンジントン社製セキュリティケーブルに対応しています。製品については、ケンジントン社のホームページをご参照ください。

本体操作部 / インジケーター表示部



1　⏻ ボタン（電源ボタン）

本機の電源を入／スタンバイ（待機状態）します。
電源を切る（スタンバイ状態）ときは、一度押すと画面に確認メッセージが表示されるので、続いてもう一度⏻ボタンを押します。

2　電源インジケーター（POWER）

本機の電源の状態を表すインジケーターです。
電源が入っているときは青色に点灯します。電源が切れているときは、状態によって緑色またはオレンジ色で点灯／点滅します。
詳しくは「インジケーター表示一覧」をご覧ください。（→ 206 ページ）

3　ステータスインジケーター（STATUS）

本体キーロック中に操作ボタンを押したときや、レンズのキャリブレーション中などに、点灯／点滅します。
詳しくは「インジケーター表示一覧」をご覧ください。（→ 206 ページ）

4　ライトインジケーター（LIGHT）

光源の状態をお知らせします。

5　温度インジケーター（TEMP.）

プロジェクター周囲の温度が高くなっていることをお知らせします。

6　INPUT ボタン

入力信号を選択します。
短く押すと、入力選択画面を表示します。
1 秒以上押すと、HDMI 1 → HDMI 2 → HDBaseT → SDI …の順に自動でチェックし、入力信号を検出すると、その信号を投写します。

7　MENU ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

8 ▼▲◀▶ボタン

・オンスクリーンメニューを表示しているときに▼▲◀▶ボタンを押すと、設定・調整したい項目を選択できます。
・テストパターン表示中は、パターンを変更します。
・オンスクリーンメニューを表示していないときに◀ / ▶ボタンを押すと、本機の音声出力を調整できます。

9 ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。
確認メッセージ表示中は、項目を決定します。

10 EXIT ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。
確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

11 FOCUS ボタン

フォーカス調整画面を表示して、投写画面のピントを合わせます。

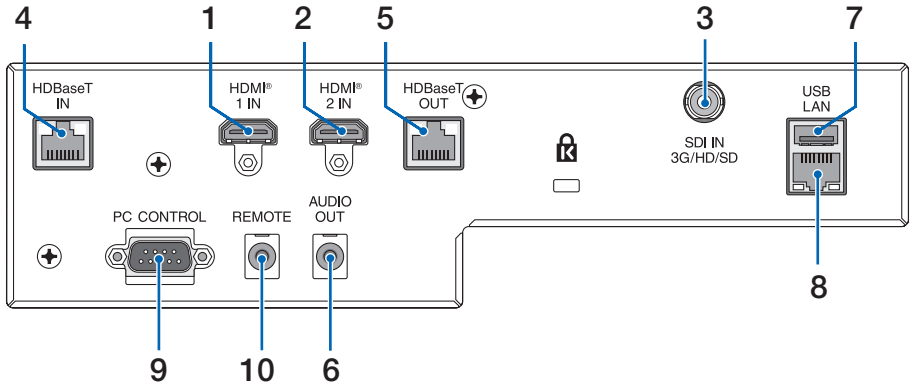
12 ZOOM/L-CALIB. ボタン

・短く押すとズーム調整画面を表示します。投写画面の大きさを微調整します。
・長く（2 秒以上）押すと、取り付けたレンズユニットの調整範囲を校正します（キャリブレーション）。

13 SHIFT/HOME POSITION ボタン

・短く押すとレンズシフト画面を表示します。▼▲◀▶ボタンで調整します。
・長く（2 秒以上）押すとレンズシフト調整がホームポジションに戻ります。

接続端子部



1　HDMI 1 入力端子（タイプ A）
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。

2　HDMI 2 入力端子（タイプ A）
コンピューターやブルーレイプレーヤーなどの出力端子と接続します。

3　SDI 入力端子（BNC）
映像機器の SDI 出力端子と接続します。

4　HDBaseT IN ポート（RJ-45）
本機を市販の HDBaseT 対応の伝送機器に接続します。
また、複数台のプロジェクターをデイジーチェーンで接続するときに使用します。

5　HDBaseT OUT ポート（RJ-45）
本機の HDMI 1 入力端子、HDMI 2 入力端子、HDBaseT IN ポートに入力された信号を出力します。

6　音声出力端子（ステレオ・ミニ）
本機から投写されている映像の音声信号を出力します。
出力音量は◀ / ▶ボタンで調整できます。

7　USB-A ポート（タイプ A）
市販の USB マウスを接続して、メニューを操作します。

[注意]
- 市販されているすべての USB マウスの動作を保証するものではありません。

8　LAN ポート（RJ-45）
本機を有線 LAN に接続します。接続すると本機の HTTP サーバー機能を利用し、コンピューターでウェブブラウザーを使用して本機を制御することができます。

9　PC コントロール端子（D-Sub 9 ピン）

コンピューターから制御コマンドを送信して本機を操作する場合に使います。
市販のリバースタイプ（クロスタイプ）の RS-232C ケーブルを接続してください。

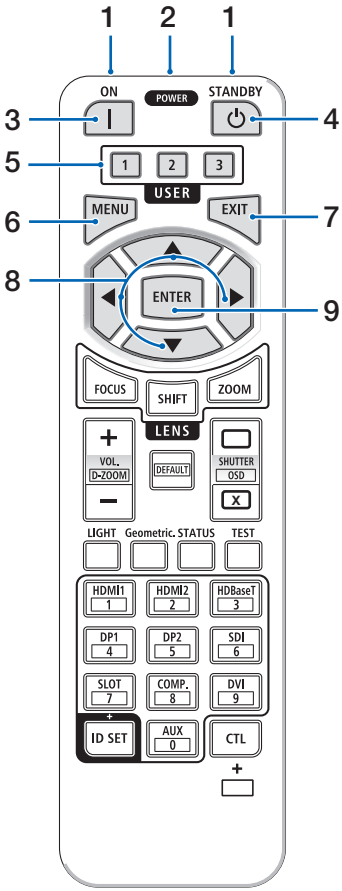
10 リモート端子（ステレオ・ミニ）

本機を有線でリモコン操作する場合に使います。

[注意]

- リモート端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
- リモコン受光部設定で HDBaseT を選択しており、かつ市販の HDBaseT 対応の伝送機器との接続時、伝送機器側でリモコン信号の伝送を設定している場合は赤外線でのリモコン操作ができません。ただし、伝送機器の電源を切っているときは赤外線でのリモコン操作ができます。

1-4. リモコン各部の名称



1　リモコン送信部

赤外線によるリモコン信号が送信されます。本体のリモコン受光部に向けて操作してください。

2　リモコンケーブル接続端子

リモコンを有線で使用するときに、市販のΦ3.5 ステレオミニプラグ付きケーブル（抵抗なし）を接続します。

3　POWER ON ボタン（ | ）

スリープ状態またはスタンバイ状態のときに、本機の電源を入れます。

4　POWER STANDBY ボタン（⏻）

一度押すと電源オフ確認メッセージを表示します。もう一度 POWER STANDBY（または ENTER）ボタンを押すと、本機の電源が切れます。

5　USER1/2/3 ボタン

機能を 14 種類から選択して設定できます。
文字入力画面を表示中は、文字種の切り替え、スペース、一字消去の働きをします。

6　MENU ボタン

各種設定・調整のオンスクリーンメニューを表示します。

7　EXIT ボタン

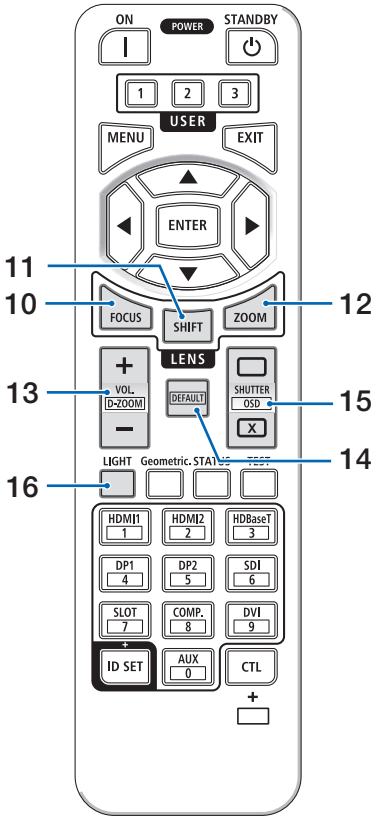
オンスクリーンメニュー表示中は、前の階層のメニューに戻ります。メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます。確認メッセージ表示中は、操作を取り消します。

8　▼▲◀▶ボタン

オンスクリーンメニュー操作や D-ZOOM ボタン、SHIFT ボタンと組み合わせて使用します。
・テストパターン表示中は、パターンを変更します。

9　ENTER ボタン

オンスクリーンメニュー表示中は、次の階層のメニューに進みます。
確認メッセージ表示中は、項目を決定します。



10 FOCUS ボタン

フォーカス調整画面を表示します。◀ / ▶ボタンでレンズのフォーカスを調整します。

11 SHIFT ボタン

レンズシフト調整画面を表示します。▼▲◀▶ボタンでレンズ位置を調整します。

12 ZOOM ボタン

ズーム調整画面を表示します。◀ / ▶ボタンでレンズのズームを調整します。

13 VOL/D-ZOOM ＋ / －ボタン

音声出力端子の音量を調整します。
CTL ボタンと同時に押すと、画面の拡大・縮小（もとに戻す）をします。

14 DEFAULT ボタン

オンスクリーンメニュー表示中に CTL ボタンと同時に押すと、調整値を初期値に戻します。
操作ガイドに DEFAULT の表示がついている項目のみ有効です。

15 SHUTTER /OSD OPEN（▭）/CLOSE（x）ボタン

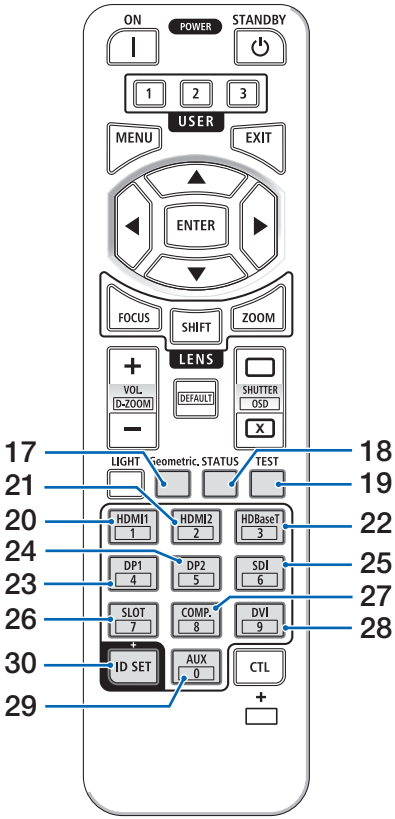
CLOSE ボタンを押すと、光源が消灯して投写光が一時的に消えます。OPEN ボタンを押すと戻ります。
CTL ボタンと同時に CLOSE ボタンを押すと、オンスクリーン表示を消します（オンスクリーンミュート）。CTL ボタンと同時に OPEN ボタンを押すと戻ります。

16 LIGHT ボタン

ライトモード画面を表示します。

[注意]

- [調整] → [映像] → [モード] の設定により、表示される画面が異なります。



17 Geometric. ボタン
オンスクリーンメニューの「幾何学補正」を表示します。投写画面の歪み調整に使います。

18 STATUS ボタン
オンスクリーンメニューの情報の「使用時間」を表示します

19 TEST ボタン
テストパターンを表示します。

20 HDMI1 ボタン
HDMI1 入力を選択します。

21 HDMI2 ボタン
HDMI2 入力を選択します。

22 HDBaseT ボタン
HDBaseT 入力を選択します。

23 DP1 ボタン
（本機では使用しません）

24 DP2 ボタン
（本機では使用しません）

25 SDI ボタン
SDI 入力を選択します。

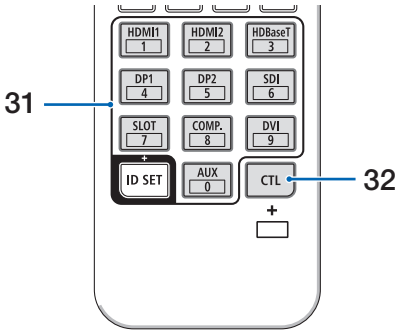
26 SLOT ボタン
（本機では使用しません）

27 COMP. ボタン
（本機では使用しません）

28 DVI ボタン
（本機では使用しません）

29 AUX ボタン
（本機では使用しません。将来の拡張用です。）

30 ID SET ボタン
複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作するときのコントロール ID 設定に使用します。
文字入力画面を表示中は、入力する文字を切り替えます。



31 数字（0 ～ 9）入力ボタン

複数台のプロジェクターを本機のリモコンで個別に操作する場合の ID 入力に使用します（コントロール ID 設定）。
ID SET ボタンを押したまま 0 ボタンを押すと、コントロール ID 設定を解除します。
文字入力画面を表示中は、文字を直接入力します。

32 CTL ボタン

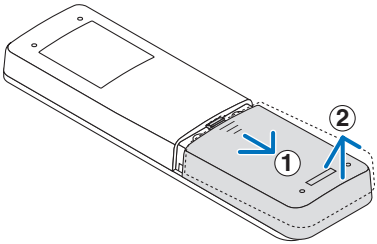
他のボタンと併用するための複合機能ボタンです。

[注意]

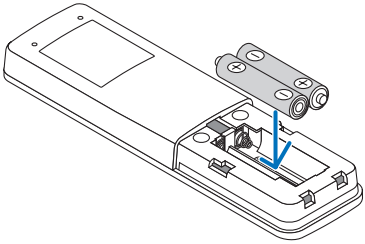
- リモコンの使用上の注意は 22 ページをご覧ください。

●乾電池の入れかた

1. リモコン裏面の電池ケースのふたをあける。

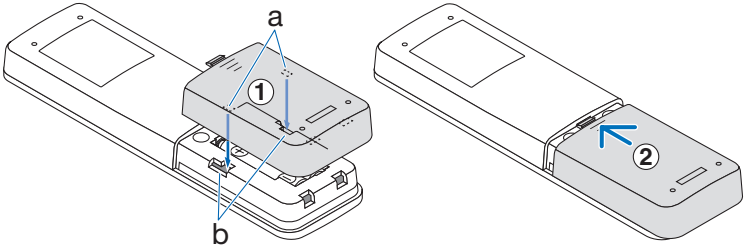


2. ケース内部に表示している＋、－の向きに合わせて単 4 形アルカリ乾電池をセットする。



3. もとどおりにふたをする。

ふたのツメⓐをケースのミゾⓑに入れてからふたをしめます。



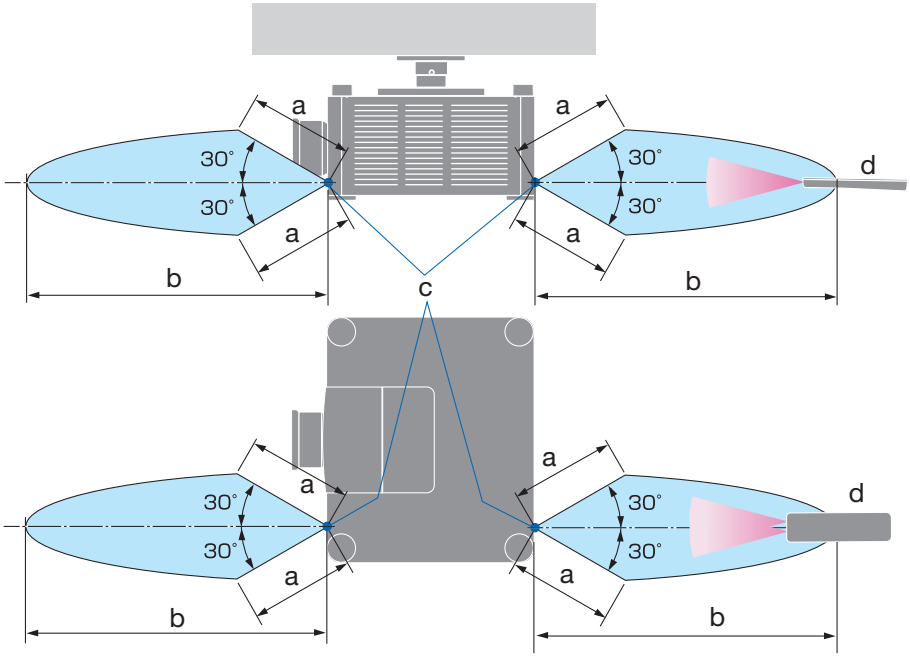
[注意]

- 乾電池を交換するときは、2 本とも同じ種類の単 4 形アルカリ乾電池をお買い求めください。

●リモコンの有効範囲

リモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けてリモコンを操作してください。おおよそ次の範囲内でリモコンの信号が受信できます。

【受光範囲】

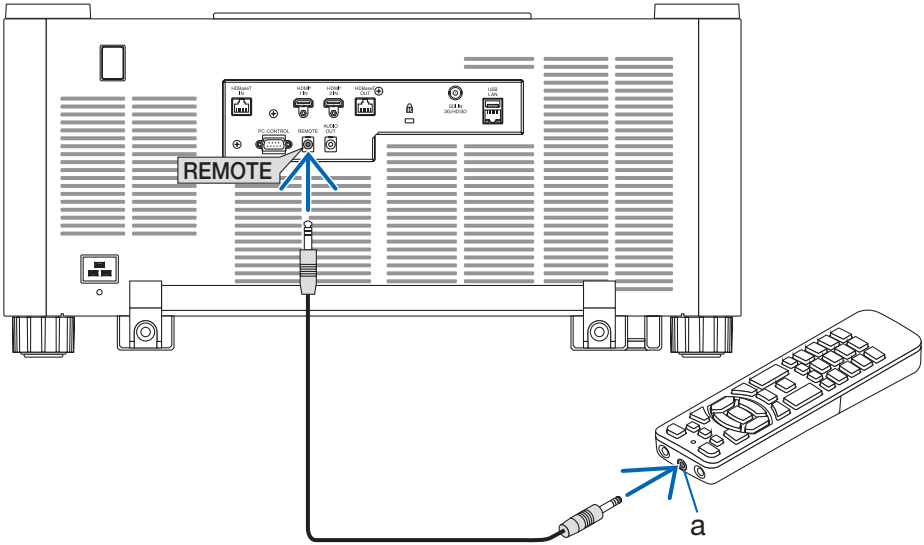


a: 約 7 m ／ b: 約 20 m ／ c: プロジェクターのリモコン受光部／ d: リモコン

（注）有効範囲のイメージを表した図のため実際とは多少異なります。

●リモコンケーブルを使用する

本体のリモコン受光部とリモコンの間に遮へい物などがあるときや、受光範囲外でリモコン操作するときは、リモコンケーブルを使用して、本体とリモコンを接続してください。



a: リモコンケーブル接続端子

- リモコンケーブルは、市販のΦ 3.5 ステレオミニプラグ付き（抵抗なし）を使用してください。
- リモート端子にリモコンケーブルが接続されているときは、赤外線でのリモコン操作はできません。
- リモート端子からリモコンへ電源は供給されません。有線で使用する場合でも、リモコンに乾電池を入れてください。

2. 映像を投写する（基本操作）

2-1. 映像を投写する流れ

ステップ 1	コンピューターと接続する／電源コードを接続する（→次ページ）
ステップ 2	本機の電源を入れる（→ 47 ページ）
ステップ 3	入力信号を選択する（→ 49 ページ）
ステップ 4	投写画面の位置と大きさを調整する（→ 51 ページ）
ステップ 5	映像や音声を調整する（→ 58 ページ）
ステップ 6	プレゼンテーションする
ステップ 7	本機の電源を切る（→ 59 ページ）
ステップ 8	あとかたづけ（→ 60 ページ）

2-2. コンピューターと接続する／電源コードを接続する

1. コンピューターと接続する

ここでは、コンピューターとの基本的な接続を説明します。
コンピューターの HDMI 出力端子と本機の HDMI1 入力端子（HDMI1 IN）または HDMI2 入力端子（HDMI2 IN）を HDMI ケーブルで接続します。

2. 電源コードを接続する

⚠注意	● 本機は電源コードのアース端子をアースに接続することを前提に設計されている 3 芯プラグ機器です。機器の安全確保のため、電源コードは、3 芯コンセントに直接接続し、機器のアースを確実に接続してご使用ください。アースを接続しないと感電するおそれがあります。 2 芯プラグへの変換アダプターは使用しないでください。 ● プロジェクターとコンピューター（信号源）は必ず同じアースに接続してください。 プロジェクターとコンピューター（信号源）を離れた場所のアースに接続すると、アース電位の変動により、発火・発煙の原因となることがあります。 ● アース工事は専門業者にご依頼ください。 ● 電源コードを AC IN 端子および 3 芯コンセントに接続するときは、コネクターやプラグを奥までしっかり差し込んでください。そして、AC IN 端子に接続した電源コードのコネクターが抜け落ちないように、添付の電源コードストッパーを使って固定してください。 電源コードの接続がゆるむと、火災・感電の原因となるおそれがあります。

[重要]

● 三相 200V の電源には接続しないでください。故障の原因となります。

本機の電源は AC100 V と AC200 V（単相）用コンセント（アース付き 3 芯コンセント）に対応しています。添付の電源コードを使って、本機をコンセントに接続してください。

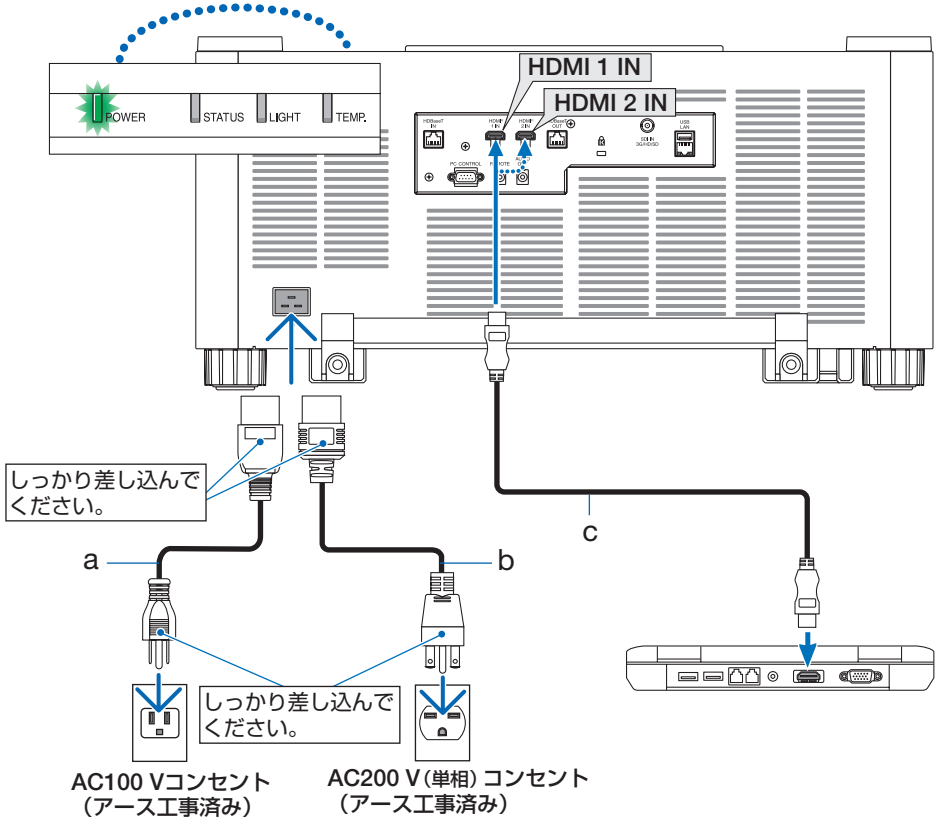
AC100V の場合

① AC100 V 用電源コードのコネクターを本機の AC IN 端子に差し込む。
② AC100 V 用電源コードのプラグを AC100V の 3 芯コンセント（アース工事済み）に差し込む。

AC200 V の場合

① AC200 V 用電源コードのコネクターを本機の AC IN 端子に差し込む。
② AC200 V 用電源コードのプラグを AC200 V（単相）の 3 芯コンセント（アース工事済み）に差し込む。

電源コードを接続すると、本機の電源インジケーターが点灯します。



a：AC100 V 用電源コード（添付）/ b：AC200 V 用電源コード（添付）/
c：HDMI ケーブル（市販）

● プレミアムハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。

⚠注意	電源を切ったときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

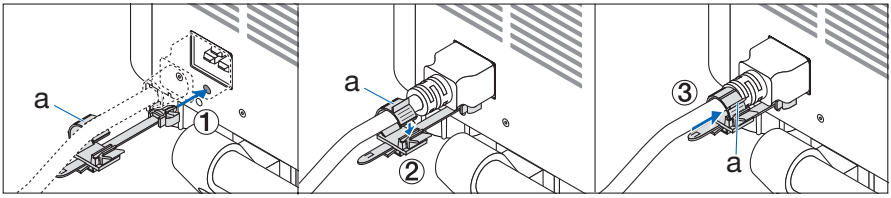
● 電源コードストッパーの使いかた

本体の AC IN 端子に接続した電源コードのコネクターが抜け落ちないように、添付の電源コードストッパーを使って固定します。

[注意]

- コネクターが固定された状態で電源コードを引っ張ると、本体が落下して破損するおそれがあります。

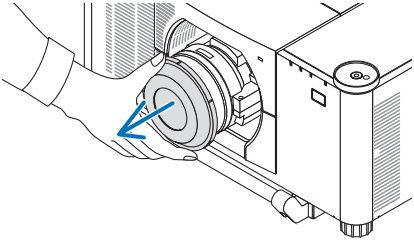
① クランパー部ⓐを電源コード側の向きにして、電源コードストッパーの先を AC IN 端子の下の穴に合わせ、押し込みます。
② 電源コードをクランパー部ⓐに通し、クランパー部ⓐを押して固定します。
③ 電源プラグの根元までクランパー部ⓐをスライドさせます。



2-3. 本機の電源を入れる

⚠警告	プロジェクターは強い光を投写します。 電源を入れる際は、プロジェクター本体の側面または背面（侵入禁止領域の外）で操作してください。また、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。

1. レンズキャップを取り外す。



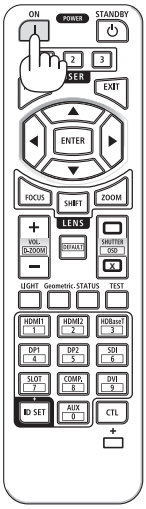
2. POWER ON ボタンを押す。

電源インジケーターが緑色の点灯から青色に変わり点滅し始めます。その後、スクリーンに映像が投写されます。

・本体で操作する場合は、⏻ ボタンを押します。

・信号が入力されていないときは、青い画面（ブルーバック）が表示されます（工場出荷時のメニュー設定時）。

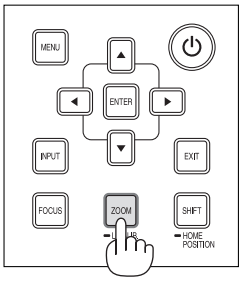
・映像がぼやけている場合は、画面のフォーカスを合わせてください。（→ 54 ページ）



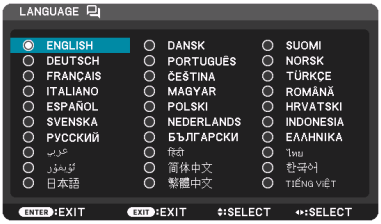
［参考］

● 「スタートアップロック中です。」が表示されたときは、スタートアップロックキーワードが設定されています。

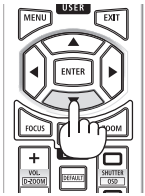
・別売のレンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の ZOOM/L-CALIB. ボタンを長く（2 秒以上）押して、「キャリブレーション」を実行してください。
キャリブレーションにより、レンズの調整範囲を校正します。
また、レンズシフトの動作に異常が発生したときも、「キャリブレーション」を実行してください。



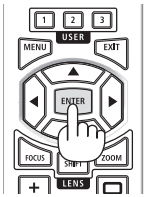
・ ご購入後はじめて電源を入れたときは LANGUAGE 画面が表示されます。次のように操作して「日本語」を選択してください。
・誤って「日本語」以外を選択した場合は、オンスクリーンメニューを表示して「言語」を変更することができます。



① ▼▲◀▶ボタンを押して、カーソルを「日本語」に合わせる。



② ENTER ボタンを押す。
オンスクリーンメニューの表示が日本語に設定され、オンスクリーンメニューが消えます。



・言語設定に続いて、管理者パスワードの設定画面が表示されます。
必要に応じて設定してください。（→ 148 ページ）
・「日付と時刻を設定してください。」のメッセージが表示されたときは、必ずタイムゾーンの設定および日付と時刻の設定をしてください。
また、メッセージが表示されない場合でも、上記の設定をすることをおすすめします。

［注意］

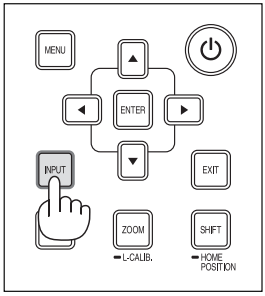
- 本機の電源が入っている間は、レンズからレンズキャップを外しておいてください。高温になりレンズキャップが変形します。
- 次のような場合は、POWER ON ボタンを押しても電源が入りません。
  ・内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待って（内部の温度が下がって）から電源を入れてください。
  ・POWER ON ボタンを押している間にステータスインジケーターがオレンジ色に点灯する場合は本体キーロックが設定されています。本体キーロックを解除してください。
- 電源インジケーターが青色で短い点滅をしているときは STANDBY ボタンを押しても電源は切れません（青色で長い点滅はオフタイマーを設定していますので電源は切れます）。
- 本機の動作温度内であっても、スリープ状態が長く続いた場合などに内部が高温になることがあります。このときに電源を入れると、まず冷却ファンのみが動作して、しばらくたってから映像が投写されます。

2-4. 入力信号を選択する

投写する信号を自動検出する

1. **本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。**
   ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

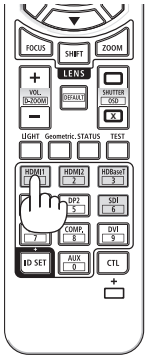
2. **INPUT ボタンを 1 秒以上押す。**
   入力端子画面が表示されます。
   HDMI 1 → HDMI 2 → HDBaseT → SDI の順に自動でチェックし、入力信号を検出すると、その信号を投写します。
   ・短く押すと、入力端子画面が表示されます。▲ / ▼ ボタンを押して目的の入力端子に合わせて、ENTER ボタンを押すと入力が切り替わります。
   入力端子画面のメニュー表示を消すには MENU ボタンまたは EXIT ボタンを押します。



リモコンのダイレクトボタンを押して選択する

1. **本機に接続しているコンピューターやブルーレイプレーヤーなどの電源を入れる。**
   ブルーレイプレーヤーなどの映像を投写するときは、再生（PLAY）操作をしてください。

2. **リモコンの HDMI1、HDMI2、HDBaseT、SDI ボタンを押す。**

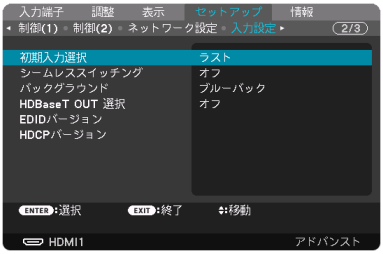


自動的に信号を選択する

入力信号を選択する操作を省略（自動化）することができます。

1. オンスクリーンメニューの「セットアップ」→「入力設定」→「初期入力選択」を選択する。

選択画面が表示されます。



2. 電源を入れたときに自動的に選択する信号を選択し、ENTER ボタンを押す。

次回本機の電源を入れたときに自動的に選択される信号として設定されます。

3. EXIT ボタンを 3 回押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

4. 本機の電源を入れなおす。

手順 2 で設定した信号が自動的に投写されます。

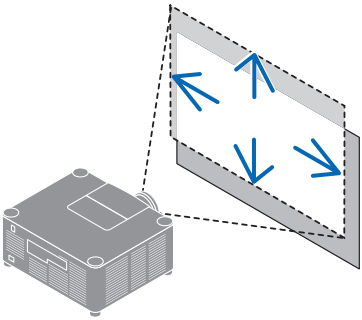
[参考]

- 信号が入力されていないときは、青い画面（ブルーバック）が表示されます（工場出荷時のメニュー設定時）。
  ブルーレイプレーヤーなどは再生（PLAY）操作をしてください。

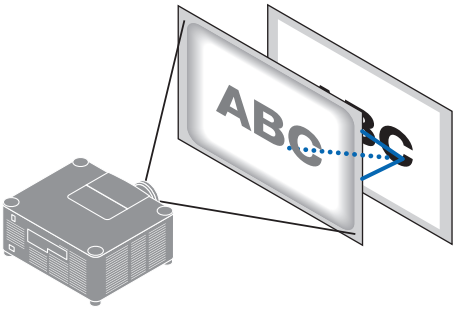
2-5. 投写画面の位置と大きさを調整する

レンズシフトやチルトフット、ズーム、フォーカスなどを操作して、投写画面の位置や大きさを調整します。
最適な投写状態になるまで、これらの調整を繰り返してください。

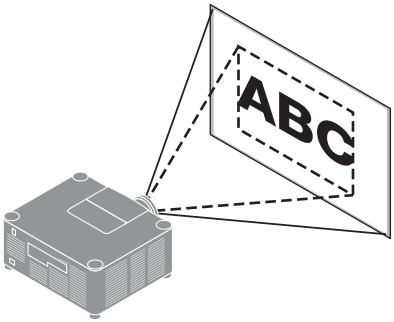
投写画面の上下・左右位置の調整
【レンズシフト】（→次ページ）



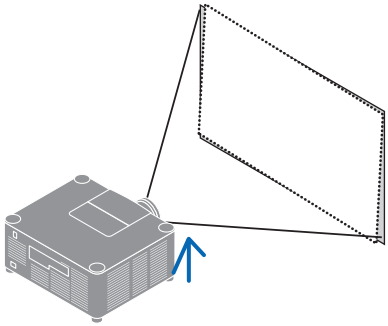
投写画面のフォーカス調整
【フォーカス】（→ 54 ページ）



投写画面の大きさの調整
【ズーム】（→ 56 ページ）



投写画面の傾き調整
【チルトフット】（→ 57 ページ）



※ここでは、本機に接続しているケーブル類を省略したイラストにしています。

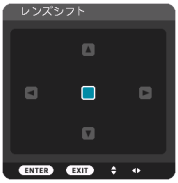
投写画面の位置の調整（レンズシフト）

⚠注意	● プロジェクターの後ろまたは横から調整してください。前面で調整すると強い光が目に入り、視力障害の原因となります。 ● レンズシフト動作中は、レンズユニット取り付け部の周囲に手を近づけないでください。 キャビネットとレンズユニットの隙間に指を挟むおそれがあります。

1. SHIFT/HOME POSITION ボタンを押す。

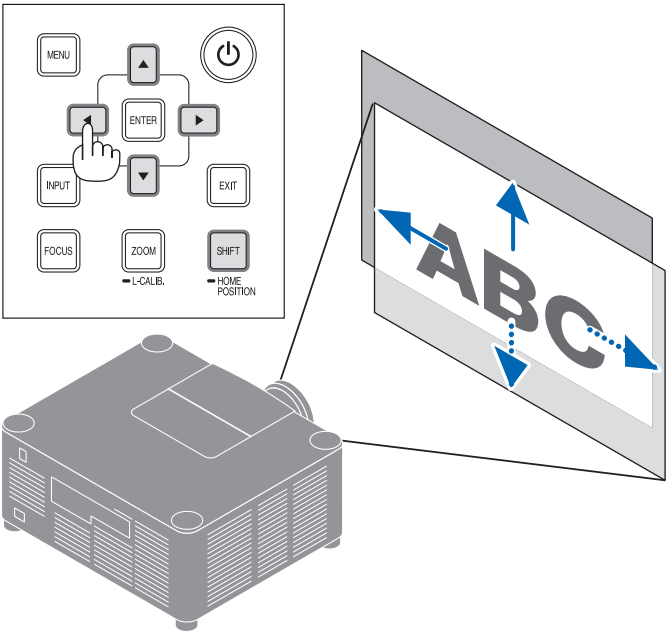
レンズシフト調整画面が表示されます。

・リモコンで操作する場合は SHIFT ボタンを押します。



2. ▼▲◀▶ボタンを押す。

矢印の方向に投写画面が移動します。



レンズシフトをホームポジションに戻す場合

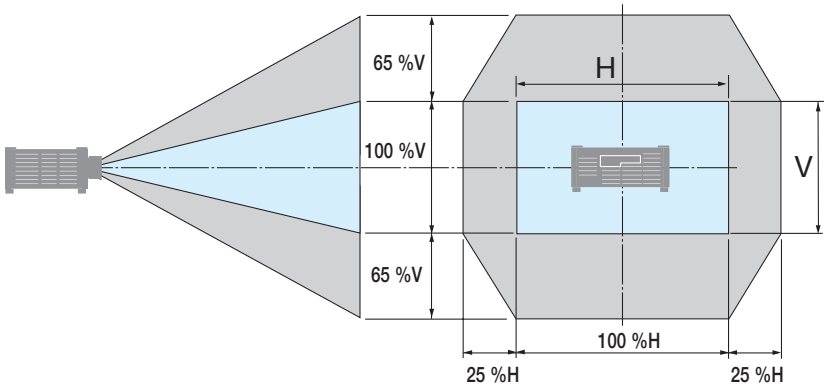
SHIFT/HOME POSITION ボタンを長押し（約 2 秒以上）すると本機のレンズ位置がホームポジション（ほぼ中心位置）に戻ります。

[注意]

- レンズシフトを斜め方向へ最大にすると、画面周辺が暗くなったり、影が出たりします。

[参考]

- 下図はレンズユニット XP-54ZL のレンズシフト調整範囲（投写方式：デスク／フロント）を示しています。



記号の意味：V は垂直（投写画面の高さ）、H は水平（投写画面の幅）を表し、レンズシフト範囲を高さおよび幅の比率で表しています。

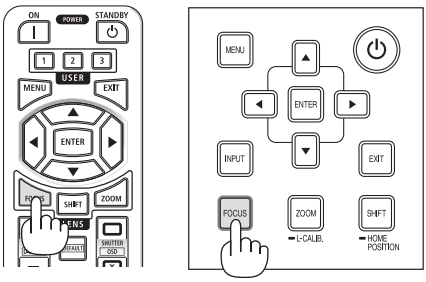
投写画面のフォーカス合わせ

フォーカスは、テストパターンを投写した状態で 30 分以上経過したのちに調整することをおすすめします。

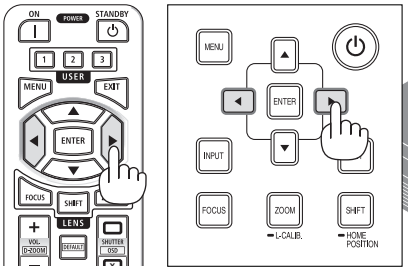
●適応レンズユニット：XP-51ZL/XP-52ZL/XP-53ZL/NP51ZL/NP52ZL/NP53ZL

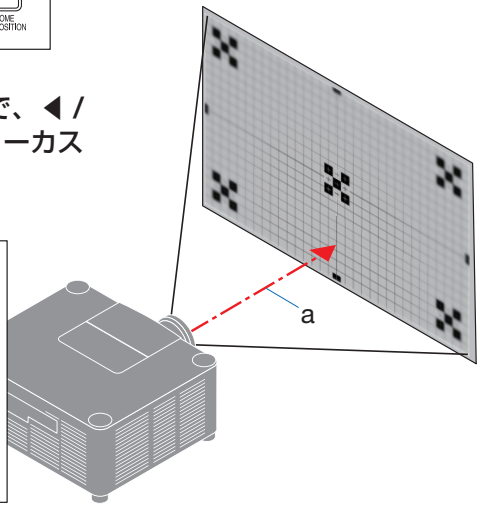
1. FOCUS ボタンを押す。

レンズフォーカス調整画面が表示されます。

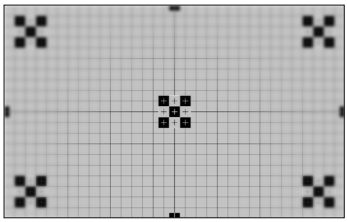


2. 「中央」にカーソルが合った状態で、◀ / ▶ボタンを押して光軸ⓐ付近のフォーカスを合わせる。



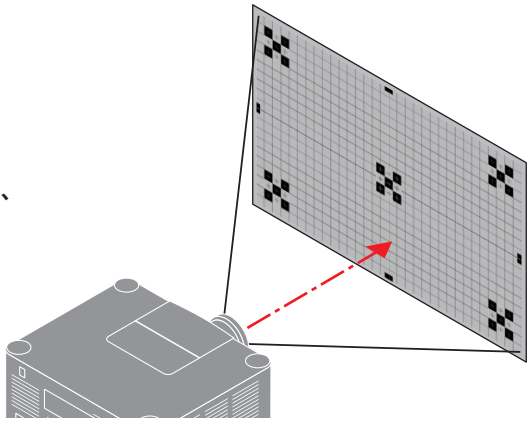


※ 図はレンズシフトを上方向へ移動しているときの例です。画面下側のフォーカスが合うように調整します。



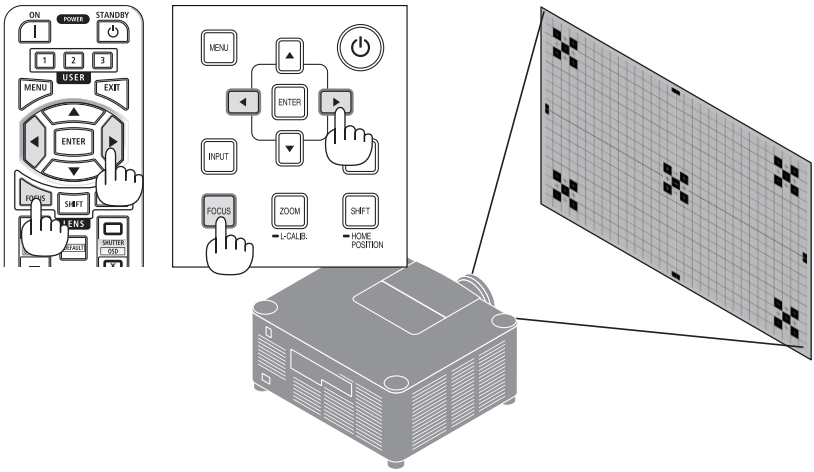
3. ▼ボタンを押して「周辺」にカーソルを合わせ、◀ / ▶ボタンを押して画面周辺のフォーカスを合わせる。

4. 画面全体のフォーカスが合うまで、手順 2 と 3 を繰り返す。



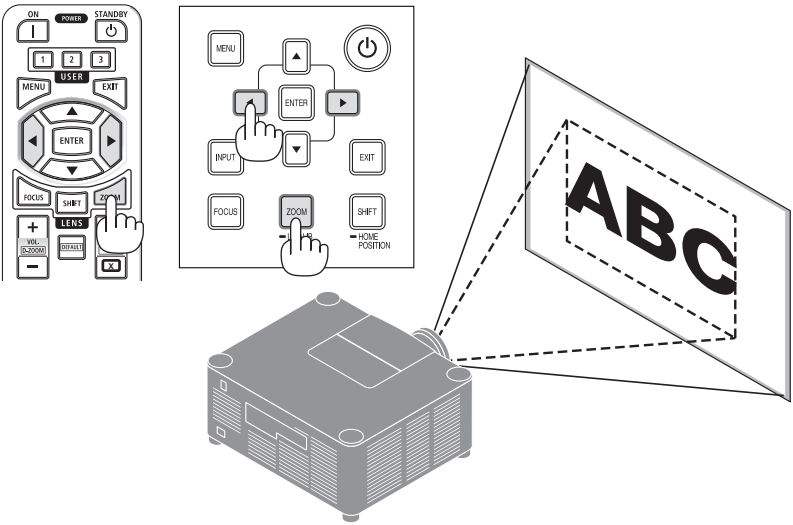
●適応レンズユニット：XP-54ZL/XP-55ZL/XP-56ZL/NP54ZL/NP55ZL/NP56ZL

1. FOCUS ボタンを押す。
   レンズフォーカス調整画面が表示されます。
   ◀ / ▶ボタンを押して、フォーカス（画面のピント）を調整します。
   ・「周辺」のフォーカス調整は無効です。



投写画面の大きさの調整（ズーム）

1. **ZOOM/L-CALIB. ボタンを短く押す。**
   ズーム調整画面が表示されます。
   ・リモコンで操作する場合は ZOOM ボタンを押します。
   ◀ / ▶ボタンを押して、ズームを調整します。



投写画面の高低と左右の傾き調整（チルトフット）

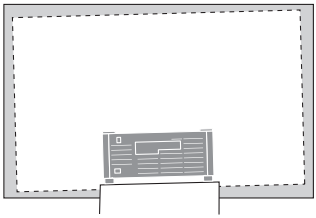
1. 4 箇所のチルトフットⓐを回して調整する。

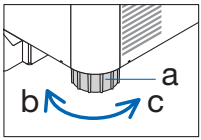
チルトフットを回すとチルトフットが伸縮します。

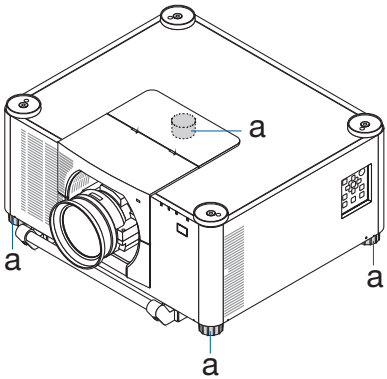
【投写画面の高低調整】
前方（2 箇所）または後方（2 箇所）のチルトフットを回して高さ調整をします。

【投写画面の傾き調整】
左右に傾いているときは、左側（2 箇所）または右側（2 箇所）どちらかのチルトフットを回して水平に調整します。

・チルトフットは、最大 46 mm 伸ばすことができます。
・チルトフットにより、本機を最大 4.5° 傾けることができます。







a：チルトフット / b：伸びる / c：縮む

[注意]

- チルトフットは 46 mm 以上伸ばさないでください。46 mm を超えるとチルトフットの取り付け部分が不安定になり、チルトフットが本体から外れます。
- チルトフットを調整する場合、前後 2 箇所のアジャスターを同時に伸ばし、荷重が均等にかかるようにしてください。いずれか 1 箇所のみを調整すると、荷重が均等にかからず、アジャスターが故障する原因となります。
- チルトフットは、本機の投写角度調整以外の用途には使用しないでください。
  チルトフット部分を持って運んだり、壁に掛けて使用するなどの誤った取り扱いをすると、故障の原因となります。

2-6. 映像や音声を調整する

映像を調整する

オンスクリーンメニューを表示して映像を調整します。（→ 95 ページ）

本機の音声出力を調整する

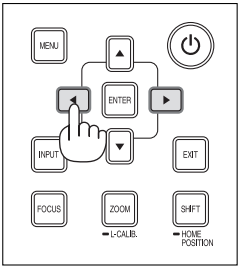
本機の音声出力端子から出力されている音声信号の音量を調整します。

[重要]

- 本機の音声出力端子に外部スピーカー機器を接続する場合は、外部スピーカー機器側の音量調整は最大で使用しないでください。外部スピーカー機器側の音量調整を上げすぎると、本機の電源を入れたり切ったりする際に突然大きな音が出る場合があり、聴力に悪影響を与えることがあります。
  外部スピーカー機器の音量を調整する場合は、外部スピーカー機器側の音量調整を定格の半分以下に設定して、本機の音量調整で適切な音量に調整することをおすすめします。

●本体の操作ボタンで調整する

1. **オンスクリーンメニューが表示されていないときに、◀ / ▶ボタンを押す。**
   音量調整バーが表示されます。
   ◀側…音量が小さくなります。
   ▶側…音量が大きくなります。

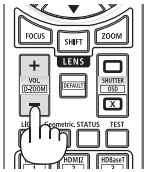


[注意]

- オンスクリーンメニューが表示されているとき、リモコンの CTL ボタンを押したまま VOL/D-ZOOM ＋ / － ボタンを押して画面を拡大しているときは、◀ / ▶ボタンを使った音量調整はできません。

●リモコンを使って調整する

1. **リモコンの VOL/D-ZOOM ＋ / － ボタンを押す。**
   音量調整バーが表示されます。
   ＋側…音量が大きくなります。
   －側…音量が小さくなります。



2-7. 本機の電源を切る

1. POWER STANDBY ボタンを押す。

画面に電源オフ確認メッセージが表示されます。

・電源オフ確認メッセージには今回の CO_2 削減量を表示します。

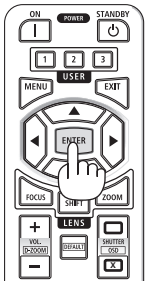
・本体で操作する場合は、⏻ ボタンを押します。

2. ENTER ボタンを押す。

光源が消灯し、電源が切れます。

・ENTER ボタンの代わりに、POWER STANDBY ボタンまたは本体の ⏻ ボタンを押しても、電源が切れます。

・電源を切らない場合は、◀ / ▶ボタンで「いいえ」を選んで ENTER ボタンを押します。



⚠ 注意	投写中および冷却ファン回転中に AC 電源を切断したときは、一時的に本体が高温になることがあります。取り扱いに注意してください。

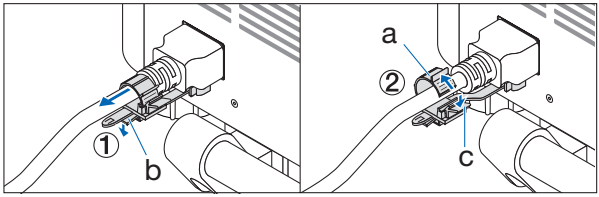
[注意]

- 電源インジケーターが青色で短い点滅をしているときは電源を切る操作をしても電源は切れません。
- 投写中は、本機やコンセントから電源コードを抜かないでください。本機の AC IN 端子や電源プラグの接触部分が劣化するおそれがあります。投写中に AC 電源を切断する場合は、ブレーカーなどを利用してください。
- 各種の調整をして調整画面を閉じたあと約 10 秒間は、AC 電源を切断しないでください。この間に AC 電源を切断すると、調整値が初期化されることがあります。

2-8. あとかたづけ

1. 電源コードを取り外す。

① 電源コードストッパーのツマミⓑを押し下げながら、適度な位置まで引きます。
② クランパー部ⓐのツマミⓒを押し下げてクランパー部を開き、電源コードを取り外します。



2. 各種信号ケーブルを取り外す。

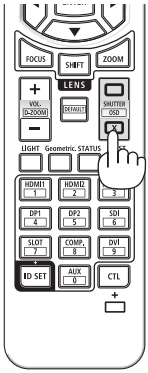
3. レンズにレンズキャップを取り付ける。

4. 移動させるとき、チルトフットを伸ばしていたら、もとに戻す。

3. 便利な機能

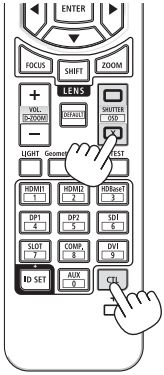
3-1. 投写光を消灯する（レンズシャッター）

1. **リモコンの SHUTTER CLOSE（[X]）ボタンを押す。**
   光源が消灯して、投写光が一時的に消えます。
   SHUTTER OPEN（▭）ボタンを押すと投写されます。
   設定により、投写光を徐々に明るくしていく（フェードイン）、徐々に暗くしていく（フェードアウト）ことができます。



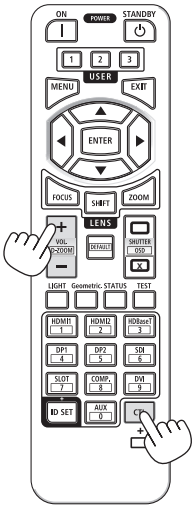
3-2. オンスクリーン表示を消去する（オンスクリーンミュート）

1. **リモコンの CTL ボタンを押したまま OSD CLOSE（[X]）ボタンを押す。**
   オンスクリーンメニューや入力端子などの表示が出なくなります。
   ・リモコンの CTL ボタンを押したまま OSD OPEN（▭）ボタンを押すと、オンスクリーン表示が出るようになります。



［参考］
- オンスクリーンミュートが有効になっているかは、MENU ボタンを押したときにオンスクリーンメニューが出ないことで確認できます。
- 電源を切っても、オンスクリーンミュートの状態は保持されます。
- 本体でオンスクリーンミュートを無効にするには、本体の MENU ボタンを 10 秒以上押し続けます。無効になると、入力端子のメニューが表示されます。

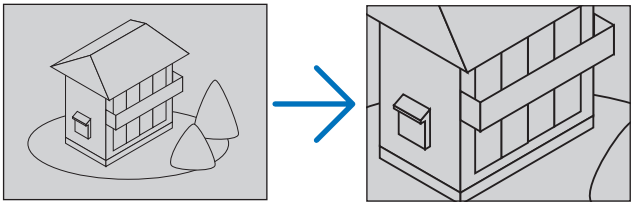
3-3. 映像の一部を拡大する (部分拡大)



1. リモコンの CTL ボタンを押したまま VOL/D-ZOOM ＋ ボタンを押す。

押すごとに映像が拡大します。

・最大 4 倍まで拡大できます。



2. ▼▲◀▶ボタンを押す。

拡大した映像の表示領域が移動します。

3. リモコンの CTL ボタンを押したまま VOL/D-ZOOM － ボタンを押す。

押すごとに映像が縮小します。

・ もとのサイズに戻ると、それ以上押しても縮小されません。

［参考］

- 拡大および縮小は、画面中央を中心にして拡大および縮小します。
- 映像を拡大しているときにオンスクリーンメニューを表示すると、拡大は解除されます。

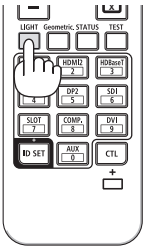
3-4. 輝度（明るさ）を調整する

本機は、使用目的などに合わせて、3 つの基準ライトモードを選択できます。
また、輝度を調整して、調整後の明るさを一定に保つように制御することができます。

<table>
<tr><th>機能</th><th>説明</th><th>参照ページ</th></tr>
<tr><td>基準ライトモード</td><td>すべての入力信号共通の設定として、基準ライトモードや輝度の調整値を保存します。
映像のモード（→ 110 ページ）が「スタンダード」のとき有効になります。
<table>
<tr><th>基準ライトモードの設定
（メニュー下部のアイコン表示）</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>ノーマル（表示なし）</td><td>標準的なモードです。
基準ライト調整で、出力を 70 ～ 100% の範囲で調整できます。</td></tr>
<tr><td>静音（表示なし）</td><td>動作音を下げることを優先するモードです。
基準ライト調整で、出力を 70 ～ 90% の範囲で調整できます。</td></tr>
<tr><td>長寿命（ ）</td><td>光学部品の寿命を延ばすことを優先するモードです。
基準ライト調整で、出力を 70 ～ 90% の範囲で調整できます。</td></tr>
</table></td><td>135</td></tr>
<tr><td>ライトモード</td><td>輝度を調整して、入力信号ごとに保存します。
映像のモード（→ 110 ページ）が「プロフェッショナル」のとき有効になります。</td><td>113</td></tr>
</table>

ライトモード画面を表示する

1. リモコンの LIGHT ボタンを押す。



【映像のモードが「スタンダード」のとき】
基準ライトモード画面が表示されます。

次ページに続く

【映像のモードが「プロフェッショナル」のとき】
ライトモード画面が表示されます。

ライト調整をする

ここでは、基準ライトモード画面で説明します。

1. **▼ボタンを押して「基準ライト調整」にカーソルを合わせる。**

2. **◀ / ▶ボタンを押して調整する。**
   MENU ボタンを押すとメニュー画面が消えます。

[参考]

- 輝度一定モードを「オン」に設定すると、ライト調整後の輝度（明るさ）を維持できます。

基準ライトモードを切り替える

1. **基準ライトモードにカーソルが合った状態で ENTER ボタンを押す。**
   基準ライトモード選択画面が表示されます。

2. **▼ / ▲ ボタンを押して選択し、ENTER ボタンを押す。**
   基準ライトモード画面に戻り選択したモードに切り替わります。
   MENU ボタンを押すとメニューが消えます。

[参考]

- ライト使用時間については、オンスクリーンメニューの情報→使用時間で確認できます。（→ 165 ページ）
- 本機に入力信号がない状態（ブルーバック、ブラックバック、またはロゴ表示のとき）のまま約 1 分経過すると、本機は省電力状態になり画面が暗くなります。その後、本機が入力信号を感知すると、もとの明るさに戻ります。

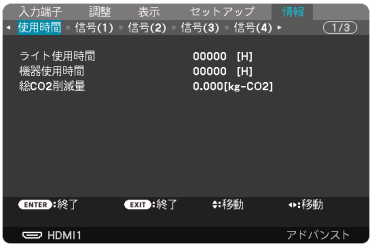
次ページに続く

- 使用環境の温度が高いと、本機の保護機能により一時的に輝度（明るさ）が下がることがあります。保護機能が働くと、TEMP. インジケーターと LIGHT インジケーターがオレンジ色に点灯してメニュー画面の右下に「🌡」アイコンが表示されます。室温を下げることにより本機内部の温度が下がると、もとの明るさに戻ります。

省エネ効果を見る（カーボンメーター）

本機の光源出力を下げて使用している期間の省エネ効果を CO_2 排出削減量で表示します。この表示を「カーボンメーター」と呼びます。

表示には「総 CO2 削減量」と「今回の CO2 削減量」があります。
「総 CO2 削減量」は本機の工場出荷時から現在までの CO_2 削減量（kg）を累積し、メニューの情報→使用時間に表示します。（→ 165 ページ）



「今回の CO2 削減量」は電源を入れてから電源を切るまでの CO_2 削減量（g）を、電源オフ時に表示される電源オフ確認メッセージ内に表示します。

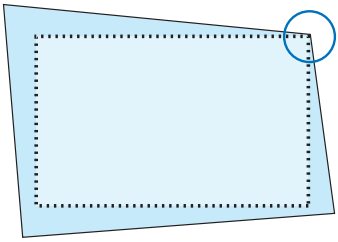
[参考]

- CO_2 排出削減量は、基準ライトモードを「ノーマル」、基準ライト調整を 100 に設定して使用したときの消費電力量（推定）から、実際に使用したときの消費電力量（推定）を差し引き、CO_2 排出係数を掛けて算出※します。
  ※ CO_2 削減量は、OECD（経済協力開発機構）から出版されている“CO_2 Emissions from Fuel Combustion”に基づいて算出しています。
- 「総 CO2 削減量」は 15 分単位で記録された値をもとにしています。
- 本機がスタンバイ状態のときの消費電力は、CO_2 排出削減量の計算から除外しています。

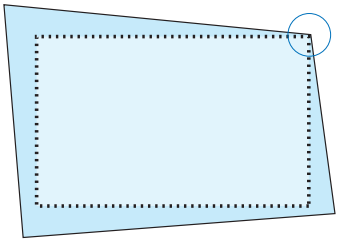
3-5. 台形の歪みを調整する（4 点補正）

台形補正の 4 点補正画面を表示して、投写画面の台形歪みを調整します。

1. スクリーンがすべて含まれるように、投写画面の範囲を調整する。



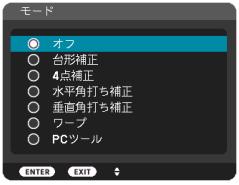
2. スクリーンと投写画面の角を合わせる（図は右上の角）。



3. リモコンの Geometric. ボタンを押す。
オンスクリーンメニューの幾何学補正画面を表示します。

4. ▼ボタンを押して「モード」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
モード選択画面に切り替わります。

5. ▼ボタンを押して「4 点補正」を選択し、ENTER ボタンを押す。
幾何学補正画面に戻ります。

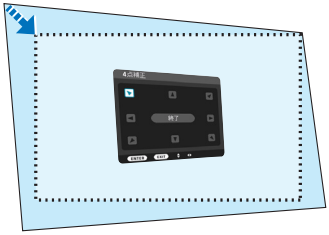


6. ▼ボタンを押して「4 点補正」に合わせ、ENTER ボタンを押す。
4 点補正画面に切り替わります。

7. ▼▲◀▶ボタンを押して、画面の外枠を動かしたい角の「▲」を選ぶ（図は左上の ）。

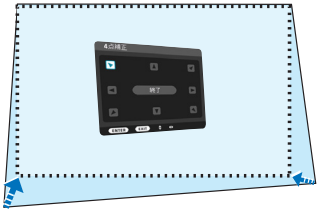
8. ENTER ボタンを押す。

9. ▼▲◀▶ボタンを押して、投写画面の角がスクリーンの角に近付くように動かす。

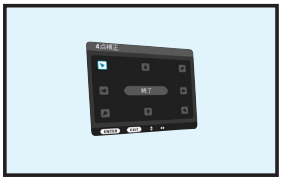


10. ENTER ボタンを押す。

11. ▼▲◀▶ボタンを押して、別の角の「▲」を選ぶ。



12. 手順 8 ～ 11 を繰り返し、台形歪みを調整する。



13. 台形歪みの調整が終わったら、4 点補正画面で「終了」を選んで、ENTER ボタンを押す。
調整終了画面が表示されます。

14. ◀ / ▶ボタンを押して「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
4 点補正の調整が確定されます。
・「取消」を選択して ENTER ボタンを押すと、4 点補正画面に戻ります。

[注意]

- 本機の電源を入れたとき、本機の傾きを変えても前回使用時の 4 点補正の調整値を保持しています。
- 4 点補正の調整値をクリアする場合は、次のいずれかの操作をします。
  - ・手順 14 で「リセット」を選び、ENTER ボタンを押します。
  - ・オンスクリーンメニューの表示→幾何学補正→モードが「4 点補正」に設定されている状態でリモコンの Geometric. ボタンを 2 秒以上押します。
  - ・オンスクリーンメニューの表示→幾何学補正→モードが「4 点補正」に設定されている状態で表示→幾何学補正→リセットを実行します。
- 4 点補正は電気的な補正をしているため、輝度の低下や画質の劣化が現れる場合があります。
- 市販の USB マウスを接続して 4 点補正ができます（→次ページ）。

3-6. 市販の USB マウスを接続してメニュー操作をする

本機の USB-A ポートに市販の USB マウスを接続すると、オンスクリーンメニューの操作や投写画面の幾何学補正を簡単にすることができます。

[注意]

- 市販されているすべての USB マウスの動作を保証するものではありません。

メニュー操作

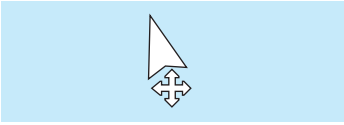
1. **右クリックしてオンスクリーンメニュー表示する。**

2. **左クリックして項目の選択や調整をする。**
   調整バーはドラッグ・アンド・ドロップでも操作できます。

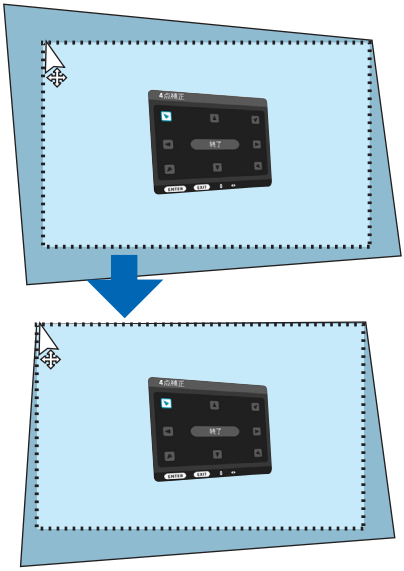
3. **メニュー画面下部の [EXIT：終了] を左クリックして前の階層のメニューに戻る。**
   メインメニューにカーソルがあるときは、メニューを閉じます（リモコンの EXIT ボタンと同じ動作をします）。

幾何学補正

4 点補正、水平角打ち補正、垂直角打ち補正、ワープの調整ができます。
ここでは 4 点補正の場合で説明します。



1. **4 点補正の調整画面を表示中に、投写画面上で右クリックする。**
   マウスポインターが幾何学補正用の形状に変わります。
2. **スクリーンの角で左クリックする。**
   投写画面の角がクリックした位置に移動します。



3. **手順 2 を繰り返し、歪みの調整が終わったら、投写画面上で右クリックする。**
   マウスポインターが通常の形状に戻ります。
4. **調整画面の「終了」を左クリックして終了する。**

3-7. スタートアップロックを設定して無断使用を防止する

スタートアップロックキーワードを登録することで、本機を無断で使用されないようにすることができます。
スタートアップロックを有効に設定すると、本機の電源を入れたときにスタートアップロックキーワード入力画面が表示され、正しいキーワードを入力しなければ投写できなくなります。

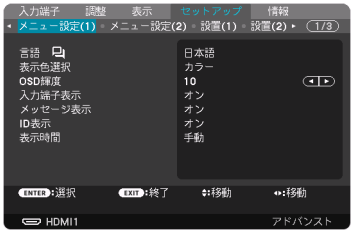
[注意]

- キーワードを入力する時に、周囲の人にキーワードを盗み見られて悪用されないように、キーワードの入力に細心の注意を払ってください。
  もし盗み見られたと思った場合は、速やかにキーワードを変更してください。

スタートアップロックを有効にする

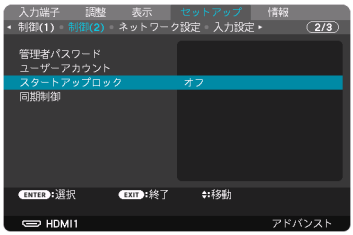
1. MENU ボタンを押す。
オンスクリーンメニュー画面が表示されます。

2. ▶ボタンで「セットアップ」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
「メニュー設定（1)」にカーソルが移動します。



3. ▶ボタンを押して「制御 (2)」にカーソルを合わせる。

4. ▼ボタンを押して「スタートアップロック」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
管理者パスワード（→ 148 ページ）の設定と状態により、パスワード入力画面が表示されます。
・ログアウトしている場合は、管理者パスワードを入力してください。
・未設定の場合は、管理者パスワードを設定してください。
スタートアップロック設定画面が表示されます。



5. ▼ボタンで「オン」を選択し、ENTER ボタンを押す。
スタートアップロックキーワード入力画面が表示されます。

6. ▼▲◀▶ボタンの組み合わせでスタートアップロックキーワードを入力し、ENTER ボタンを押す。

入力したキーワードは「＊」で表示されます。

キーワードは 4 個以上 10 個以下の組み合わせで設定してください。

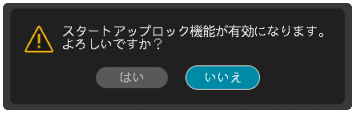
[重要]

- キーワードは、忘れないように必ずメモしておいてください。

キーワードの再入力画面が表示されます。

7. 6 で設定したスタートアップロックキーワードを再入力し、ENTER ボタンを押す。

確認画面が表示されます。



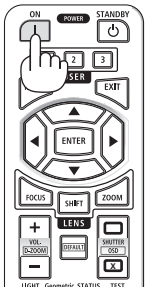
8. ◀ボタンで「はい」を選択し、ENTER ボタンを押す。

スタートアップロックが有効になります。

スタートアップロックを有効にしているときの電源の入れかた

1. POWER ON ボタンを押す。

本機の電源が入り、「スタートアップロック中です。キーワードを入力してください。」のメッセージが表示されます。



2. MENU ボタンを押す。

スタートアップロックキーワード入力画面が表示されます。

3. スタートアップロックキーワードを入力し、ENTER ボタンを押す。

入力したキーワードは「＊」で表示されます。スタートアップロックが一時的に解除され、選択している信号が投写されます。

[注意]

- スタートアップロックの解除状態は、AC 電源を切断するまで保持されます。

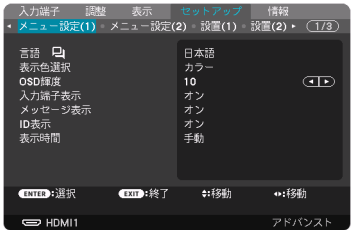
スタートアップロックを無効にする

1. MENU ボタンを押す。

メニュー画面が表示されます。

2. ▶ボタンで「セットアップ」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

「メニュー設定（1)」にカーソルが移動します。

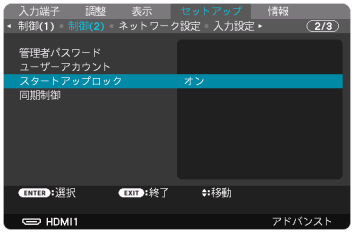


3. ▶ボタンを押して「制御 (2)」にカーソルを合わせる。

4. ▼ボタンを押して「スタートアップロック」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

・管理者パスワード（→ 148 ページ）を設定していて、ログアウトしている場合は、パスワード入力画面が表示されます。管理者パスワードを入力してください。

スタートアップロック設定画面が表示されます。



5. ▲ボタンで「オフ」を選択し、ENTER ボタンを押す。

スタートアップロックが無効になります。

3-8. HTTP を使用したウェブブラウザーによる操作

概要

ウェブブラウザーで本機の HTTP サーバー画面を表示して、コンピューターやスマートフォンで本機を操作することができます。

● HTTP サーバー画面でできること

- 本機の操作
  本機の電源のオン／オフ、入力端子の切り替え、レンズ制御などができます。
- 映像や投写画面の調整
  明るさなどの映像調整、幾何学補正、エッジブレンディングなどができます。
- ネットワーク設定（スマートフォンは非対応）
  本機をネットワーク（有線 LAN）に接続して使用する際の設定をします。
  また、各種コントロールシステムとの接続の設定をします。
- ユーザーアカウントのパスワード変更
- バックグラウンドロゴの登録（スマートフォンは非対応）

設定や調整の内容については、オンスクリーンメニューの説明をご覧ください。

[重要]

- 工場出荷時は、有線 LAN の設定が無効になっています。ネットワークに接続するには、有線 LAN の設定を「無効」から「プロファイル 1」または「プロファイル 2」に変更して、有線 LAN を有効にしてください。
- ご購入後はじめて有線 LAN を設定するときは、管理者パスワードを設定してください。（→ 148 ページ）

● HTTP サーバー画面を表示するには

コンピューターの場合

1. 本機とコンピューターを市販の LAN ケーブルで接続する。（→ 179 ページ）
2. オンスクリーンメニューの「セットアップ」→「ネットワーク設定」→「有線 LAN」を選択し、ネットワークの設定をする。（→ 153 ページ）
3. コンピューターのウェブブラウザーを起動し、アドレスまたは URL の入力欄へ「http://〈本機の IP アドレス〉/index.html」と指定する。
   HTTP サーバー画面が表示されます。

スマートフォンの場合

1. 本機と無線 LAN 対応ルーターを市販の LAN ケーブルで接続する。
2. オンスクリーンメニューの「セットアップ」→「ネットワーク設定」→「有線 LAN」を選択し、ネットワークの設定をする。（→ 153 ページ）
3. スマートフォンのネットワーク設定をして、本機と接続できるようにする。
4. ウェブブラウザーを起動し、アドレスまたは URL の入力欄へ「http://〈本機の IP アドレス〉/index.html」と指定する。
   HTTP サーバー画面が表示されます。

[注意]

- 本機をネットワーク環境で使用する場合は、必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。
- ご使用のネットワーク環境によっては、表示速度やボタンの反応が遅くなったり、操作を受け付けなかったりすることがあります。その場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。
  また続けてボタン操作をするとプロジェクターが応答しなくなることがあります。その場合はしばらく待ってから再度操作してください。しばらく待っても応答がない場合は、本機の電源を入れなおしてください。
- ウェブブラウザーでネットワーク設定画面が表示されない場合は、Ctrl + F5 キーを押してウェブブラウザーの画面表示を更新してください。
- 本機は「JavaScript」および「Cookie」を利用していますので、これらの機能が利用可能なようにブラウザーを設定してください。設定方法はバージョンにより異なりますので、それぞれのソフトにあるヘルプなどの説明を参照してください。

使用前の準備

ウェブブラウザーによる操作の前にあらかじめ本機に市販の LAN ケーブルを接続してください。（→ 179 ページ）
プロキシサーバーの種類や設定方法によっては、プロキシサーバーを経由したウェブブラウザー操作ができないことがあります。プロキシサーバーの種類にもよりますがキャッシュの効果により実際に設定されているものが表示されない、ウェブブラウザーから設定した内容が反映しないなどの現象が発生することがあります。プロキシサーバーはできるだけ使用しないことを推奨します。

ウェブブラウザーによる操作のアドレスの扱い

ウェブブラウザーによる操作に際しアドレスまたは URL 欄に入力する実際のアドレスについてネットワーク管理者によってドメインネームサーバーへ本機の IP アドレスに対するホスト名が登録されている場合、または使用しているコンピューターの「HOSTS」ファイルに本機の IP アドレスに対するホスト名が設定されている場合には、ホスト名がそのまま利用できます。

（例 1）本機のホスト名が「pj.sharp.co.jp」と設定されている場合
ネットワーク設定へのアクセスはアドレスまたは URL の入力欄へ
http://pj.sharp.co.jp/index.html　と指定します。

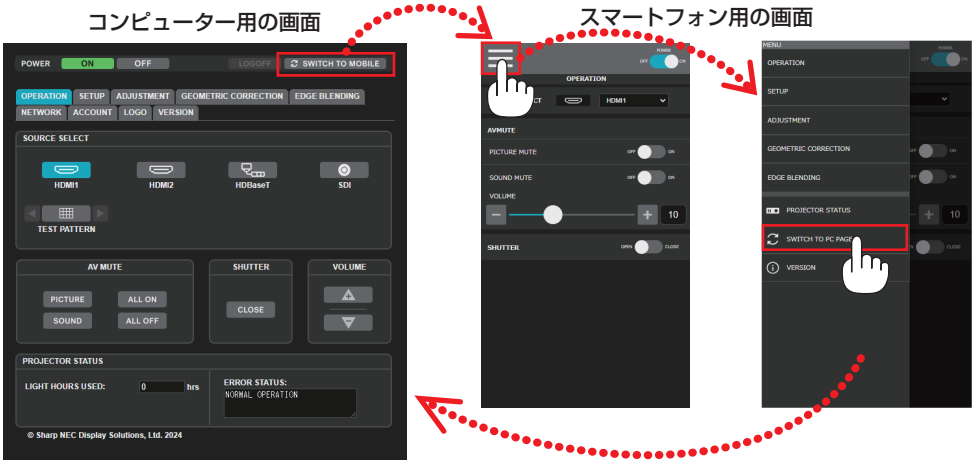
（例 2）本機の IP アドレスが「192.168.73.1」の場合
ネットワーク設定へのアクセスはアドレスまたは URL の入力欄へ
http://192.168.73.1/index.html　と指定します。

HTTP サーバー画面

使用している端末の画面サイズを自動判別して、コンピューター用の画面またはスマートフォン用の画面を表示します。

コンピューター用の画面とスマートフォン用の画面は、手動で切り替えることもできます。

- コンピューター用からスマートフォン用に表示を切り替える場合
  画面右上の SWITCH TO MOBILE ボタンを押します。
- スマートフォン用からコンピューター用に表示を切り替える場合
  画面左上のメニューボタンを押して SWITCH TO PC PAGE を選択します。



バックグラウンドロゴの登録

画像をプロジェクターへ送信して、バックグラウンドロゴとして登録することができます。（スマートフォンは非対応）

コンピューター用の HTTP サーバー画面で LOGO のタブを表示して、「SELECT FILE」で表示したい画像ファイルを選択し、「UPDATE」を実行します。

ロゴ画像の条件
＊ファイルサイズ：256 キロバイト以内
＊画像サイズ：本機の解像度以内
＊ファイル形式：PNG（フルカラー）

登録後、オンスクリーンメニューのセットアップ→入力設定→バックグラウンドを「ロゴ」に設定すると、無信号時の背景に画像を表示します。
ロゴ画像は中央に表示され、周囲は黒色になります。

3-9. レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を保存する（レンズメモリー）

スクリーンへの投写位置、大きさ（レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値）を本機のメモリーに保存することができます（レンズメモリー機能）。保存したレンズメモリーを呼び出すと自動的に調整します。レンズメモリー機能には 2 つの保存方法があります。

機 能	説 明	参照ページ
基準レンズメモリー	すべての入力信号共通の調整値です。本機を設置するときに使い、2 種類の調整値を記録することができます。 レンズメモリーに調整値が保存されていない場合は、選択されているプロファイルの調整値（基準レンズメモリー）でレンズを調整します。	137
レンズメモリー	入力信号ごとの調整値として保存されます。 アスペクト比や解像度などが異なる入力信号のときに使います。 入力信号を切り替えたときレンズメモリーに保存している調整値でレンズを調整することもできます。	120

[注意]

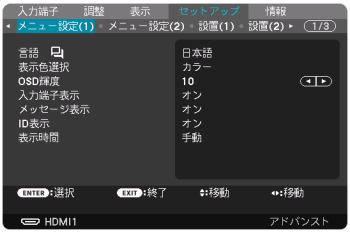
- レンズユニットを交換したあとは、必ずレンズキャリブレーションをしてください。（→ 47, 138 ページ）

レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を保存する

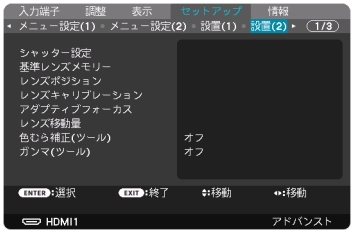
準備：投写画面の位置と大きさを調整してください。（→ 51 ページ）ここでは、基準レンズメモリーで説明します。

1. MENU ボタンを押す。
オンスクリーンメニュー画面が表示されます。

2. ▶ボタンを押して「セットアップ」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
「メニュー設定（1）」にカーソルが移動します。

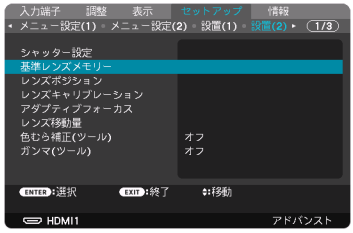


3. ▶ボタンを押して「設置（2)」にカーソルを合わせる。



4. ▼ボタンを押して「基準レンズメモリー」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

基準レンズメモリー設定画面が表示されます。



5. 「プロファイル」にカーソルがあることを確認して、ENTER ボタンを押す。

プロファイル選択画面が表示されます。

6. ▲ / ▼ボタンを押して登録するプロファイル番号にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

基準レンズメモリー設定画面に戻ります。

7. ▼ボタンを押して「登録」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

確認画面を表示します。

8. ◀ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値が選択したプロファイル番号に上書き保存されます。

9. MENU ボタンを押す。

オンスクリーンメニュー画面が消えます。

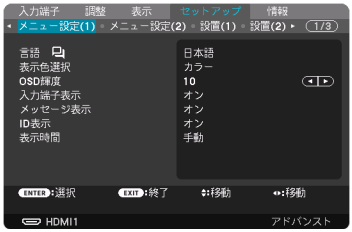
[参考]

- レンズメモリーに保存する場合は、オンスクリーンメニューの調整→レンズメモリーの「登録」を実行してください。（→ 120 ページ）

基準レンズメモリーを呼び出す

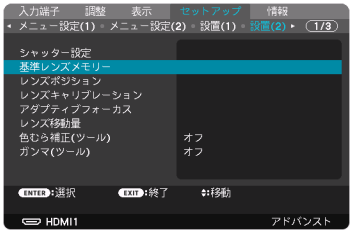
1. **MENU ボタンを押す。**
   オンスクリーンメニュー画面が表示されます。

2. **▶ボタンを押して「セットアップ」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   「メニュー設定（1)」にカーソルが移動します。



3. **▶ボタンを押して「設置（2)」にカーソルを合わせる。**

4. **▼ボタンを押して「基準レンズメモリー」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   基準レンズメモリー設定画面が表示されます。



5. **「プロファイル」にカーソルがあることを確認して、ENTER ボタンを押す。**
   プロファイル選択画面が表示されます。

6. **▲/▼ボタンを押して呼び出したいプロファイル番号にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   基準レンズメモリー設定画面に戻ります。

7. **▼ボタンを押して「移動」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   確認画面を表示します。

8. **◀ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   選択したプロファイルに登録されている調整値にレンズが移動します。

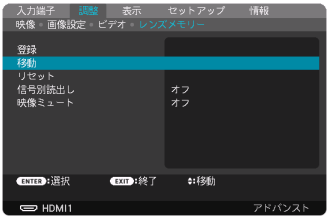
9. **MENU ボタンを押す。**
   オンスクリーンメニュー画面が消えます。

[参考]

● **レンズメモリーを直接呼び出すには**

① オンスクリーンメニューの調整→レンズメモリーの「移動」を選択し、ENTER ボタンを押してください。
確認画面を表示します。

② ◀ボタンで「はい」を選択し、ENTER ボタンを押します。
投写中の入力信号の調整値が保存されていれば、レンズが移動します。保存されていない場合は、基準レンズメモリーの選択されているプロファイル番号の調整値に移動します。



● **レンズメモリーの調整値を自動で呼び出すには**

① 前ページ「基準レンズメモリーを呼び出す」の手順 7 のときに「信号別読出し」を選択し、ENTER ボタンを押します。
信号別読出し画面を表示します。

② ▼ボタンを押して「オン」を選択し、ENTER ボタンを押します。
これで、保存済みの入力信号に切り替えると自動でレンズが移動します。

[注意]

● レンズメモリー機能は、保存された各調整状態を完全に再現するものではありません。レンズメモリーの呼び出し操作後、状態に合わせ、レンズシフト、ズーム、およびフォーカス位置の微調整を実施してください。

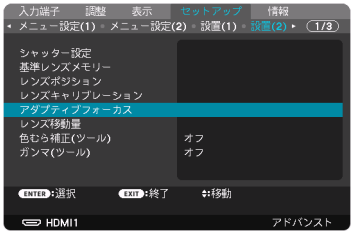
3-10. フォーカスのずれを自動補正する（アダプティブフォーカス）

投写する映像の種類やシャッターの開閉などによって、画面の明るさは変化します。これにより発生する投写レンズ内部の温度変化が影響して、フォーカスが最適な位置からずれてしまうことがあります。アダプティブフォーカス機能を使うと、フォーカスを自動補正してずれを軽減できます。（→ 138 ページ）

アダプティブフォーカスを有効にする

準備：・レンズキャリブレーションを実行してください。
・テストパターンや映像を投写して 20 分程度おき、状態が安定してからフォーカスを合わせてください。

1. **MENU ボタンを押してオンスクリーンメニューを表示し、「セットアップ」→「設置（2)」を選択する。**
2. **▲ / ▼ボタンで「アダプティブフォーカス」を選択し、ENTER ボタンを押す。**



3. **「有効」を選択し、ENTER ボタンを押す。**

4. **▲ / ▼ボタンで「オン」を選択し、ENTER ボタンを押す。**
確認画面が表示されます。

5. **◀ボタンで「はい」を選択し、ENTER ボタンを押す。**
アダプティブフォーカスが有効になり、現在のフォーカス調整値を記憶します。この調整値に合わせてフォーカスが自動調整されます。

6. **MENU ボタンを押す。**
オンスクリーンメニュー画面が消えます。

- アダプティブフォーカスを有効にすると、フォーカス（中央／周辺）とズームは操作できなくなります。
- 本体またはリモコンの FOCUS ボタンを 10 秒以上押しても、アダプティブフォーカスを「オフ」にできます。

4. マルチスクリーン投写

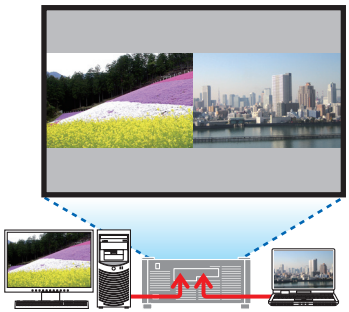
本機では、単体または複数台を並べてマルチスクリーン投写ができます。

4-1. マルチスクリーン投写でできること

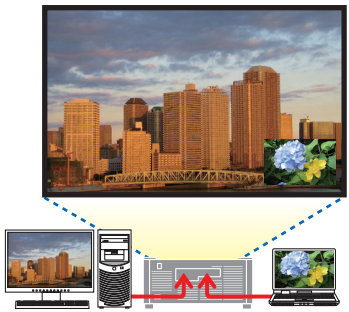
ケース 1. 1 台のプロジェクターを使って 2 種類の映像を投写する（PIP/PICTURE BY PICTURE）

●接続例と投写イメージ

PICTURE BY PICTURE の場合

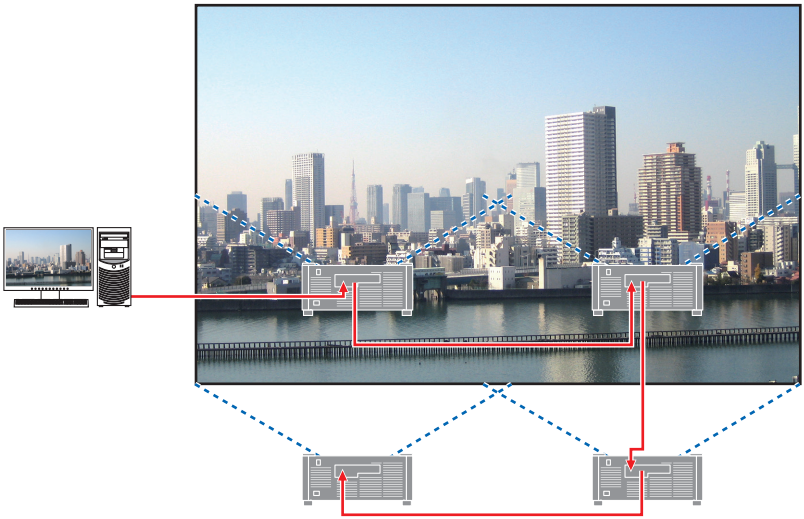


PIP の場合



ケース 2. 複数のプロジェクターを並べて、解像度の高い映像をさらに大画面で投写する（タイリング）

●接続例と投写イメージ



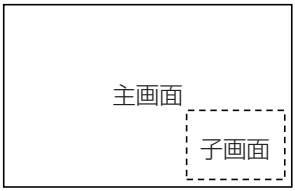
4-2. 1 台のプロジェクターを使って 2 種類の映像を投写する（PIP/PICTURE BY PICTURE）

本機 1 台で 2 つの映像を同時に投写することができます。この機能には「ピクチャーインピクチャー機能」と「ピクチャーバイピクチャー機能」があります。
1 画面表示の投写映像を主画面（メイン）、あとから呼び出した投写映像を子画面または副画面（サブ）と呼びます。
どちらの機能で投写するかは、オンスクリーンメニューの表示→ PIP/PICTURE BY PICTURE →モードで選択します（工場出荷状態は子画面設定（PIP）です）。（→ 123 ページ）
・ 電源を入れたときは 1 画面投写です。

●ピクチャーインピクチャー機能

主画面の中に小さな子画面を表示します。
子画面は次の設定・調整ができます。（→ 123 ページ）

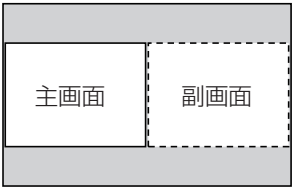
・ スクリーンの左上、右上、右下および左下の 4 つの位置から 1 つ選んで表示（子画面の大きさ選択および位置の微調整可能）
・ 主画面と子画面を入れ替える表示切り替え



●ピクチャーバイピクチャー機能

主画面と副画面を左右に並べて表示します。
主画面と副画面は次の設定・調整ができます。
（→ 123、124 ページ）

・ 主画面と副画面の表示境界（比率）の選択
・ 主画面と副画面の入れ替え



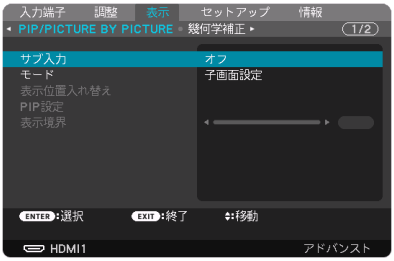
●主画面および子画面（または副画面）にできる入力端子

主画面および子画面（または副画面）は次の入力端子の投写ができます。
・ 主画面および子画面（または副画面）は、WUXGA @60HzRB までのコンピューター信号に対応しています。

		子画面または副画面			
		HDMI1	HDMI2	HDBaseT	SDI
主画面	HDMI1	×	○	○	○
	HDMI2	○	×	○	○
	HDBaseT	○	○	×	○
	SDI	○	○	○	×

[注意]
●解像度によって表示できない信号があります。

2 画面を投写する



1. **MENU ボタンを押してオンスクリーンメニューを表示し、「表示」→「PIP/PICTURE BY PICTURE」を選択する。**

2. **▲ / ▼ ボタンでサブ入力を選択し、ENTER ボタンを押す。**
   サブ入力画面を表示します。

3. **▲ / ▼ ボタンで入力信号を選択し、ENTER ボタンを押す。**
   モードで設定している「子画面設定」（ピクチャーインピクチャー）または「PICTURE BY PICTURE」（ピクチャーバイピクチャー）画面が投写されます。（→ 123 ページ）
   ・信号名が薄く表示されているときは、選択できないことを表しています。

4. **MENU ボタンを押す。**
   オンスクリーンメニューが消えます。

5. **1 画面に戻したい場合は、もう一度 PIP/PICTURE BY PICTURE 画面を表示し、手順 3 のサブ入力画面のとき「オフ」を選択する。**

[参考]

- 2 画面を投写中、子画面（副画面）に対応していない入力が選択された場合は子画面（副画面）を黒い画面で表示します。

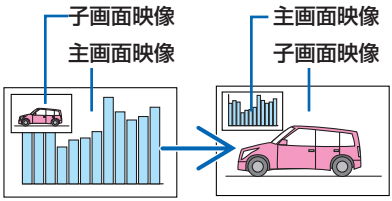
主画面と子画面／主画面と副画面を入れ替える

1. **MENU ボタンを押してオンスクリーンメニューを表示し、「表示」→「PIP/PICTURE BY PICTURE」を選択する。**

2. **▲ / ▼ボタンで「表示位置入れ替え」を選択し、ENTER ボタンを押す。**
   表示位置入れ替え画面を表示します。

3. ▼ボタンで「オン」を選択し、ENTER ボタンを押す。

主画面と子画面（または副画面）の映像が入れ替わります。
表示位置を入れ替えても HDBaseT OUT ポートから出力される信号は入れ替わりません。



4. MENU ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

制限事項

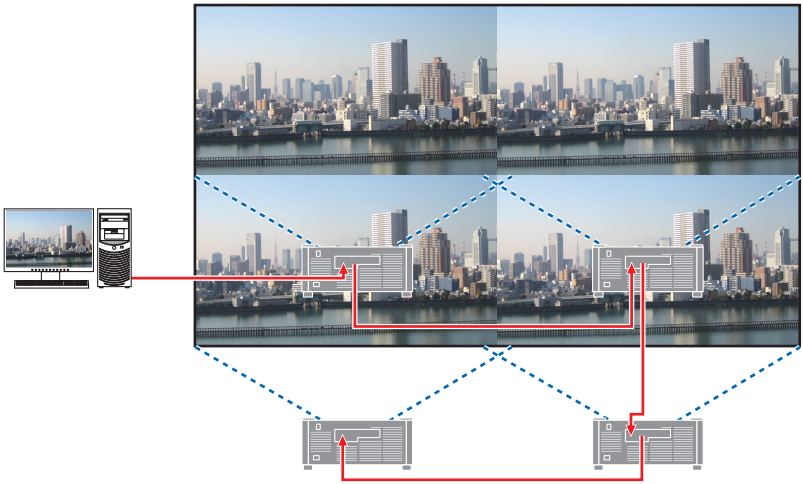
- 次の操作は、主画面のみ有効です。
  - 映像または音声の各種調整
  - VOL/D-ZOOM ＋ / －ボタンによる映像の拡大／縮小
    ただし、PICTURE BY PICTURE の表示境界で設定した位置までの拡大 / 縮小です。
  - テストパターン
- HDBaseT OUT ポートは、リピーター機能を有してします。出力される解像度は、接続したモニター、プロジェクターの最大解像度に制限されます。

4-3. 複数のプロジェクターを並べて、解像度の高い映像をさらに大画面で投写する（タイリング）

ここでは、4 台のプロジェクターを使って、解像度 3840 × 2160（4K UHD）の映像を投写する場合の手順を説明します。

準備：

- プロジェクター 4 台を、縦横に 2 台ずつ並べて設置します。
  映像出力機器とプロジェクターを接続します。（→ 180、181 ページ）
  すべての機器の電源を入れて、4 つの同じ映像を投写します。



- 1 個のリモコンで設定・調整する場合は、コントロール ID を有効にします。
  （→ 144 ページ）
  それぞれのプロジェクターに ID を割り振って、リモコンで ID を切り替えながら、1 台ずつ設定・調整します。
  すべての設定・調整が終わった後は、同期制御機能を使って、1 個のリモコンで 4 台のプロジェクターを同時に操作することもできます。（→ 93, 150 ページ）

[注意]

- ブルーレイプレーヤー（またはコンピューター）のカラー設定、DeepColor 設定は、自動に設定してください。詳しくはブルーレイプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイプレーヤー（またはコンピューター）の HDMI 信号は、1 台目のプロジェクターに接続してください。そして、タイリングする 2 台目以降のプロジェクターの HDBaseT IN ポートに接続してください。
- 2 台目以降のプロジェクターの端子切り替えや LAN ケーブルの抜き差しをすると、HDBaseT リピーター機能が動作しなくなります。

タイリングを設定する

1. MENU ボタンを押してオンスクリーンメニューを表示し、「表示」→「映像設定」→「モード」を選択する。

モード選択画面を表示します。

2. ▼ / ▲ボタンで「タイリング」を選択し、ENTER ボタンを押す。

映像設定画面に戻ります。

3. ▼ / ▲ボタンで「タイリング」を選択し、ENTER ボタンを押す。

タイリング設定画面を表示します。

4. 横台数、縦台数、横順番、縦順番を設定する。

1. 横台数設定画面で「2 台」を選択する。（横方向の台数）
2. 縦台数設定画面で「2 台」を選択する。（縦方向の台数）
3. 横順番設定画面で「1 台目」または「2 台目」を選択する。（スクリーンを見て、左側が「1 台目」、右側が「2 台目」）
4. 縦順番設定画面で「1 台目」または「2 台目」を選択する。（スクリーンを見て、上側が「1 台目」、下側が「2 台目」）

1 ～ 4 の設定が終わると、1 つの映像が画面いっぱいに投写されます。

5. MENU ボタンを押す。

オンスクリーンメニューが消えます。

投写画面の境界を目立たなくさせるには、エッジブレンディングで調整してください。
（→次ページ）

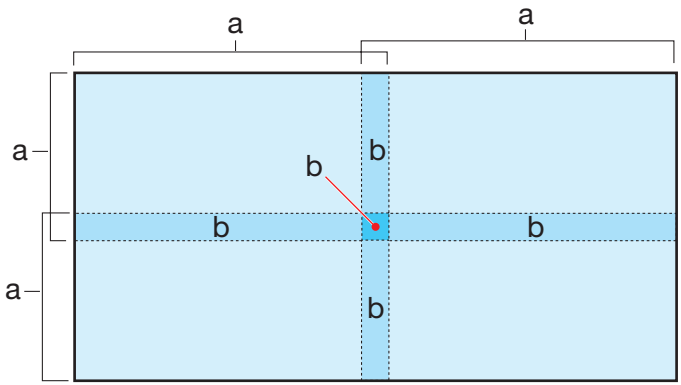
4-4. 投写画面の境界を調整する（エッジブレンディング）

本機には、投写画面の端（境界）を目立たなくさせる「エッジブレンディング機能」を搭載しています。

[重要]

- エッジブレンディングを調整する前に、台形歪みや画面サイズが適切になるような位置に本機を設置して、レンズシフト、フォーカス、ズームの調整をしてください。
- 各プロジェクターの明るさを基準ライトモードの「基準ライト調整」で合わせてください。
  また、「基準ホワイトバランス」でコントラスト、明るさ、ユニフォミティを合わせてください。

ここでは、プロジェクター 4 台を縦横に 2 台ずつ並べた場合で説明します。

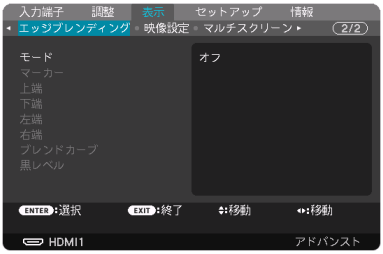


a：投写画面 / b：エッジブレンディング部分

投写画面の重なりを設定する

1. メニューで「エッジブレンディング」を有効にする。

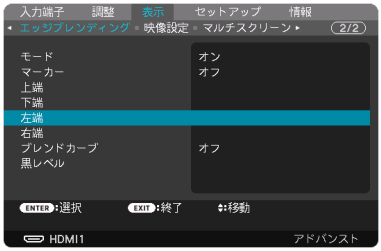
① MENU ボタンを押します。
オンスクリーンメニューを表示します。



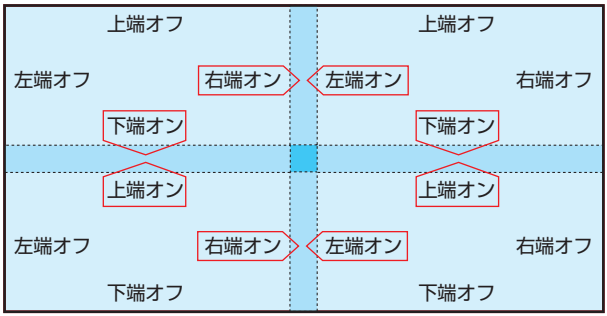
② 「表示」の「エッジブレンディング」を選択します。
「エッジブレンディング」画面が表示されます。
「モード」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
モード画面が表示されます。

③ 「モード」を「オン」にしてエッジブレンディングの機能を有効にします。

・「マーカー」「上端」「下端」「左端」「右端」「ブレンドカーブ」「黒レベル」の項目が調整可能になります。

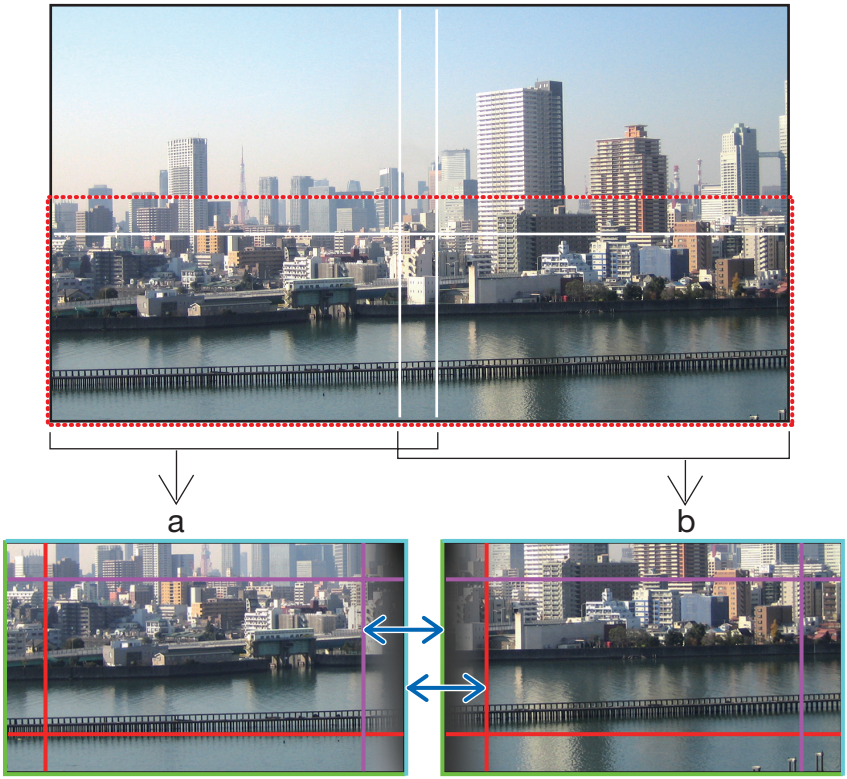


④ 映像が重なっている部分を「上端」「下端」「右端」「左端」から選択して、「制御」をオンに設定します。



2. 「 位置」と「範囲」を調整して、重なりあっている領域を設定する。

マーカーをオンにすると、画面に 4 色の線（マーカー）を表示します。
シアンと緑のマーカーは映像が重なる領域の端を、マゼンタと赤のマーカーは重なる範囲（領域 / 幅）を表します。



a：右端を「オン」/ b：左端を「オン」
※ 図は説明のため 2 画面を離して掲載しています。

映像の端に「位置」（重なる領域の端）を合わせ、次に「範囲」で重なる領域（幅）を調整します。上図の場合では、まず左画面の映像の端にシアンのマーカー、右画面の映像の端に緑のマーカーを合わせます。次に、左画面のマゼンタのマーカーを右画面の緑のマーカーに、右画面の赤のマーカーを左画面のシアンのマーカーに重ねるように調整します。マーカーが重なって白色になったら調整完了です。
マーカーをオフにして、マーカーを消します。

[参考]

- マーカーの設定は、保存されません。電源を切ると、マーカーの設定はオフに戻ります。
- マーカーを非表示にしたいときは、必ず、メニューでマーカーをオフにしてください。

投写画面が重なっている部分を調整する

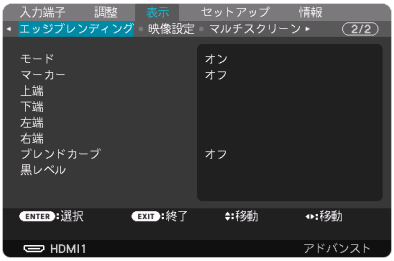
必要に応じて、「ブレンドカーブ」や「黒レベル」で、映像が重なっている部分の明るさを調整します。

- ブレンドカーブと黒レベルは、モードがオンになっていないと選択できません。

●ブレンドカーブの選択

映像が重なっている部分の階調変化を調整して、投写画面の境界を目立たなくします。
9 種類のカーブ設定の中から、最適なものを選択します。

1. **「表示」→「エッジブレンディング」の「ブレンドカーブ」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   ブレンドカーブ選択画面に切り替わります。



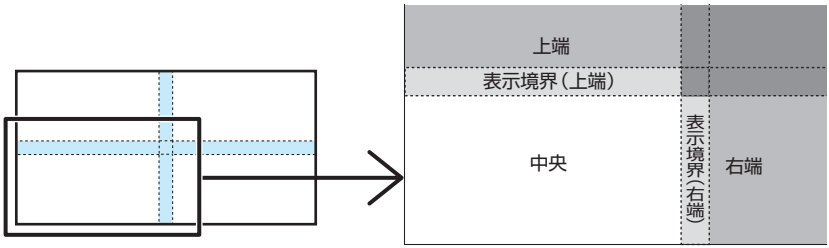
2. **▲ / ▼ボタンで 1 ～ 9 のいずれかを選択し、ENTER ボタンを押す。**
   他のプロジェクターを調整する際も、上記で選択したものと同じ項目を選択してください。

●黒レベルの調整

マルチ画面の重なっていない映像と重なっている部分（エッジブレンディング）の黒レベル調整です。
明るさの濃淡が気になる場合に調整します。

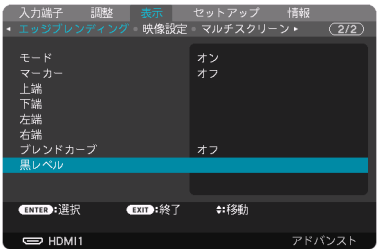
- エッジブレンディングの「上端」「下端」「左端」「右端」の制御をオンにした組み合わせで調整する箇所が変わります。

左下プロジェクターの黒レベル調整は図のようになります。



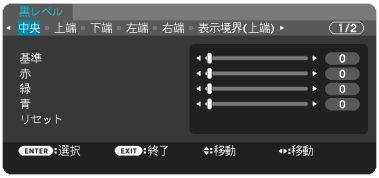
1. 「表示」→「エッジブレンディング」の「黒レベル」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

黒レベル調整画面に切り替わります。



2. ◀ / ▶ボタンで調整する箇所を選択し、◀ / ▶ボタンで黒レベルを調整する。

他のプロジェクターも、必要に応じて同じ要領で調整してください。



すべてのプロジェクターの調整終了後、1 個のリモコンで 4 台のプロジェクターの電源オン／オフなどを同時に操作するには、同期制御を設定してください。（→次ページ）。

[参考]

- 黒レベル分割画面数は、エッジブレンディング位置（上端、下端、左端、右端）の選択数によって変わります。また、上／下端と左／右端を選択するとコーナーの分割画面が出現します。
- エッジブレンディング幅は範囲で設定されている幅、コーナーは上／下端または左／右端の交差する面積になります。
- 黒レベルは、明るくする方向のみ調整できます。

同期制御を設定する

1 個のリモコンを使ってすべてのプロジェクターを同時に操作する設定です。(→ 150 ページ)

同期する機能：電源オン／オフ、AV ミュート、シャッター開／閉、信号ミュート、
ダイナミックコントラスト、オートブラックシャッター

HDBaseT IN ポートと HDBaseT OUT ポートを接続してデイジーチェーンにしている場合（→ 180 ページ）は、映像信号を入力している親プロジェクターをメインに設定します。

1. **メインに設定するプロジェクターで「セットアップ→「制御 2」→「同期制御」を選択し、ENTER ボタンを押す。**
   同期制御設定画面に切り替わります。

2. **モードと台数を設定する。**
   モードは「メイン」、台数は「4」を選択します。

3. **サブプロジェクターの IP アドレスを設定する。**
   サブ 1、サブ 2、サブ 3 の IP アドレスを入力します。

4. **▲ / ▼ボタンを押して「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   メインプロジェクターの設定が完了し、サブプロジェクターへモード、メイン IP アドレス、信号ミュートの設定が通知されて、4 台の同期制御が有効になります。

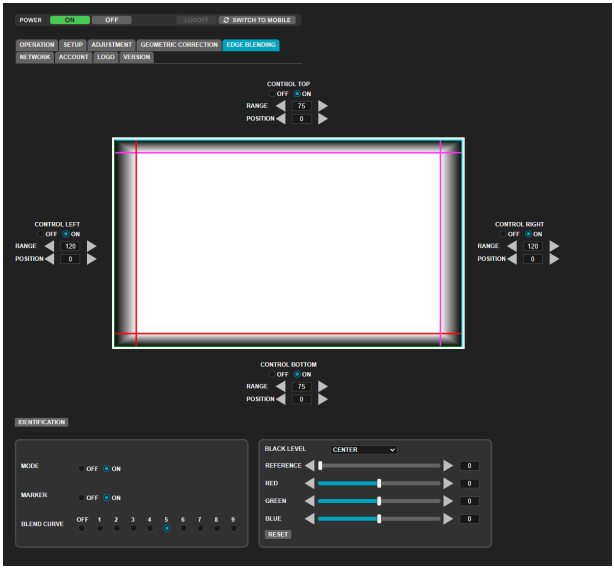
[注意]

- 同期制御は、LAN ケーブルで接続した複数台のプロジェクターが相互に通信できる状態で使用できます。(→ 180, 181 ページ)
  同期制御を設定しても一部のプロジェクターが動作しない場合は、オンスクリーンメニューの「情報」→「同期制御」でメインとサブ 1 ～ 3 の状態を確認してください。「切断」と表示されている場合は、通信が切断されています。LAN ケーブルの接続状態などを確認してから、メインプロジェクターで同期制御を再設定してください。
  [再設定の手順]
  (1) モードの「オフ」を選択して、「確定」にカーソルを合わせて ENTER ボタンを押す。
  (2) モードの「メイン」を選択して、「確定」にカーソルを合わせて ENTER ボタンを押す。
  通信が不安定な場合、プロジェクターの動作が遅くなることがあります。
- 同期制御を設定したプロジェクターをリモコンで操作するときは、コントロール ID またはリモート端子（→ 42 ページ）を使って、メインプロジェクターのみが動作するようにしてください。

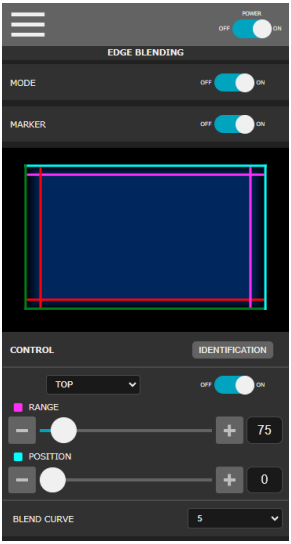
コンピューターやスマートフォンを使って調整する

本機とネットワークで接続したコンピューターやスマートフォンを使って、簡単にエッジブレンディングの調整ができます。
HTTP サーバーに接続して（→ 74 ページ）、EDGE BLENDING を表示します。

コンピューター用の画面



スマートフォン用の画面



エッジブレンディングの各設定 / 調整の項目が一つの画面に表示され、コンピューターのマウスやスマートフォンの画面タッチで操作することができます。各設定 / 調整の内容は、オンスクリーンメニューの説明をご覧ください。

- POSITION（位置）と RANGE（範囲）は、マーカー（シアン、緑、マゼンタ、赤の線）をマウスのクリック＆ドラッグ（スマートフォンはスワイプ）で動かすことで調整できます。
- 以下の調整値は、キーボードの←/→ボタンで微調整することができます。
  - ・POSITION（位置）
  - ・RANGE（範囲）
  - ・BLACK LEVEL（黒レベル）の REFERENCE（基準）、RED（赤）、GREEN（緑）、BLUE（青）
- 調整中のプロジェクターの画面がどれかを確認するには、「IDENTIFICATION」ボタンを押します。画面に識別メッセージ（IP アドレス）を 3 秒間表示します。

5. オンスクリーンメニュー

5-1. オンスクリーンメニューの基本操作

本機で投写する映像の画質調整や、本機の動作モードの切り替えなどは、オンスクリーンメニューを表示して操作します。以降、「オンスクリーンメニュー」を「メニュー」と省略して記載します。

オンスクリーンメニュー画面の構成

メニューを表示するには MENU ボタンを押します。また、メニューを消す場合は EXIT ボタンを押します。
ここでは、メニューを操作しながら、メニュー画面の構成や各部の名称を説明します。

準備：本機の電源を入れて、スクリーンに映像を投写してください。

1. MENU ボタンを押す。
   ご購入後、はじめて操作したときは調整のメニューが表示されます。

a：メインメニュータブ
b：サブメニュータブ
c：調整項目
d：操作ガイド
e：入力信号表示
f：カーソル（青色の部分）
g：調整バー
h：調整値
i：選択可能マーク
j：動作中の状態表示

管理者パスワードでログオン中
基準ライトモードの「長寿命」設定、 高温のため保護機能動作中、
本体キーロック中、 8:00 オフタイマーの残り時間のアイコン

2. ▲ / ▼ボタンを押す。
   カーソルが上下に移動し、調整項目を選択することができます。
3. 「明るさ」にカーソルを合わせ、◀ / ▶ボタンを押す。
   画面の明るさが調整されます。
   ・「◀▶（選択可能マーク）」が付いている項目は◀ / ▶ボタンで設定を切り替えることができます。

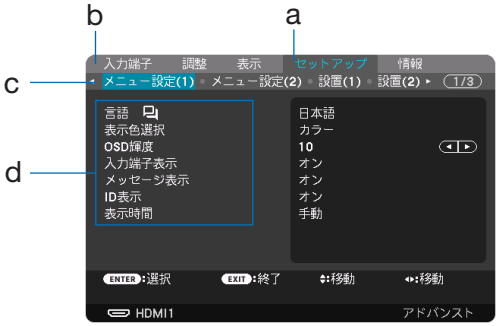
「◀▶（選択可能マーク）」が付いていない項目を設定する場合は、その項目にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押します。

・操作ガイドに DEFAULT の表示が付いている項目を選択中に、リモコンの CTL ボタンと DEFAULT ボタンを同時に押すと、調整値を工場出荷状態に戻します。

・調整項目内のリセットにカーソルを合わせ ENTER ボタンを押すと、映像の調整や設定を工場出荷状態に戻します。

4. EXIT ボタンを 2 回押す。
カーソルがメインメニュータブの調整に移動します。

5. ▶ボタンを 2 回押す。
カーソルがセットアップに移動し、セットアップのメニューが表示されます。

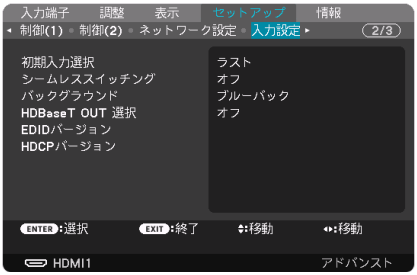


a：カーソル / b：メインメニュータブ / c：サブメニュータブ / d：設定項目

6. ENTER ボタンを押す。
メニュー設定（1）にカーソルが移動します。

・セットアップにはメニュー設定 (1)、メニュー設定 (2)、設置 (1)、設置 (2)、制御 (1)、制御（2)、ネットワーク設定、入力設定、電源設定、リセットという 10 個のサブメニュータブがあります。
◀ / ▶ボタンで選択します。

7. ▶ボタンを 6 回押して「入力設定」にカーソルを合わせる。
入力設定のメニューに切り替わります。



8. ▼ボタンを 3 回押して「バックグラウンド」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   バックグラウンド選択画面が表示されます。
   ・バックグラウンドとは、無信号時に表示される画面のことです。

9. ▲ / ▼ボタンを押して「ブルーバック」、「ブラックバック」、「ロゴ」のいずれかにカーソルを合わせる。
10. 選択したい項目にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
    バックグラウンドが設定されます。
    ・選択を取り消す場合は、EXIT ボタンを押します。
11. MENU ボタンを 1 回押す。
    メニューが消えます。

[注意]

- 入力信号や設定内容によっては、メニューの一部の情報が欠ける場合があります。

調整画面、設定画面の操作例

●ラジオボタンの選択

選択肢の中からから 1 つ「◉」を選びます。

【例 1】「壁色補正」の選択

セットアップ→設置→壁色補正

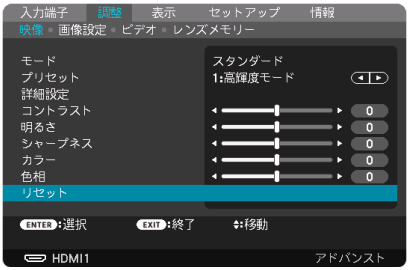
a：ラジオボタン

1. ▼ / ▲ボタンを押す。
   選択されているマーク（◉）が移動します。
2. 選択する項目に「◉」を移動したら、ENTER ボタンを押す。

●実行ボタン

機能を実行します。
実行ボタンを選択して機能を実行すると、サブメニュー画面で EXIT ボタンを押しても実行を取り消すことができません。

【例 2】調整のリセット

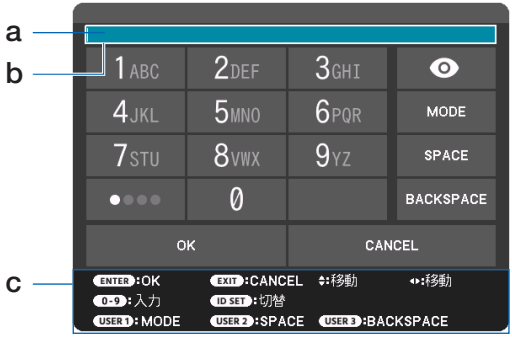


1. 「リセット」にカーソルが合っていることを確認する。
2. ENTER ボタンを押す。
   確認メッセージが表示されます。

3. 実行する場合は、◀ / ▶ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   機能が実行されます。
   ・機能を実行しない場合は、確認メッセージで「いいえ」を選択し、ENTER ボタンを押します。

文字入力画面の使いかた

文字を入力する項目にフォーカスを合わせて ENTER ボタンを押すと、文字入力画面を表示します。



a：テキストボックス / b：フォーカス /c：操作ガイド

1. ▼▲◀▶ボタンを押して文字などにフォーカスを合わせ、ENTER ボタンを押す。

   文字が入力されます。

   文字以外の項目は、次のような働きをします。

項　目	機　能	対応するリモコンのボタン
	テキストボックスに文字を表示するか、アスタリスクを表示するかを切り替えます。	—
MODE	英大文字、英小文字、特殊文字を切り替えます。	1 USER
SPACE	スペースを入力します。	2 USER
BACKSPACE	カーソルの左側にある 1 文字を消します。	3 USER
	入力する文字を切り替えます。例：1 → A → B → C	ID SET
OK	入力した文字を確定して、文字入力画面を閉じます。	ENTER
CANCEL	入力した文字を取り消して、文字入力画面を閉じます。	EXIT

   また、フォーカスを動かさずに、リモコンの数字（0 ～ 9）入力ボタンを押して直接入力することもできます。
   リモコンのボタンが文字入力画面のどの項目に対応しているかは、操作ガイドの表示でご確認ください。

2. 入力が終わったら▼▲◀▶ボタンを押して［OK］またはテキストボックスにフォーカスを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   入力した文字を確定して、文字入力画面が閉じます。

5-2. オンスクリーンメニュー一覧

以下は、「アドバンストメニュー」の一覧です。「ベーシックメニュー」で表示される項目には「Ⓑ」マークを付けています。
アドバンストメニューとベーシックメニューの選択はセットアップ→制御（1）→ツール→管理者モード→メニューモードで選択します。（→ 139 ページ）
　　は、各項目の工場出荷時の値を表しています。

メニュー						選択項目		参照ページ
メインメニュー	サブメニュー							
入力端子	—					HDMI1 Ⓑ		107
						HDMI2 Ⓑ		
						HDBaseT Ⓑ		
						SDI Ⓑ		
						信号リスト		
						テストパターン		
調整	映像	モード				スタンダード、プロフェッショナル		110
		プリセット				自動、1：高輝度モード、2：プレゼンテーション、3：ビデオ、4：シネマ、5：グラフィック、6：sRGB、7：DICOM SIM.		
		詳細設定	全般					111
				参照		高輝度モード、プレゼンテーション、ビデオ、シネマ、グラフィック、sRGB、DICOM SIM.		
				ガンマ設定				
				スクリーンサイズ※1		大、中、小		
				色温度※2				112
				ダイナミックコントラスト		オフ、ノーマル、エンハンスド		
				オートブラックシャッター		オフ、オン		
				ライトモード	ライト調整			113
					輝度一定モード	オフ、オン		
			ホワイトバランス			コントラスト赤、コントラスト緑、コントラスト青、明るさ赤、明るさ緑、明るさ青		
			色補正			赤（色相／彩度／明るさ）、緑（色相／彩度／明るさ）、青（色相／彩度／明るさ）、イエロー（色相／彩度／明るさ）、マゼンタ（色相／彩度／明るさ）、シアン（色相／彩度／明るさ）		114
		コントラスト Ⓑ						115
		明るさ Ⓑ						
		シャープネス Ⓑ						

※1：スクリーンサイズは、参照で「DICOM SIM.」を選択しているときに表示されます。
※2：色温度は、参照で高輝度モードを選択しているときには表示されません。

メニュー				選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー				
調整	映像	カラー Ⓑ			115
		色相 Ⓑ			
		(音量 Ⓑ) ※3			
		リセット Ⓑ			116
	画像設定	水平			
		垂直			
		ブランキング		上端、下端、左端、右端	117
		オーバースキャン		自動、0%、5%、10%	
		アスペクトⒷ		(コンピューター信号時) 自動、ノーマル、4：3、5：4、16：9、15：9、16：10、フル、リアル	
				(HDTV/SDTV 信号時) 自動、ノーマル、4：3、レターボックス、ワイドスクリーン、ズーム、フル	
	ビデオ	ノイズリダクション		オフ、弱、中、強	119
		デインターレース		ノーマル、動画、静止画	
		信号形式		自動、RGB、REC601、REC709、REC2020	
		ビデオレベル		自動、ノーマル、拡張、スーパーホワイト	120
		HDR モード※4		自動、オフ、オン	
	レンズメモリー	登録			
		移動			
		リセット			
		信号別読み出し		オフ、オン	
		映像ミュート		オフ、オン	
表示	PIP/PICTURE BY PICTURE	サブ入力Ⓑ		オフ、HDMI1、HDMI2、HDBaseT、SDI	123
		モードⒷ		子画面設定、PICTURE BY PICTURE	
		表示位置入れ替え		オフ、オン	
		PIP 設定	開始位置	上端 - 左端、上端 - 右端、下端 - 左端、下端 - 右端	
			水平位置		
			垂直位置		
			サイズ	大、中、小	
		表示境界			124
	幾何学補正	モード		オフ、台形補正、4 点補正、水平角打ち補正、垂直角打ち補正、ワープ、PC ツール	
		台形補正	水平		
			垂直		
			水平シフト		
			垂直シフト		
			投写比		
		4 点補正		上端 - 左端、上端 - 中央、上端 - 右端、中央 - 左端、中央 - 右端、下端 - 左端、下端 - 中央、下端 - 右端	125

※ 3：音量は、アドバンストメニューでは表示されません。
※ 4：4K 信号入力時のみ選択できます。

メニュー				選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー				
表示	幾何学補正	水平角打ち補正		上端 - 左端、上端 - 中央、上端 - 右端、中央 - 左端、中央 - 右端、下端 - 左端、下端 - 中央、下端 - 右端	125
		垂直角打ち補正		上端 - 左端、上端 - 中央、上端 - 右端、中央 - 左端、中央 - 右端、下端 - 左端、下端 - 中央、下端 - 右端	
		ワープ		上端 - 左端、上端 - 中央、上端 - 右端、中央 - 左端、中央 - 右端、下端 - 左端、下端 - 中央、下端 - 右端	127
		PC ツール		オフ、1、2、3	128
		リセット			129
	エッジブレンディング	モード		オフ、オン	
		マーカー		オフ、オン	
		上端、下端、左端、右端	制御	オフ、オン	
			範囲		
			位置		
		ブレンドカーブ		オフ、1、2、3、4、5、6、7、8、9	
		黒レベル	中央、上端、下端、左端、右端、表示境界 (上端)、表示境界 (下端)、表示境界 (左端)、表示境界 (右端)	基準／赤／緑／青／リセット	
	映像設定	モード		オフ、ズーム、タイリング	130
		ズーム		水平拡大、垂直拡大、水平位置、垂直位置	
		タイリング		横台数、縦台数、横順番、縦順番	
	マルチスクリーン	ホワイトバランス	モード	オフ、オン	131
				コントラスト 白、コントラスト 赤、コントラスト 緑、コントラスト 青、明るさ 白、明るさ　赤、明るさ 緑、明るさ 青	
セットアップ	メニュー設定（1）	言語 B		ENGLISH、DEUTSCH、FRANÇAIS、ITALIANO、ESPAÑOL、SVENSKA、日本語、DANSK、PORTUGUÊS、ČEŠTINA、MAGYAR、POLSKI、NEDERLANDS、SUOMI、NORSK、TÜRKÇE、РУССКИЙ、عربي、ΕΛΛΗΝΙΚΆ、简体中文、한국어、ROMÂNĂ、HRVATSKI、БЪЛГАРСКИ、ไทย、हिंदी、INDONESIA、ئۇيغۇر、繁體中文、TIẾNG VIỆT	132
		表示色選択		カラー、モノクロ	
		OSD 輝度		1、2、3、4、5、6、7、8、9、10	
		入力端子表示		オフ、オン	

メニュー				選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー				
セットアップ	メニュー設定（1）	メッセージ表示		オフ、オン	132
		ID 表示		オフ、オン	
		表示時間		手動、自動 5 秒、自動 15 秒、自動 45 秒	
	メニュー設定（2）	メニュー角度		0°、90°、270°	133
		メニュー位置		上端 - 左端、上端 - 中央、上端 - 右端、中央 - 左端、中央、中央 - 右端、下端 - 左端、下端 - 中央、下端 - 右端	
	設置（1）	投写方法		自動、デスク／フロント、天吊り／リア、デスク／リア、天吊り／フロント	
		スクリーン	スクリーンタイプ	フリー、4:3 スクリーン、16:9 スクリーン、16：10 スクリーン	134
			表示位置		135
		壁色補正 Ⓑ		オフ、ホワイトボード、黒板、黒板（グレー）、ライトイエロー、ライトグリーン、ライトブルー、スカイブルー、ライトローズ、ピンク	
		基準ライトモードⒷ	基準ライトモード	ノーマル、静音、長寿命	
			基準ライト調整		
			輝度一定モード	オフ、オン	136
		基準ホワイトバランス		コントラスト 赤、コントラスト 緑、コントラスト 青、明るさ 赤、明るさ 緑、明るさ 青	
		コンバージェンス		水平 赤、水平 緑、水平 青、垂直 赤、垂直 緑、垂直 青	
		スリープ音声出力		オフ、オン	
	設置（2）	シャッター設定	パワーオンシャッター	開、閉	137
			映像ミュートシャッター	開、閉	
			フェードイン時間	0 ～ 10 秒	
			フェードアウト時間	0 ～ 10 秒	
		基準レンズメモリー	プロファイル	1、2	
			登録		
			移動		
			リセット		
			信号別読出し	オフ、オン	
			映像ミュート	オフ、オン	
		レンズポジション	ホーム		138
		レンズキャリブレーション			
		アダプティブフォーカス	有効	オフ、オン	
			強度	弱い、普通、強い	
			速度	遅い、普通、速い	
		レンズ移動量	中央フォーカス	1、2、3、4、5	
			周辺フォーカス	1、2、3、4、5	
			ズーム	1、2、3、4、5	
		色むら補正（ツール）		オフ、1、2、3	
		ガンマ（ツール）		オフ、1、2、3	

メニュー				選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー				
セットアップ					
制御(1)					139
	ツールⒷ	管理者モード	メニューモード	アドバンスト、ベーシック	
			設定値を保存しない	オフ、オン	
		プログラムタイマー	有効	オフ、オン	
			設定	編集（動作、曜日、時刻、機能、詳細設定、繰り返し）	
		日付と時刻設定	タイムゾーン設定		143
			日付と時刻設定		
			夏時間設定		
		マウス設定	ボタン設定	右手用、左手用	
			スピード設定	高速、標準、低速	
	本体キーロック			オフ、オン	144
	通信速度			4800bps、9600bps、19200bps、38400bps、115200bps	
	PC CONTROL(HDBaseT)			オフ、オン	
	コントロール ID		コントロール ID 番号	1- 254	
			コントロール ID	オフ、オン	
	リモコン受光部設定			前側 / 後側、前側、後側、HDBaseT	146
	ユーザーキー		ユーザー 1 ／ ユーザー 2 ／ ユーザー 3	---、コントラスト、明るさ、シャープネス、カラー、色相、静止、映像消去、音声消去、AV ミュート、自動調整、PIP/PBP、基準レンズメモリー 1、基準レンズメモリー 2、レンズキャリブレーション	147
	コマンドフォーマット			A、B	
制御(2)	管理者パスワード		編集		148
			ログアウト		
			リセット		
	ユーザーアカウント		ユーザー 1 ／ ユーザー 2 ／ ユーザー 3	編集、有効、削除	149
	スタートアップロック			オフ、オン	150
	同期制御		モード	オフ、メイン、サブ	
			台数	2、3、4	
			IP アドレス メイン／サブ 1 ／ サブ 2 ／サブ 3		
			信号ミュート	オフ、オン	
ネットワーク設定					152
	有線 LAN		（インターフェース、プロファイル、DHCP、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、自動 DNS、DNS 設定、再接続）		153
	プロジェクター名			PJ-**********	154
	ドメイン		ホスト名	pj-**********	
			ドメイン名		
	アラートメール		メール通知、ホスト名、ドメイン名、差出人アドレス、SMTP サーバー名、宛先アドレス 1、宛先アドレス 2、宛先アドレス 3、送信テスト		

メニュー				選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー				
セットアップ					
	ネットワーク設定				
		ネットワークサービス		HTTP サーバー	オフ、オン、認証	155
				PJLink	新規パスワード、パスワード再確認、クラス、デスティネーション	
				AMX Device Discovery	オフ、オン	156
				CRESTRON	ROOMVIEW	
					CRESTRON CONTROL（ENABLE、CONTROLLER IP ADDRESS、IP ID）	
				Extron XTP	オフ、オン	157
				PC CONTROL	オフ、オン	
				認証付き PC CONTROL	オフ、オン	
				Art-Net	Art-Net、[2.x.x.x]、[10.x.x.x]、設定、チャンネル	158
		入力設定	初期入力選択		ラスト、自動、HDMI1、HDMI2、HDBaseT、SDI	159
			シームレススイッチング		オフ、オン	
			バックグラウンド		ブルーバック、ブラックバック、ロゴ	
			HDBaseT OUT 選択		オフ、自動、HDMI1、HDMI2、HDBaseT	160
			EDID バージョン	HDMI1	モード 1、モード 2	
				HDMI2	モード 1、モード 2	
			HDCP バージョン	HDMI1	HDCP2.2、HDCP1.4	
				HDMI2	HDCP2.2、HDCP1.4	
				HDBaseT	HDCP2.2、HDCP1.4	
		電源設定	省電力		オフ、オン	161
			ダイレクトパワーオン		オフ、オン	
			オートパワーオン選択		オフ、HDMI1、HDMI2、HDBaseT、SDI	162
			オートパワーオフ		オフ、0:05、0:10、0:15、0:20、0:30、1:00	
			オフタイマー Ⓑ		オフ、0:30、1:00、2:00、4:00、8:00、12:00、16:00	
		リセット			表示中の信号	163
					全データ	
					全データ（信号リストを含む）	
					プロジェクター初期化	164
情報		使用時間 Ⓑ			ライト使用時間、機器使用時間、総 CO2 削減量	165
		信号（1）Ⓑ			入力端子、解像度、水平同期周波数、垂直同期周波数、同期極性、走査方式、信号名、登録番号	
		信号（2）Ⓑ			信号形式、色深度、ビデオレベル、サンプリング周波数	
		信号（3）Ⓑ			入力端子、解像度、水平同期周波数、垂直同期周波数、同期極性、走査方式、信号名、登録番号	

メニュー		選択項目	参照ページ
メインメニュー	サブメニュー		
情報	信号（4）Ⓑ	信号形式、色深度、ビデオレベル、サンプリング周波数、	165
	有線 LAN	IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MAC アドレス、DNS	
	VERSION Ⓑ	SOFTWARE	
	その他 Ⓑ	日付と時刻、プロジェクター名、MODEL NO.、SERIAL NUMBER、CONTROL ID ※5、レンズ ID	
	状態	吸気温度、排気温度、大気圧、設定位置、X 軸、Y 軸、Z 軸	
	HDBaseT	信号品質、オペレーションモード、リンクステータス、HDMI ステータス	
	Art-Net (1)	CH1、CH2、CH3、CH4、CH5、CH6、CH7、CH8、CH9	
	Art-Net (2)	CH10、CH11、CH12	
	同期制御	メイン、サブ 1、サブ 2、サブ 3	

※5：CONTROL ID はコントロール ID を設定しているときに表示されます。

5-3. 入力端子

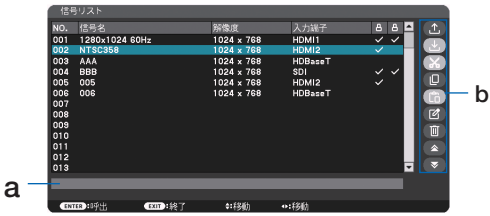
入力端子を選択する

投写する入力端子を選択します。
現在選択されている入力端子には「●」(ドット) を表示します。

HDMI1	HDMI 1 入力端子に接続している機器の映像を投写します。
HDMI2	HDMI 2 入力端子に接続している機器の映像を投写します。
HDBaseT	HDBaseT IN ポートに接続している機器の映像を投写します。
SDI	SDI 入力端子に接続している機器の映像を投写します。
信号リスト	信号リストから信号を呼び出してして投写します。 (→このページ)
テストパターン	メニューを閉じてテストパターン画面に切り替わります。 ◀ / ▶ボタンでテストパターンを切り替えます。 テストパターンを消すときは、EXIT ボタンを押します。 ● テストパターンは、プロジェクター設置時の画面の歪み状態を確認するときや、フォーカスを調整するときに表示します。フォーカスは、テストパターンを投写した状態で 30 分以上経過したのちに調整することをおすすめします。

信号リストを利用する

画像の調整や設定をすると、信号の調整値が本機の信号リストに自動的に登録されます。登録された信号（の調整値）は、必要なときに信号リストから呼び出すことができます。信号リストには 100 パターンまで登録できます。信号リストへの登録数が 100 パターンに達すると、それ以降メッセージを表示して登録できなくなります。必要なくなった信号（の調整値）は、信号リストから削除してください。



a: クリップボード / b：信号編集ツールバー

・メニューに信号リストが表示されていない場合は、アドバンストメニューに変更してください。アドバンストメニューとベーシックメニューはオンスクリーンメニュー→セットアップ→制御→ツール→管理者モード→メニューモードで選択します。(→ 139 ページ)

●投写している信号を登録する［登録］

1. 信号リストで▲ / ▼ボタンを押して登録する番号にカーソルを合わせる。
2. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し▲ / ▼で（登録）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

●信号リストから信号を選択する［呼出］

1. 信号リストで▲ / ▼ボタンを押して選択する信号にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

●信号リストの項目を編集する［編集］

1. 信号リストで▲ / ▼ボタンを押して編集する信号にカーソルを合わせる。
2. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し、▲ / ▼ボタンで（編集）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   信号編集画面が表示されます。

信号名	英数字、記号 最大 18 文字で、信号名を入力します。
入力端子	入力端子の変更ができます。HDMI1/HDMI2/HDBaseT/SDI の切り替えができます。
ロック	✔（チェックマーク）を付けておくと、［全削除］を実行したときに残しておくことができます。また、ロック後に調整した値は保存されません。
スキップ	✔（チェックマーク）を付けておくと、入力信号を自動検出するときにスキップすることができます。

3. 各項目を設定し、「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

●信号リストの項目を削除する［カット］

1. 信号リストで▲ / ▼ボタンを押して削除する信号にカーソルを合わせる。
2. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し、▲ / ▼ボタンで（カット）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   信号リストから削除され、信号リストの下のクリップボードに、削除した信号が表示されます。

[注意]

- 現在投写中の信号を削除することはできません。
- 信号編集画面でロックした信号を選択した場合は、カットは文字が薄く表示され選択できません。

[参考]

- クリップボードの内容は、信号編集ツールバーの（貼付け）で信号リストに貼り付ける（複製する）ことができます。
- クリップボードの内容は、信号リストを閉じても消えません。

●信号リストの項目をコピーする［コピー］［貼付け］

1. 信号リストで▲ / ▼ボタンを押してコピーする信号にカーソルを合わせる。
2. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し、▲ / ▼ボタンで（コピー）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   信号リストの下のクリップボードに、コピーする信号が表示されます。
3. ◀ / ▶ボタンを押して信号リストに移動する。
4. ▲ / ▼ボタンを押して、コピーしたい項目へカーソルを合わせる。
5. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し、▲ / ▼ボタンで（貼付け）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   クリップボードの内容がコピーされます。

●信号リストの項目をすべて削除する［全削除］

1. ◀ / ▶ボタンを押して信号編集ツールバーにカーソルを移動し、▲ / ▼ボタンで（全削除）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。
   確認メッセージが表示されます。
2. ◀ / ▶ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

[注意]

- 信号編集画面でロックした信号は削除されません。

5-4. 調整

映像

●モード

プリセットの詳細設定の設定値を、入力信号ごとに保存するかどうかを設定します。

スタンダード	プリセットの詳細設定値を、プリセットの項目ごと（1 ～ 7）に保存します。
プロフェッショナル	映像ページ内のすべての設定値が入力信号ごとに保存されます。

[注意]

- テストパターンを表示しているとき、モードは選択できません。

●プリセット

投写した映像に最適な設定を選択します。
鮮やかな色調にしたり、淡い色調にしたり、ガンマ（階調再現性）を設定できます。
本機の工場出荷時は、プリセット項目 1 ～ 7 に、あらかじめ次の設定がされています。
また、詳細設定でお好みの色調およびガンマにするための細かな設定ができ、設定値をプリセット項目 1 ～ 7 に登録できます。

自動	入力信号に適した設定を自動で判別します。
1：高輝度モード	最も明るい映像になります。明るい空間での使用に適しています。
2：プレゼンテーション	明るく色鮮やかな映像になります。コンピューター系信号のコンテンツを投映するときに適しています。
3：ビデオ	自然で色鮮やかな映像になります。テレビや一般的な映像のコンテンツを投映するときに適しています。
4：シネマ	黒の階調表現が豊かな映像になります。DCI 規格に近似した設定になり、暗い空間で映画を投映するときに適しています。
5：グラフィック	自然で色再現性の高い映像になります。暗い空間で写真や絵画、サイネージなどのコンテンツを投映するときに適しています。
6：sRGB	sRGB に準拠した色が再現されます。
7：DICOM SIM.	医療業界で用いられている DICOM 規格に近似した設定にします。

[注意]

- 本機の「DICOM SIM.」は、DICOM 規格に近似した映像に調整する設定であり正しく投写できない場合があります。そのため「DICOM SIM.」は教育用途のみに使用し、実際の診断には使用しないでください。

[参考]

- 「sRGB」は、機器間の色再現の違いを統一するために、コンピューターやディスプレイ、スキャナ、プリンタなどの色空間を規定・統一した国際標準規格です。1996 年に Hewlett-Packard 社と Microsoft 社が策定し、1999 年に IEC の国際規格となりました。
- 「DICOM SIM.」の DICOM（ダイコム）は、医療用画像の保存や通信に用いられている世界標準規格の名称です。コンピューター断層撮影（CT）、磁気共鳴映像法（MRI）や内視鏡などの診療で用いられています。

●詳細設定

お客様のお好みに調整した設定にします。
調整値を登録するには、プリセット項目 1 ～ 7 のいずれかを選択し、「詳細設定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
ガンマ設定、スクリーンサイズ、色温度、ダイナミックコントラスト、ホワイトバランス、色補正の項目について、細かな設定ができます。

[注意]

- プリセットで「自動」を選択した場合は、詳細設定は選択できません。

全般—参照

詳細設定のもとになるモードを選択します。

全般—ガンマ設定

映像の階調を調整します。これにより暗い部分も鮮明に表現できます。

全般—スクリーンサイズ

投写画面のサイズに応じた適切なガンマ補正をします。

大	300 型前後のサイズのときに選択します。
中	200 型前後のサイズのときに選択します。
小	100 型前後のサイズのときに選択します。

[注意]
- 詳細設定で「DICOM SIM.」を選択した場合のみ設定できます。

全般—色温度

色（R, G, B）のバランスを調整して色再現性を最良にします。
高い数値の色温度は青みがかった白になり、低い数値の色温度は赤みがかった白になります。5000 K から 10500 K まで、100 K 単位で設定できます。

[注意]
- 詳細設定で「高輝度モード」を選択した場合は、色温度は選択できません。

全般—ダイナミックコントラスト

映像に応じて光源出力を自動調整することで最適なコントラストの映像にします。

オフ	ダイナミックコントラストは働きません。
ノーマル	通常の設定です。
エンハンスド	光源出力の調整量が多い設定です。ノーマルに比べてメリハリのある画面になります。

[注意]
- 以下の場合は、ダイナミックコントラストを選択できません。
  - ・同期制御のモードが「サブ」の場合
- 以下の場合は、ダイナミックコントラストは働きません。
  - ・輝度一定モードが「オン」の場合

全般—オートブラックシャッター

全黒信号が入力されたときに、自動で光源を消灯するか、しないかを選択します。

[注意]
- 以下の場合は、オートブラックシャッターを選択できません。
  - ・ダイナミックコントラストが「オフ」の場合
  - ・同期制御のモードが「サブ」の場合

全般—ライトモード

プロジェクターの輝度を調整して、入力信号ごとに保存します。
映像のモードが「プロフェッショナル」のとき調整が有効になります。（→ 110 ページ）

ライト調整		出力を 1%刻みで調整できます。調整範囲は基準ライトモードの設定により異なります。 ノーマル　　：70 ～ 100 % 静音、長寿命：70 ～ 90 %
輝度一定モード	オフ	輝度一定モードが解除されます。
	オン	「オン」に切り替えた時点の明るさを基準にして、明るさを一定に保つように制御します。調整値は「オフ」にしない限り電源を切っても記憶しています。 ・ 再度輝度調整を実施する場合は、一度「オフ」にしてから輝度調整してください。 [注意] ● 輝度一定モードの設定は、入力信号ごとに保存されません。

[注意]
- 以下の場合は、ライト調整を選択できません。
  - ・壁色補正を「ホワイトボード」に設定している場合
  - ・輝度一定モードが「オン」の場合

●ホワイトバランス

信号の白レベルと黒レベルを調整して色再現性を最良にします。

明るさ 赤 明るさ 緑 明るさ 青	映像の黒色を調整します。
コントラスト 赤 コントラスト 緑 コントラスト 青	映像の白色を調整します。

[注意]
- ホワイトバランスを操作した場合は、色温度の数値と実際の色合いが異なります。

●色補正

各信号共通の色補正をします。
赤、緑、青、イエロー、マゼンタ（紫）、シアン（明るい青緑）の各色の色味を調整します。

赤	色相	赤色を中心とした赤色付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動するとマゼンタよりに変化し、「－」方向へ移動すると黄色よりに変化します。
	彩度	赤色の強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	赤色の明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。
緑	色相	緑色を中心とした緑色付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動すると黄色よりに変化し、「－」方向へ移動するとシアンよりに変化します。
	彩度	緑色の強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	緑色の明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。
青	色相	青色を中心とした青色付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動するとシアンよりに変化し、「－」方向へ移動するとマゼンタよりに変化します。
	彩度	青色の強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	青色の明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。
イエロー	色相	黄色を中心とした黄色付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動すると赤よりに変化し、「－」方向へ移動すると緑よりに変化します。
	彩度	黄色の強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	黄色の明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。

マゼンタ	色相	マゼンタを中心としたマゼンタ付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動すると青よりに変化し、「－」方向へ移動すると赤よりに変化します。
	彩度	マゼンタの強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	マゼンタの明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。
シアン	色相	シアンを中心としたシアン付近の色を調整します。 「＋」方向へ移動すると緑よりに変化し、「－」方向へ移動すると青よりに変化します。
	彩度	シアンの強さを調整します。 「＋」方向へ移動すると鮮やかになり、「－」方向へ移動すると弱くなります。
	明るさ	シアンの明るさを調整します。 「＋」方向へ移動すると明るくなり、「－」方向へ移動すると暗くなります。

●コントラスト／明るさ／シャープネス／カラー／色相

スクリーンに投写している映像を調整します。

コントラスト	映像の暗い部分と明るい部分の差をはっきりしたり、淡くします。
明るさ	映像を明るくしたり、暗くします。
シャープネス	映像をくっきりしたり、やわらかくします。
カラー	色を濃くしたり、淡くします。
色相	赤みがかった映像にしたり、緑がかった映像にします。

[注意]

- テストパターンを表示しているときは、コントラスト、明るさ、シャープネス、カラー、色相は調整できません。

●音量

音声出力端子の音量を調整します。

[注意]

- アドバンストメニューには、音量は表示されません。

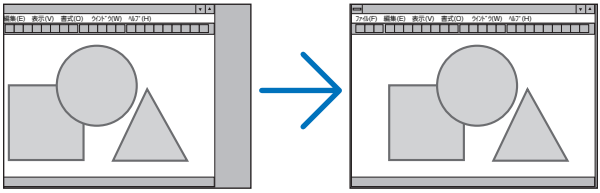
●リセット

映像の調整および設定を工場出荷状態に戻します。プリセットの番号、およびそのプリセット内の参照はリセットされません。現在選択されていないプリセットの詳細設定もリセットされません。

画像設定

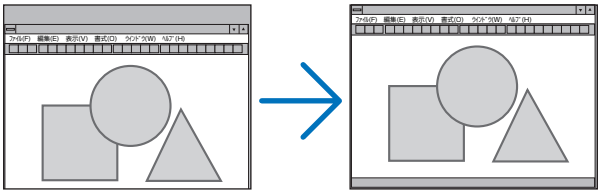
●水平

画面を水平方向に移動します。



●垂直

画面を垂直方向に移動します。

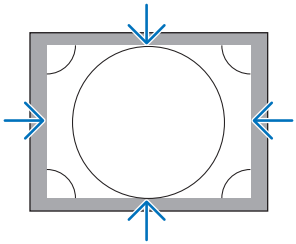


[注意]

- 水平、垂直を調整すると、そのとき投写している信号に応じた調整値として本機に記憶します。そして、次回同じ信号（解像度、水平･垂直走査周波数）を投写したとき、本機に記憶している調整値を自動的に呼び出して設定します。
  本機に記憶した調整値を消去する場合は、オンスクリーンメニューのセットアップ→リセット→「表示中の信号」を実行してください。

●ブランキング

映像信号の上端、下端、左端、右端の表示範囲（ブランキング）を調整します。



●オーバースキャン

オーバースキャン（画面周囲のフレーム部分をカットする処理）の割合を設定します。

a：投写される映像 / b：10 %オーバースキャンされた実際の映像例

［注意］

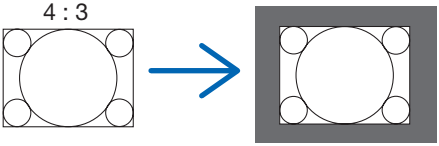
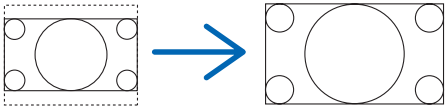
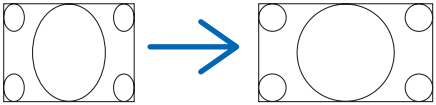
- アスペクトが「リアル」のときは選択できません。

●アスペクト

画面の縦横の比率を選択します。

【コンピューター信号時】

【HDTV/SDTV 信号時】

選択項目	説　明
自動	入力信号のアスペクト比を自動判別して投写します。入力信号によっては、アスペクト比を誤判別することがあります。 誤判別したときは、以下の項目から適切なアスペクト比を選択してください。
ノーマル	入力信号のアスペクト比のとおりに投写します。
4：3	4：3 のサイズで投写します。
5：4	5：4 のサイズで投写します。
16：9	16：9 のサイズで投写します。
15：9	15：9 のサイズで投写します。
16：10	16：10 のサイズで投写します。
リアル	入力信号の解像度が本機の解像度（→ 193 ページ）よりも小さいときに、入力信号の解像度のまま投写します。また、本機の解像度よりも大きいときは、入力信号の解像度のまま画面の中心を投写します。 4：3 
レターボックス	16：9 のレターボックス信号を投写します。 レターボックス 
ワイドスクリーン	16：9 のスクイーズ信号入力時、垂直方向を圧縮して 16：9 のサイズで投写します。 スクイーズ 
ズーム	16：9 のスクイーズ信号入力時、左右に引き伸ばして 4：3 のサイズで投写します。そのため、左右の両端は表示されません。 スクイーズ
フル	画面サイズ全体に投写します。

ビデオ

●ノイズリダクション

ビデオ映像を投写するとき、ノイズリダクション機能を使うと、画面のノイズ（ざらつきや乱れ）を軽減することができます。ノイズの度合いに応じて、「オフ」「弱」「中」「強」の 4 段階から、ノイズリダクション効果を選択できます。

●デインターレース

インターレース信号が入力された場合のプログレッシブ変換処理を選択します。

ノーマル	動画と静止画を自動判別して鮮明な状態にします。ジッターやノイズが目立つ場合は、「動画」を選択してください。
動画	動画を投写するときに選択します。ジッターやノイズが多い信号に適しています。
静止画	静止画を投写するときに選択します。動画を投写すると映像がちらつきます。

●信号形式

RGB とコンポーネント信号の選択です。通常は「自動」に設定します。それでも画像の色彩が不自然な場合には設定を切り替えてください。

自動	RGB とコンポーネント信号を自動判別します。
RGB	RGB 入力に切り替えます。
REC601	ITU-R Rec601 規格に準拠したコンポーネント信号に切り替えます。SDTV 映像に適した設定にします。
REC709	ITU-R Rec709 規格に準拠したコンポーネント信号に切り替えます。HDTV 映像に適した設定にします。
REC2020	ITU-R Rec2020 規格に準拠したコンポーネント信号に切り替えます。4K 映像に適した設定にします。

●ビデオレベル

本機と外部機器とを接続した場合の映像信号レベルの選択です。

自動	信号を出力する機器の情報をもとにビデオレベルを自動的に切り替えます。接続している機器によっては正しく設定できない場合があります。その場合は、メニューで「ノーマル」または「拡張」に切り替え最適な状態で視聴してください。
ノーマル	拡張を無効にします。
拡張	映像のコントラストが向上し、暗部および明部がよりダイナミックに表現されます。
スーパーホワイト	映像のコントラストが向上し、暗部がよりダイナミックに表現されます。

● HDR モード

HDR 対応機器から映像信号を入力したときの設定を選択します。

自動	信号を自動判別します。
オフ	入力信号の映像を投写します。
オン	HDR 信号に適した映像を投写します。

[注意]

- 4K 以外の信号のときは選択できません。

レンズメモリー

スクリーンへの投写位置、大きさ（レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値）を入力信号ごとに保存することができます。
レンズメモリーを利用すると、入力信号を切り替えたときに、レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整をやりなおす必要がありません。

登録	投写している入力信号のレンズシフト、ズーム、フォーカスの位置を保存します。
移動	入力信号に応じて、登録されたレンズの調整位置にレンズが移動します。
リセット	投写中の入力信号に登録されたレンズの調整位置を削除します。
信号別読出し	信号を切り替えたときに、登録したレンズの調整位置にレンズを移動します。
映像ミュート	レンズ移動中に、映像をミュート（消去）するかしないかを選択します。

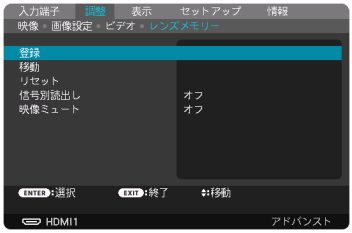
[参考]

- レンズメモリー機能はレンズの位置を保存すると信号リストに登録します。
  このため登録されたレンズの位置は映像調整や画像調整登録と同様に信号リストから呼び出すこともできます。（→ 107 ページ）
  なお、信号リストの［カット］および［全削除］をするとレンズの位置登録も同時に削除されますが、レンズの位置などは他の調整値が呼び出されるまで維持します。
- レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を、すべての入力信号共通のものとして保存する場合は、基準レンズメモリー（→ 137 ページ）で保存してください。

使いかた

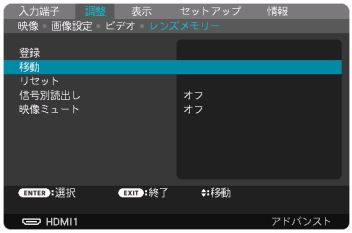
調整値の保存

1. 調整する接続機器の信号を投写します。
2. SHIFT/HOME POSITION 、ZOOM/L-CALIB. 、FOCUS ボタンを使って画面の投写位置、大きさ、フォーカスを調整します。
   - リモコンで調整することもできます。
     操作について詳しくは、「投写画面の位置と大きさを調整する」（→ 51 ページ）をご覧ください。
   - プロジェクター本体の移動、チルトフットによる調整量は除外されます。
3. レンズメモリーのメニュー画面で▲ / ▼ボタンを押して「登録」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
   確認画面を表示します。
4. ◀ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
   これで、保存ができました。



調整値を直接呼び出す

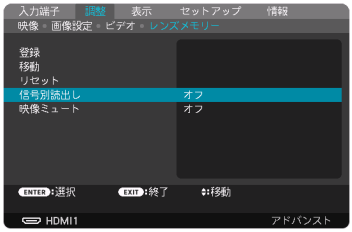
1. レンズメモリーで保存した映像を投写します。
2. レンズメモリーのメニュー画面で▲ / ▼ボタンを押して「移動」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
   確認画面を表示します。



3. ◀ボタンを押して「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
保存している信号の調整値にレンズが移動します。

信号を切り替えたときに自動でレンズ移動をさせるには

1. レンズメモリーのメニュー画面で▲ / ▼ボタンを押して「信号別読出し」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。
信号別読出し画面を表示します。



2. ▼ボタンを押して「オン」を選択し、ENTER ボタンを押します。
これで、保存している入力信号に切り替えると自動でレンズが移動します。

[注意]

- 信号リストの編集で投写中の入力信号をロック（チェックマークを付けている）している場合は、レンズメモリーの調整値は保存（書き換え）されません。調整値を保存するにはロックを解除してください。

5-5. 表示

PIP/PICTURE BY PICTURE

●サブ入力

子画面または副画面に表示する入力信号を選択します。
操作について詳しくは、「1 台のプロジェクターを使って 2 種類の映像を投写する（PIP/PICTURE BY PICTURE）」（→ 83 ページ）をご覧ください。

●モード

2 画面表示に切り替えたとき子画面設定（ピクチャーインピクチャー画面）にするか PICTURE BY PICTURE（ピクチャーバイピクチャー画面）にするかを選択します。

●表示位置入替え

PIP 画面は主画面と子画面、PICTURE BY PICTURE 画面は主画面と副画面の映像を入れ替えます。
詳しくは、「1 台のプロジェクターを使って 2 種類の映像を投写する（PIP/PICTURE BY PICTURE）」（→ 83 ページ）をご覧ください。

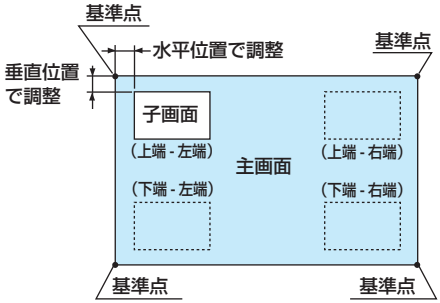
● PIP 設定

PIP 画面の子画面表示位置と位置調整、子画面のサイズを選択します。

開始位置	PIP 画面に切り替えたときの子画面表示位置の選択です。
水平位置	水平方向の子画面表示位置を調整します。各々コーナーが基準点となります。
垂直位置	垂直方向の子画面表示位置を調整します。各々コーナーが基準点となります。
サイズ	子画面の表示サイズを選択します。

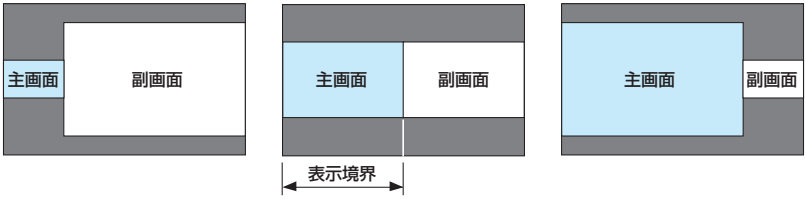
[参考]

水平位置、垂直位置は基準点からの移動量であり、たとえば上端 - 左端を調整すると他の開始位置で表示しても同じ移動量で表示されます。
最大移動量はプロジェクターの解像度の 1/2 です。



●表示境界

PICTURE BY PICTURE 画面の主画面と副画面の表示境界を、7 種類の中から選択します。



幾何学補正

●モード

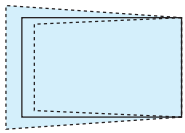
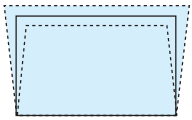
投写画面の歪みを補正する方法を選択します。
オフを選択すると、幾何学補正が無効になります。

[注意]

- メニュー角度を変更する場合は、幾何学補正の前にしてください。
  幾何学補正の後にメニュー角度を変更すると、幾何学補正の調整値がリセットされます。

●台形補正

投写画面の水平方向と垂直方向の台形歪みを調整します。

水平	スクリーンに対してプロジェクターを斜横方向から投写しているときの調整です。	
垂直	スクリーンに対してプロジェクターを上または下向きから投写しているときの調整です。	
水平シフト	レンズシフトで水平方向に画面を移動した状態で台形補正をするときの歪を調整します。	
垂直シフト	レンズシフトで垂直方向に画面を移動した状態で台形補正をするときの歪を調整します。	

<table>
<tr><td>投写比</td><td>使用しているオプションレンズの投写比に応じて調整します。
<table>
<tr><td>レンズユニットの形名</td><td>調整範囲</td><td>レンズユニットの形名</td><td>調整範囲</td></tr>
<tr><td>XP-51ZL/NP51ZL</td><td>5 ～ 7</td><td>XP-54ZL/NP54ZL</td><td>12 ～ 21</td></tr>
<tr><td>XP-52ZL/NP52ZL</td><td>6 ～ 9</td><td>XP-55ZL/NP55ZL</td><td>19 ～ 40</td></tr>
<tr><td>XP-53ZL/NP53ZL</td><td>8 ～ 13</td><td>XP-56ZL/NP56ZL</td><td>39 ～ 75</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

[注意]

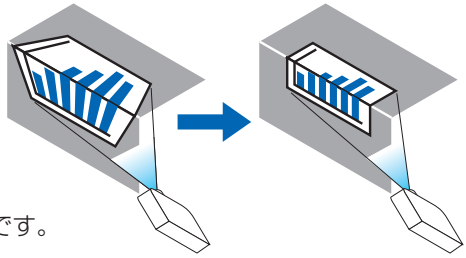
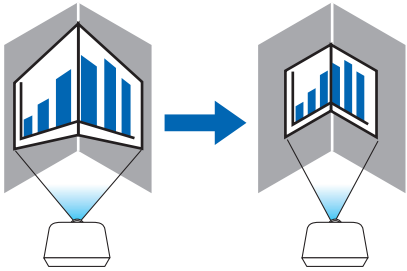
- 本機の電源を入れたとき、本機の傾きを変えても前回使用時の台形補正の調整値を保持しています。
- 台形補正は電気的な補正をしているため、輝度の低下や画質の劣化が現れる場合があります。
- 各項目の調整値の組み合わせによっては、調整範囲が制限される場合があります。

● 4 点補正

4 点補正画面を表示して、投写画面の台形歪みを調整します。
操作について詳しくは、「台形歪みを調整する（4 点補正）」（→ 66 ページ）をご覧ください。

●水平角打ち補正／垂直角打ち補正

壁面などのコーナー投写時の歪み補正です。

<table>
<tr><td>水平角打ち補正</td><td>水平方向に角になっている壁に対して投写する補正をします。
 
※ 逆角の補正も可能です。</td></tr>
<tr><td>垂直角打ち補正</td><td>垂直方向に角になっている壁に対して投写する補正をします。
 
※ 逆角の補正も可能です。</td></tr>
</table>

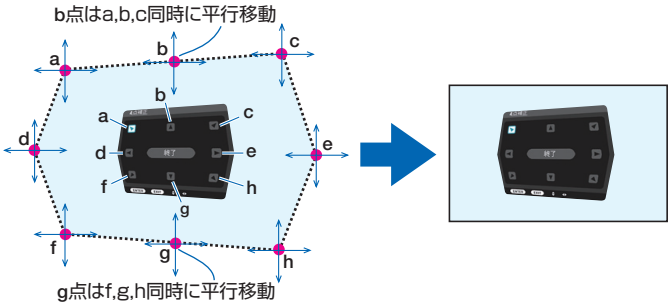
[注意]

- 最大調整範囲を超えると歪み調整はできなくなります。また歪み調整量が多くなると画質劣化が増大しますのでプロジェクターは最適な角度で設置してください。
- 角打ち投写は上下または左右の辺と画面中心との距離の違いによりフォーカスがあまくなりますのでご承知ください。また短焦点レンズでの角打ち投写はフォーカスが合わなくなりますのでおすすめできません。

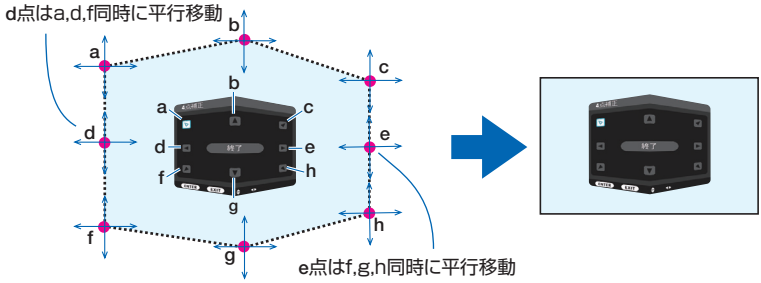
調整方法

1. 幾何学補正メニューの「水平角打ち補正」または「垂直角打ち補正」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   ・調整画面が表示されます。
2. ▲▼◀▶ボタンを押して、カーソル（黄色の枠）を目的の調整ポイントに合わせて、ENTER ボタンを押します。
   ・カーソルが調整ポイント（黄色）に変わります。
3. ▲▼◀▶ボタンを押して画面の角または辺を調整し、ENTER ボタンを押します。
   ・カーソル（黄色の枠）に戻ります。
   画面移動の説明
   ・4 隅の調整ポイント（図の a,c,f,h）は単独で移動します。
   ・次の調整ポイントは水平角打ち補正と垂直角打ち補正では異なります。
   水平角打ち：図の b 点を移動すると上辺、g 点を移動すると下辺が平行移動します。
   垂直角打ち：図の d 点を移動すると左辺、e 点を移動すると右辺が平行移動します。

【水平角打ち調整画面の調整ポイントと投写画面の移動ポイント】



【垂直角打ち調整画面の調整ポイントと投写画面の移動ポイント】



4. 他のポイントを調整するときは手順 2 と 3 を繰り返します。
5. 調整が終わりましたら、▲▼◀▶ボタンを押して調整画面の「終了」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   調整終了画面が表示されます。
6. ◀ / ▶ボタンを押して「確定」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   水平角打ち補正または垂直角打ち補正の調整が確定され、幾何学補正画面に戻ります。

[参考]

- 市販の USB マウスを接続して補正することができます。（→ 69 ページ）

●ワープ

円柱面や球面等の特殊形状スクリーンに投写するときの歪み補正です。

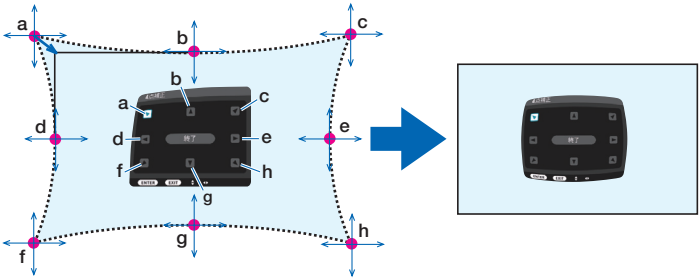
[注意]

- 最大調整範囲を超えると歪み調整はできなくなります。また歪み調整量が多くなると画質劣化が増大しますのでプロジェクターは最適な角度で設置してください。
- 円柱面や球面等への投写は、画面中心と周辺との距離の違いによりフォーカスがあまくなりますのでご承知ください。また短焦点レンズでの投写はフォーカスが合わなくなりますのでおすすめできません。

調整方法

1. 幾何学補正メニューの「ワープ」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   ・調整画面が表示されます。
2. ▲▼◀▶ボタンを押して、カーソル（黄色の枠）を目的の調整ポイントに合わせて、ENTER ボタンを押します。
   ・カーソルが調整ポイント（黄色）に変わります。

3. ▲▼◀▶ボタンを押して画面の角または辺のわん曲歪みを調整し、ENTER ボタンを押します。
   ・カーソル（黄色の枠）に戻ります。
   画面移動の説明
   ・8 点の調整ポイントは単独で移動します。
   ・左右辺は◀ / ▶ボタンで歪みの大きさ、▲ / ▼ボタンで歪みの中心位置を調整します。
   ・上下辺は▲ / ▼ボタンで歪みの大きさ、◀ / ▶ボタンで歪みの中心位置を調整します。
   ・コーナーは、▲▼◀▶ボタンで位置を移動します。



   ※図は球面に投写されている画面の補正イメージです。
4. 他のポイントを調整するときは手順 2 と 3 を繰り返します。
5. 調整が終わりましたら、▲▼◀▶ボタンを押して調整画面の「終了」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   調整終了画面が表示されます。
6. ◀ / ▶ボタンを押して「確定」にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押します。
   ワープの調整が確定され、幾何学補正画面に戻ります。

[参考]

- 市販の USB マウスを接続して補正することができます。（→ 69 ページ）

● PC ツール

本機にあらかじめ登録されている幾何学補正のデータを呼び出します。
登録データは 3 つあります。
また、当社のアプリケーションソフト ProAssist で調整して本機に登録した幾何学補正のデータを呼び出します。

[注意]

- 幾何学補正は電気的な補正をしているため、輝度の低下や画質の劣化が現れる場合があります。

●リセット

幾何学補正のモードで選択されている項目の調整値をリセット（初期値に戻す）します。
モードがオフのときは無効です。
・リモコンの Geometric. ボタンを 2 秒以上押してもリセットできます。

エッジブレンディング

本機を左右上下に複数台組み合わせて、解像度の高い映像を投写する際に、投写画面の端（境界）を調整します。

●モード

エッジブレンディング機能の有効・無効を設定します。
モードをオンに設定するとマーカー、上端、下端、左端、右端、黒レベル、ブレンドカーブを設定・調整できます。

●マーカー

範囲と表示位置調整時にマーカーを表示するかしないかを設定します。オンにすると、範囲調整用はマゼンタと赤、表示位置調整用はシアンと緑のマーカーが表示されます。

●上端、下端、左端、右端

画面の上下左右のエッジブレンディング箇所を選択します。項目を選択すると以下の設定・調整ができます。（→ 89 ページ）

制御	上端、下端、左端、右端の有効・無効を設定します。
範囲	エッジブレンディングの範囲（幅）を調整します。
位置	エッジブレンディングの設定位置を調整します。

●ブレンドカーブ

エッジブレンディング部分の明るさを設定します。（→ 91 ページ）

●黒レベル

エッジブレンディング部分の黒レベルを調整します。（→ 91 ページ）

映像設定

映像エリアを縮小拡大して任意の位置に表示したり、複数台のプロジェクターを組み合わせて投写する場合の分割条件を設定します。詳しくは、「マルチスクリーン投写」（→ 82 ページ）をご覧ください。

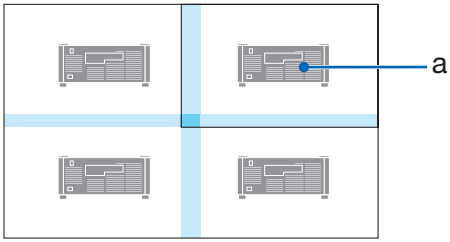
モード	オフ	プロジェクターを単体で使用します。
	ズーム	分割したい映像エリアの位置、映像幅を調整します。
	タイリング	分割画面をプロジェクターに割り当てます。
ズーム	水平拡大	映像エリアを横方向に拡大します。
	垂直拡大	映像エリアを縦方向に拡大します。
	水平位置	映像エリアを横方向に移動します。
	垂直位置	映像エリアを縦方向に移動します。
タイリング	横台数	プロジェクターを横に並べた台数を選択します。
	縦台数	プロジェクターを縦に並べた台数を選択します。
	横順番	横に並べた台数中、左から何番目のプロジェクターかを選択します。
	縦順番	縦に並べた台数中、上から何番目のプロジェクターかを選択します。

タイリングの使用条件

- すべてのプロジェクターは下記の条件を満たしている必要があります。
  - ・パネルサイズが同じ
  - ・投写画面サイズが同じ
  - ・投写画面の左右端または上下端が一致していること
  - ・エッジブレンディングの左端と右端の設定が同じ
  - ・エッジブレンディングの上端と下端の設定が同じ

  タイリング条件を満たしていれば、各設置位置のプロジェクターの映像画面を自動で抽出して投写します。
  タイリング条件を満たしていない場合は、ズームで各設置位置ごとのプロジェクターの映像画面を調整してください。
- 各プロジェクターに対して異なるコントロール ID を設定してください。
- ブルーレイプレーヤー（またはコンピューター）のカラー設定、DeepColor 設定は、自動に設定してください。詳しくはブルーレイプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
  ブルーレイプレーヤー（またはコンピューター）の HDMI 信号は、1 台目のプロジェクターに接続してください。そして、1 台目のプロジェクターの HDBaseT OUT ポートとタイリングする２台目のプロジェクターの HDBaseT IN ポートを接続し、３台目以降も同様に接続します。

タイリング設定（例）横台数 =2 台、縦台数 =2 台



a: 横の順番 =2 台目、縦の順番 =1 台

マルチスクリーン

●ホワイトバランス

複数台のプロジェクターを組み合わせて投写する場合、プロジェクターごとのホワイトバランスを調整します。

モード	「オン」のとき調整ができます。
コントラスト　白 コントラスト　赤 コントラスト　緑 コントラスト　青	映像の白色を調整します。
明るさ　白 明るさ　赤 明るさ　緑 明るさ　青	映像の黒色を調整します。

5-6. セットアップ

メニュー設定（1）

●言語

メニューに表示される言語を選択します。

●表示色選択

本機のメニューをカラーで表示するか、モノクロで表示するかを選択します。

● OSD 輝度

オンスクリーン表示（メニュー、入力端子、メッセージ）の明るさを 10 段階から選択します。

●入力端子表示

投写画面右上に入力端子を表示するか、しないかを選択します。
「オン」を選択した場合は、入力信号を切り替えたときに、画面右上に「HDMI1」などの入力端子名を表示します。

●メッセージ表示

投写画面下側に本機のメッセージを表示するか、しないかを選択します。
「オフ」を選択しても、スタートアップロック中の警告は表示されます。スタートアップロック中の警告は、ロックを解除すると表示が消えます。

● ID 表示

複数台のプロジェクターを本機のリモコンやコントロール ID 機能対応のリモコンを使って操作する場合、リモコンの ID SET ボタンを押したときに、コントロール ID 画面を表示するか、しないかを選択します。設定はコントロール ID（→ 144 ページ）をご覧ください。

●表示時間

メニューを表示しているとき、次のボタン操作がない場合にメニューを自動的に閉じるまでの時間を選択します。

メニュー設定（2）

●メニュー角度

オンスクリーン表示（メニュー、入力端子、メッセージ）の向きを選択します。

●メニュー位置

メニューを表示する位置を変更します。9 箇所から選択できます。

[参考]

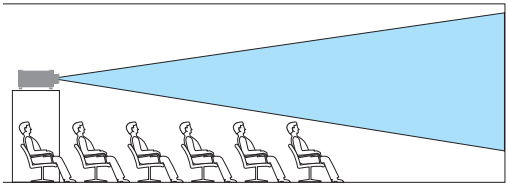
- 本機の電源を切っても、メニューの表示位置は保存されます。
- メニュー角度を変更すると、メニューの表示位置は工場出荷状態に戻ります。
- 入力端子やメッセージの表示位置は変わりません。

設置（1）

●投写方法

本機やスクリーンの設置状況に合わせて選択してください。

⚠ 警告	天吊りやアイボルトを使用して吊り下げるなどの特別な工事が必要な設置についてはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご相談ください。 お客様による設置は絶対にしないでください。 落下してけがの原因となります。

自動	デスク / フロントと天吊り / フロントを自動で検知して投写します。 [注意] ● デスク / リアと天吊り / リアは検知しません。手動で選択してください。
デスク／フロント	テーブルに設置してスクリーンの前面から投写 

天吊り／リア	天井に設置してスクリーンの背面から投写
デスク／リア	テーブルに設置してスクリーンの背面から投写
天吊り／フロント	天井に設置してスクリーンの前面から投写

[参考]

- 自動のデスク / フロントは床置で約± 10 度以内、天吊り / フロントは天吊りで約± 10 度以内の設置状態で判定します。投写画面が逆さになっているときは、手動で選択してください

●スクリーン

スクリーンタイプ

投写するスクリーンの比率を設定します。

フリー	液晶パネルの比率になります。マルチスクリーン投写のときは、構成した画面の比率がスクリーンの比率になります。
4：3 スクリーン	縦横比が 4：3 のスクリーンの場合
16：9 スクリーン	縦横比が 16：9 のスクリーンの場合
16：10 スクリーン	縦横比が 16：10 のスクリーンの場合

[注意]

- スクリーンタイプを変更したら、必ずアスペクトの設定を確認してください。(→ 117 ページ)

表示位置

スクリーンの位置を調整します。
ご使用の機種とスクリーンタイプの設定によって、調整が無効になったり、調整可能な範囲が変わります。

●壁色補正

映像を投写する面がスクリーンではなく、部屋の壁などの場合、メニューから壁の色に近い項目を選択すると、壁の色に適応した色合いに補正して投写できます。

[注意]

- 「ホワイトボード」を選択すると、明るさが低下します。

●基準ライトモード

使用目的などに合わせてライトモードを選択できます。また、出力を調整して輝度(明るさ)を変えることができます。
また、複数台のプロジェクターを組み合わせて投写するときに、各プロジェクター間の輝度合わせができます。

基準ライトモード	ノーマル	標準的なモードです。
	静音	動作音を下げることを優先するモードです。
	長寿命	光学部品の寿命を延ばすことを優先するモードです。
基準ライト調整		基準ライトモードごとに出力を 1%刻みで調整して保存できます。 映像のモードが「スタンダード」のとき調整が有効になります。(→ 110 ページ) 調整範囲は基準ライトモードの設定により異なります。 ノーマル：70 ～ 100 % 静音、長寿命：70 ～ 90 %

次ページに続く

輝度一定モード	オフ	輝度一定モードが解除されます。
	オン	「オン」に切り替えた時点の明るさを基準にして、明るさを一定に保つように制御します。調整値は「オフ」にしない限り電源を切っても記憶しています。 ・再度輝度調整を実施する場合は、一度「オフ」にしてから輝度調整してください。

[注意]

- 壁色補正を「ホワイトボード」に設定している場合は、基準ライトモードを選択できません。
- 輝度一定モードを「オン」に設定している場合は、基準ライトモードと基準ライト調整は選択できません。

[参考]

- 通常は使用時間に応じて輝度が下がりますが、輝度一定モードを設定すると、本体内部のセンサーで輝度を検出して出力を自動調整し、輝度を維持できます。
  ただし、出力が最大になった後は、使用時間に応じて輝度が下がります。
  このため、マルチスクリーン投写の輝度設定は輝度を少し抑えた輝度に調整し、その後輝度設定モードを「オン」にしておくことをお勧めします。

●基準ホワイトバランス

各信号共通のホワイトバランスを調整します。
信号の白レベルと黒レベルを調整して色再現性を最良にします。

コントラスト　赤 コントラスト　緑 コントラスト　青	画面の白色を調整します。
明るさ　赤 明るさ　緑 明るさ　青	画面の黒色を調整します。

●コンバージェンス

画面の色ずれを調整します。
水平 赤、水平 緑、水平 青は水平方向、垂直 赤、垂直 緑、垂直 青は垂直方向に± 1 画素の調整ができます。

●スリープ音声出力

本機がスリープ状態のときに、音声出力端子から音声信号を出力するかしないかを選択します。

設置（2）

●シャッター設定

投写光を遮断する機能を設定します。

パワーオンシャッター	開	電源を入れた時に光源が点灯し、映像が投写されます。
	閉	電源を入れても光源が点灯しません。 リモコンの SHUTTER ボタンを押すと、シャッターが解除されて光源が点灯します。
映像ミュートシャッター	開	入力端子の切り替えなどの操作で映像が消えたときに、光源が点灯したままになります。
	閉	入力端子の切り替えなどの操作で映像が消えたときに、光源が消灯します。
フェードイン時間	リモコンの SHUTTER ボタンを押したときに、光源を点灯して徐々に明るくしていく時間の設定です。 0 ～ 10 秒まで 1 秒刻みの設定ができます。	
フェードアウト時間	リモコンの SHUTTER ボタンを押したときに、光源を消灯して徐々に暗くしていく時間の設定です。 0 ～ 10 秒まで 1 秒刻みの設定ができます。	

●基準レンズメモリー

スクリーンへの投写位置、大きさ（レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値）をすべての入力信号共通のものとして、本機の基準レンズメモリーに保存することができます。基準レンズメモリーを利用すると、レンズシフト、ズーム、フォーカスの調整を変更したときに、基準レンズメモリーに保存している調整値に簡単に戻すことができます。
（→ 77 ページ）

プロファイル	登録するプロファイル番号を選択します。
登録	選択したプロファイル番号に、すべての入力信号共通のものとして、レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を保存します。
移動	選択したプロファイル番号の基準レンズメモリーに保存されているレンズの調整値にレンズを移動します。
リセット	選択したプロファイル番号の基準レンズメモリーの内容を工場出荷状態に戻します。
信号別読出し	信号を切り替えたときに、選択したプロファイル番号のレンズの調整値にレンズを移動します。 レンズメモリーに調整値が保存されていない場合は、基準レンズメモリーの調整値にレンズを移動します。また、基準レンズメモリーに調整値が保存されていない場合は工場出荷状態に戻ります。
映像ミュート	レンズ移動中に、映像をミュート（消去）するかしないかを選択します。

[参考]

- レンズシフト、ズーム、フォーカスの各調整値を、入力信号ごとに保存する場合は、レンズメモリーで保存してください。（→ 120 ページ）

●レンズポジション

レンズの位置をホームポジションに戻します。

●レンズキャリブレーション

レンズの調整範囲を校正します。
レンズユニットを交換したあとは、必ずレンズキャリブレーションを実施してください。

●アダプティブフォーカス

投写レンズ内部の温度変化によって発生するフォーカスのずれを軽減します。

有効	オン：アダプティブフォーカスを有効にします。オンにしたときの調整値に合わせて周期的にフォーカスを微調整します。フォーカス（中央／周辺）とズームは操作できなくなります。 オフ：アダプティブフォーカスを無効にします。
強度	補正の強さを 3 段階から選択します。
速度	補正の頻度を 3 段階から選択します。

[参考]

- 以下の操作をすると、アダプティブフォーカスが「オフ」になります。
  ・本体またはリモコンの FOCUS ボタンを 10 秒以上押し続ける
  ・レンズのキャリブレーションを実行する

●レンズ移動量

フォーカスおよびズームの調整画面を表示中に◀ / ▶ボタンを短く押したときの調整量を、5 段階から選択して設定します。調整量は 1 が最小で 5 が最大です。

●色むら補正（ツール）

当社のアプリケーションソフト ProAssist で調整して本機に登録した色むら補正（ユニフォミティ）の調整値を呼び出します。

●ガンマ（ツール）

当社のアプリケーションソフト ProAssist で調整して本機に登録した中間調ガンマの調整値を呼び出します。

制御（1）

●ツール

管理者モード

本機のメニューモードの選択、プロジェクター全体の設定値の保存の有効／無効、管理者モードのパスワードの設定をします。

メニューモード	ベーシックメニューとアドバンストメニューを選択します。それぞれのメニューで使用できる項目は 100 ページをご覧ください。	—
設定値を保存をしない	☑（チェックマークを付ける）…オンスクリーンメニューで設定した項目の値を保存しない場合にチェックマークを付けます。 ■（チェックマークを外す）……オンスクリーンメニューで設定した項目の値を保存する場合にチェックマークを外します。	—

プログラムタイマー

曜日や時刻を設定することにより、本機の電源オン／スタンバイや映像信号の切り替え、およびライトモードの切り替えが自動でできます。たとえば、上の画面の設定では、日曜日の 9 時に電源がオンになり、9 時 1 分に HDMI 1 入力端子の画面に切り替わり、17 時に電源がスタンバイ状態になります。

[重要]

- 「プログラムタイマー」を使用するときは、必ず「日付と時刻設定」に現在の日付／時刻を設定してください（→ 143 ページ）。
  また、本機をスタンバイ状態にしておいてください。本機の電源コードを外したあと、そのまま約 1 ヶ月以上経過すると、日付・時刻が工場出荷状態に戻り、時計機能は停止します。時計機能が停止した場合は、再度「日付と時刻設定」をしてください。

プログラムを新しく設定する

1. プログラムタイマー画面で▲/▼ボタンを押して［設定］にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

プログラムリスト画面が表示されます。

2. 予定が入っていない番号にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

編集画面が表示されます。

3. 編集画面で、各項目を設定したい内容に変更する。

動作	チェックマークを付けるとプログラムが有効になります。
曜日	プログラムを実行する曜日を設定します。「月 - 金」を選択すると月曜日から金曜日まで毎日、「月 - 土」を選択すると月曜日から土曜日まで毎日、「毎日」を選択すると毎日実行されます。
時刻	プログラムを実行する時刻を設定します。時刻は 24 時間表記で入力します。
機能	実行したい機能を設定します。「電源」を選択すると［詳細設定］で電源のオン／オフ、「入力端子」を選択すると［詳細設定］で入力信号、「ライトモード」を選択すると［詳細設定］でライトモードの設定を選べるようになります。
詳細設定	［機能］で選択した内容に応じて、電源のオン／オフ、入力信号、またはライトモードを選択します。
繰り返し	プログラムを継続して実行する場合はチェックマークを付けます。一度だけ実行する場合はチェックマークを付けません。

4. 設定が終わったら「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

これで設定が終わり、プログラムリスト画面に戻ります。

5. （戻る）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。

プログラムタイマー画面に戻ります。

6. EXIT ボタンを押す。

ツール画面に戻ります。

[注意]

- プログラムは 30 個まで設定できます。
- ［繰り返し］にチェックを付けていないプログラムは、一度実行すると自動的に［動作］のチェックが外されて無効になります。
- 電源オン時刻、および電源オフ時刻が同時刻に重なるときは、電源オフのプログラムが優先されます。
- 異なる入力端子の映像信号設定が同時刻に重なるときは、プログラム番号の大きいプログラムが優先されます。
- 冷却ファン回転中やエラー状態のときは、電源オンの時刻になっても電源オンは実行されません。
- 電源オフできない状態のときに電源オフの時刻になると、電源オフができる状態になったときに電源オフが実行されます。
- プログラムタイマーの［有効］にチェックが付いていても［動作］にチェックが付いていないプログラムは実行されません。
- 電源オンのプログラムを設定したときは、本機の電源が入ったままにならないように電源オフのプログラムを設定するか、手動で電源をオフにしてください。

プログラムタイマーを有効にする

1. プログラムタイマー画面で［プログラムタイマー］の［有効］にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押す。

選択画面が表示されます。

2. ▼ボタンを押して［オン］にカーソルを合わせて、ENTER ボタンを押す。

プログラムタイマー画面に戻ります。

[注意]

- プログラムタイマーの有効設定が「オン」に設定されていないときは、プログラムリストの［動作］の項目にチェックが付いていてもプログラムは実行されません。
- プログラムタイマーの有効設定が「オン」に設定されていても、プログラムタイマー画面を閉じるまではプログラムタイマーは動作しません。

プログラムを編集する

1. **プログラムリスト画面で編集したい番号にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
2. **編集画面で設定を変更する。**
3. **設定が終わったら「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   これで設定が終わり、プログラムリスト画面に戻ります。

プログラムの順番を変更する

プログラムタイマーは、設定時刻の早い順にプログラムを実行します。

1. **プログラムリスト画面で順番を変更したい番号にカーソルを合わせ、▶ボタンを押す。**
2. **▼ボタンを押して「▲」または「▼」を選択する。**
3. **希望の位置まで移動するまで ENTER ボタンを数回押す。**
   これでプログラムの順番が変更されます。

プログラムを削除する

1. **プログラムリスト画面で削除したい番号にカーソルを合わせ、▶ボタンを押す。**
2. **▼ボタンを押して（削除）にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   確認画面が表示されます。
3. **「はい」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押す。**
   削除されプログラムリスト画面に戻ります。

日付と時刻設定

本機に日付と時刻およびタイムゾーンを設定します。

タイムゾーン設定	・時刻を設定するときに必ず「タイムゾーン」も設定してください。 ・日本の時刻の場合は UTC「 +09:00」を選択します。
日付と時刻設定	・日付 月／日／年を設定します。 ・時刻 時／分を設定します。 ・インターネット時刻サーバー チェックマークを付けると、本機の電源を入れたときに、インターネット時刻サーバーと同期します。インターネット時刻サーバーの IP アドレス、またはホスト名を入力してください。 ・更新 「インターネット時刻サーバー」にチェックマークを付けたときに有効になります。インターネット時刻サーバーと同期して、直ちに時刻を更新します。
夏時間設定	「有効」にチェックマークを付けると、夏時間を設定できます。

[注意]

- 時計機能を使用する場合は、本機を使用しないときでも電源コードを抜かずにスタンバイ状態にしておいてください。
  本機の電源コードを外したあと、そのまま約 1 ヶ月以上経過すると、日付と時刻が工場出荷状態に戻り、時計機能は停止します。時計機能が停止した場合は、再度「日付と時刻設定」をしてください。

マウス設定

本機の USB-A ポートに市販の USB マウスを接続してメニュー操作をする場合に、USB マウスの動作を設定します。

ボタン設定	右手用か左手用かを選択します。
スピード設定	マウスポインターの動く速さを、高速、標準、低速の３つから選択します。

[注意]

- 市販されているすべての USB マウスの動作を保証するものではありません。

●本体キーロック

プロジェクター本体にある操作ボタンを動作しないようにします。

オフ	本体操作部のボタンが働きます。
オン	本体操作部のボタンが利かなくなります（ロック）。

[注意]

- 本体キーロックの解除方法
  本体キーロックが「オン」に設定されているときに、本体の EXIT ボタンを約 10 秒間押すと、本体キーロックの設定が解除されます。

[参考]

- 本体キーロック中は、メニュー画面右下に「🔒」アイコンが表示されます。
- 本体の操作ボタンがロックされていてもリモコンのボタンは動作します。

●通信速度

PC コントロール端子のデータ転送速度を設定します。接続する機器と転送速度を合わせてください。

[注意]

- 当社のアプリケーションソフト（NaViSet Administrator 2、Virtual Remote Tool など）を使用する場合は、38400 bps 以下に設定してください。

● PC CONTROL（HDBaseT）

市販の HDBaseT 対応の伝送機器を経由して、コンピューターから RS-232C で本機を制御する場合は、「オン」に設定します。

●コントロール ID

複数台のプロジェクターに ID を割り振り、1 個のリモコンを使用して、ID を切り替えることにより、各々のプロジェクターを個別に操作することができます。
また、複数台のプロジェクターに同じ ID を設定し、1 個のリモコンで一括操作する場合などに利用します。

コントロール ID 番号	割り当てる番号を 1 ～ 254 の中から選択します。	
コントロール ID	オフ	コントロール ID 機能が無効になります。
	オン	コントロール ID 機能が有効になります。

［注意］

- コントロール ID を「オン」にすると、コントロール ID 機能に対応していないリモコンからは操作できなくなります（本体操作ボタンは除く）。

［参考］

- 本体の ENTER ボタンを 10 秒間押し続けると、コントロール ID を解除するメニューが表示されます。

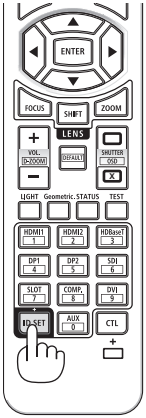
リモコンへの ID の設定／変更方法

1. プロジェクターの電源を入れる。

2. リモコンの ID SET ボタンを押す。

コントロール ID 画面が表示されます。

このとき、現在のリモコン ID で操作できる場合は「動作」、操作できない場合は「非動作」画面が表示されます。
「非動作」になっているプロジェクターを操作したい場合は、手順 3 でプロジェクターのコントロール ID 番号と同じ番号をリモコンに設定します。

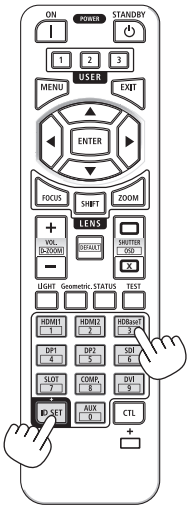


3. リモコンの ID SET ボタンを押したまま数字ボタンを押して、リモコンの ID を設定する。

たとえば「3」に変更するには数字の 3 を押します。
ID なし（すべてのプロジェクターを一括操作）にするには、000 を入力します。また、ID SET ボタンを押したまま数字の 0 を押すと、コントロール ID 設定を解除します。

［参考］

- リモコンの ID は 1 ～ 254 まで登録できます。



4. ID SET ボタンを離す。

コントロール ID 画面が表示されます。
このとき、変更されたリモコン ID で動作・非動作画面が更新されます。

[注意]

- リモコンの乾電池が消耗した場合や乾電池を抜いた場合、しばらくすると ID はクリアされることがあります。
- リモコンの乾電池を抜いた状態でいずれかのボタンを押してしまうと、設定している ID はクリアされます。

●リモコン受光部設定

本体前面と後面のリモコン受光部を設定します。

前側／後側	前面および後面のリモコン受光部を有効にします。
前側	前面のみのリモコン受光部を有効にします。
後側	後面のみのリモコン受光部を有効にします。
HDBaseT	市販の HDBaseT 対応の伝送機器との接続時、伝送機器側でリモコン信号の伝送を設定し、リモコン操作する場合に選択します。

[注意]

- 「HDBaseT」に設定しているとき、本機に接続している HDBaseT 対応の伝送機器の電源が入っていると、本機のリモコンは受信できません。

[参考]

- 本機を天吊り設置したときなどに、蛍光灯の影響でリモコンが利きづらくなる場合があります。その場合はリモコン受光部設定を変更してみてください。

●ユーザーキー

リモコンの USER1/2/3 ボタンに割り当てる機能を選択します。
機能を無効にする場合は「---」を選択します。

【選択可能な機能】

コントラスト 明るさ シャープネス カラー 色相	投写している映像を調整します。（→ 115 ページ）
静止	投写している映像を静止画にします。もう一度ボタンを押すと戻ります。
映像消去	映像を一時的に消します。もう一度ボタンを押すと戻ります。
音声消去	音声を一時的に消します。もう一度ボタンを押すと戻ります。
AV ミュート	映像と音声を一時的に消します。もう一度ボタンを押すと戻ります。
自動調整	投写している映像を最適な状態に自動調整します。
PIP/PBP	「サブ入力」を選択して 2 つの映像を同時に投写します。（→ 123 ページ）
基準レンズメモリー 1	基準レンズメモリーの「プロファイル 1」に登録されている調整値を呼び出して、レンズシフト、ズーム、フォーカスを自動で調整します。（→ 137 ページ）
基準レンズメモリー 2	基準レンズメモリーの「プロファイル 2」に登録されている調整値を呼び出して、レンズシフト、ズーム、フォーカスを自動で調整します。（→ 137 ページ）
レンズキャリブレーション	レンズの調整範囲を校正します。（→ 138 ページ）

[参考]

- USER1 ボタンには、工場出荷時に自動調整機能を設定しています。
- ユーザーキーの機能はプロジェクター側に設定されます。1 個のリモコンで複数台のプロジェクターを操作する場合は、すべてのプロジェクターに同じユーザーキーを設定する必要があります。

●コマンドフォーマット

コンピューターを本機の PC コントロール端子に接続して本機を制御するときのコマンドのフォーマットを切り替えます。

制御 (2)

●管理者パスワード

プロジェクター管理者用のパスワードを設定します。
管理者パスワードを設定すると、以下の項目で確認画面が表示され、パスワードの入力が必要になります。

オンスクリーンメニュー：管理者モード、スタートアップロック、管理者パスワード、ユーザーアカウント、ネットワーク設定、プロジェクター初期化
HTTP サーバー：NETWORK タブ、LOGO タブ

編集	パスワードを設定します。 5 文字から 16 文字までの英数字で設定してください。 **[重要]** ● パスワードは、忘れないように必ずメモしておいてください。 パスワードを設定しない場合は、空欄のまま「確定」を選択します。
ログアウト	管理者パスワードを入力したログオン状態を解除します。
リセット	管理者パスワードを解除します。 リセットコード入力画面に表示されている解除コード「XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXX」（X は英数字）をお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ連絡してください。折り返し通知されるリセットコードを入力すると管理者パスワードを解除できます。

[注意]

● パスワードを入力する時に、周囲の人にパスワードを盗み見られて悪用されないように、パスワードの入力に細心の注意を払ってください。
もし盗み見られたと思った場合は、速やかにパスワードを変更してください。

[参考]

● 管理者パスワードを入力してログオン中は、メニュー画面下に「 」アイコンが表示されます。
● ログオン中に 30 分間ボタン操作がないと、自動でログアウトされます。

●ユーザーアカウント

HTTP サーバーの認証や認証付き PC CONTROL で使用するユーザーアカウントを 3 種類登録できます。

編集	ユーザー名とパスワードを設定します。 5 文字から 16 文字までの英数字で設定してください。 **[重要]** ● パスワードは、忘れないように必ずメモしておいてください。
有効	ユーザーアカウントの有効／無効を選択します。 オン…… ユーザーアカウントを有効にします。 オフ…… ユーザーアカウントが無効になります。このユーザーアカウントでは、認証が必要な HTTP サーバーへ接続したり認証付き PC CONTROL で本機を操作することができません。
削除	ユーザーアカウントに登録したユーザー名とパスワードを削除します。 **[注意]** ● ユーザー 1 、ユーザー 2 、ユーザー 3 のすべてのユーザーアカウントを削除した場合は、認証が必要な HTTP サーバーへ接続したり認証付き PC CONTROL で本機を操作することができません。

[注意]

● パスワードを入力する時に、周囲の人にパスワードを盗み見られて悪用されないように、パスワードの入力に細心の注意を払ってください。
もし盗み見られたと思った場合は、速やかにパスワードを変更してください。

●スタートアップロック

スタートアップロックキーワードを登録することで、本機を無断で使用されないようにすることができます。
スタートアップロックを有効にすると、本機の電源を入れたときにスタートアップロックキーワード入力画面が表示され、正しいキーワードを入力しなければ映像は投写されません。
スタートアップロック設定のしかたは「スタートアップロックを設定して無断使用を防止する」（→ 71 ページ）をご覧ください。

オフ	スタートアップロックを無効にします。
オン	スタートアップロックキーワードを設定してスタートアップロックを有効にします。

●同期制御

マルチスクリーン投写やスタック投写など、複数のプロジェクターで投写しているときに、1 個のリモコンですべてのプロジェクターに対して同時に同じ操作ができます（→ 93 ページ）。メインに設定したプロジェクターが、HDBaseT のデイジーチェーン（→ 180 ページ）または有線 LAN（→ 181 ページ）で接続されたサブプロジェクターを制御します。

同期する機能： 電源オン／オフ、AV ミュート、シャッター開／閉、信号ミュート、ダイナミックコントラスト、オートブラックシャッター

メインプロジェクターを設定すると、サブプロジェクターへモード、メイン IP アドレス、信号ミュートの設定が通知されて、同期制御が有効になります。

モード	オフ：同期制御を無効にします。 メイン、サブ：メインプロジェクターとサブプロジェクターを設定します。 メインプロジェクターに設定できるのは 1 台のみです。
台数	同期制御を設定するプロジェクターの合計台数を 2、3、4 から選択します。
IP アドレス	**[メインプロジェクターの場合]** メイン：メインプロジェクターの IP アドレスが表示されます。 サブ 1 ～ 3：サブプロジェクターの IP アドレスを設定します。 **[サブプロジェクターの場合]** メイン：メインプロジェクターの IP アドレスを設定します。 サブ 1 ～ 3：サブプロジェクターで設定されている IP アドレスが表示されます。変更はできません。
信号ミュート	入力端子切り替えと信号切り替えのときに、映像と音声のミュート（消去）を同期するかしないかを選択します。 メインプロジェクターで設定します。

[注意]

- 有線 LAN のプロファイルを「無効」に設定している場合は、モードを選択できません。
- PIP/PICTURE BY PICTURE のサブ入力を「オフ」以外に設定している場合は、信号ミュートを選択できません。
- SDI を接続する場合は、有線 LAN の接続例 (→ 181 ページ) に従ってください。SDI に加えて HDMI などを接続する場合も、映像信号は分配器を使って各々のプロジェクターに入力してください。
- 接続機器や入力信号の状態によっては、ミュートが極端に長くなる、ミュートを繰り返す、ミュートが同期しないなどの現象が起こることがあります。デイジーチェーンで接続している場合は、有線 LAN 接続（→ 181 ページ）に変更すると改善することがあります。有線 LAN 接続でも上記の現象が起こる場合は、信号ミュートを「オフ」にしてください。
- 同期制御を設定した後に、サブプロジェクターの設定を変更する場合は、サブプロジェクター側で操作してください。

ネットワーク設定

本機をネットワークに接続して使用する際の各種設定をします。

[重要]

- 本機をネットワーク環境で使用する場合は、必ずネットワーク管理者の指示に従って設定してください。
- 有線 LAN を使う場合は、本機の LAN ポートに LAN ケーブルを接続してください。（→ 179 ページ）
  LAN ケーブルは、市販のカテゴリ 5e 以上のシールド付きツイストペア（STP）ケーブルを使用してください。
- 工場出荷時は、有線 LAN の設定が「無効」になっています。ネットワークに接続するには、有線 LAN の設定を「無効」から「プロファイル 1」または「プロファイル 2」に変更して、有線 LAN を有効にしてください。（→ 153 ページ）

ネットワーク設定のヒント

- **LAN の設定をするには？（設定を本機のメモリーに記憶するには？）**
  有線 LAN の「プロファイル」から、設定を記憶するプロファイル番号を選択します。本機では、2 とおりメモリーに記憶することができます。
  続いて、「DHCP」の有効／無効、「IP アドレス」、「サブネットマスク」などの設定後、「確定」にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押します。（→ 153 ページ）

- **プロファイル番号に記憶した設定を呼び出すには？**
  有線 LAN の「プロファイル」から呼び出すプロファイル番号を選択します。続いて「確定」にカーソを合わせ、ENTER ボタンを押します。（→ 153 ページ）

- **DHCP サーバーに接続するには？**
  有線 LAN の「DHCP」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。チェックマークが付きます。「DHCP」にカーソルを合わせ、もう一度 ENTER ボタンを押すと、チェックマークが外れます。DHCP サーバーを使用せず直接 IP アドレスを設定する場合は、「DHCP」のチェックマークを外してください。（→ 153 ページ）
- **プロジェクターの各種のエラーを E メールで受け取るには？**
  ［アラートメール］メニューで［メール通知］にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押します。チェックマークが付きます。続いて、［差出人アドレス］や［SMTP サーバー名］、［宛先アドレス］などを設定し、［確定］にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押します。（→ 154 ページ）

●有線 LAN

インターフェース	有線 LAN の接続に LAN ポートを使用する場合は「LAN」、HDBaseT IN ポートを使用する場合は「HDBaseT」を選択します。	—
プロファイル	・有線 LAN の設定を 2 とおり、本機のメモリーに記憶することができます。 ・「プロファイル 1」、「プロファイル 2」を選択し、「DHCP」以下の項目を設定します。設定が終わったら、画面下の「確定」にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押します。設定内容が本機のメモリーに記憶されます。 ・本機のメモリーに記憶した設定を呼び出す場合は、「プロファイル」から選んで画面下の「確定」にカーソルを合わせ、ENTER ボタンを押します。 ・有線 LAN と接続しないときは「無効」を選択します。	—
DHCP	本機を接続するネットワークが、DHCP サーバーによって IP アドレスを自動的に割り当てる場合は、チェックマーク（☑）を付けます。自動的に割り当てられない場合は、チェックマークを付けずに、下の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定してください。 ・☑（チェックマークを付ける）： DHCP サーバーによって IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイが自動的に割り当てられます。 ・■（チェックマークを外す）： ネットワーク管理者から割り当てられた IP アドレスやサブネットマスクを設定します。	— —
IP アドレス	「DHCP」のチェックマークを外した場合に、本機を接続するネットワークにおける本機の IP アドレスを設定します。	12 文字
サブネットマスク	「DHCP」のチェックマークを外した場合に、本機を接続するネットワークにおける本機のサブネットマスクを設定します。	12 文字
ゲートウェイ	「DHCP」のチェックマークを外した場合に、本機を接続するネットワークのデフォルトゲートウェイを設定します。	12 文字
自動 DNS	・☑（チェックマークを付ける）： DHCP サーバーによって、本機を接続する DNS サーバーの IP アドレスを自動的に設定します。 ・■（チェックマークを外す）： 本機を接続するネットワークの DNS サーバーの IP アドレスを設定します。	12 文字
DNS 設定	「自動 DNS」のチェックマークを外した場合に、本機を接続するネットワークの DNS サーバーの IP アドレスを設定します。	12 文字

次ページに続く

再接続	ネットワークの接続を試みます。「プロファイル」を変更したときなどに実行してください。	—

●プロジェクター名

プロジェクター名	本機のプロジェクター名を設定します。	1 ～ 16 文字

●ドメイン

本機のホスト名とドメイン名を設定します。

ホスト名	本機のホスト名を設定します。	最大 16 文字
ドメイン名	本機のドメイン名を設定します。	最大 60 文字

●アラートメール

メール通知	本機を LAN に接続して使用する場合、本機に各種エラーが発生したときに、本機の状態を E メールでコンピューターなどへ通知します。 ・☑（チェックマークを付ける）： 以下の設定に基づいてメール通知機能が働きます。 ・■（チェックマークを外す）： メール通知機能は停止します。 【本機から送信される E メールの例】 Subject: [Projector] Projector Information 冷却ファンの回転が停止しています。 ［情報］ プロジェクター名：XXXXX ライト使用時間：0000 [H]	—
ホスト名	本機のホスト名を設定します。	最大 16 文字
ドメイン名	本機のドメイン名を設定します。	最大 60 文字
差出人アドレス	本機から E メールを送信する際の差出人アドレスを設定します。E メールの「from」にあたるアドレスです。	最大 60 文字
SMTP サーバー名	本機が接続をするネットワークの SMTP サーバーを設定します。	最大 60 文字
宛先アドレス 1 宛先アドレス 2 宛先アドレス 3	本機からメールを送信する際の宛先のアドレスを設定します。宛先は 3 つまで設定できます。E メールの「to」にあたるアドレスです。	最大 60 文字

次ページに続く

送信テスト	E メールの設定を確認するために、テストメールを送信します。 **[注意]** ● 送信テストをして、送信エラーになったりメールが届かない場合は、ネットワーク設定を確認してください。 ● 宛先アドレスが間違っている場合は、送信テストでエラーにならないことがあります。テストメールが届かない場合は、宛先アドレスの設定を確認してください。	—

●ネットワークサービス

HTTP サーバー	HTTP サーバーに接続するときの設定をします。 オン… ログイン画面を表示しないで直接 HTTP サーバーに接続します。 オフ… HTTP サーバーには接続できません。 認証… HTTP サーバーに接続するときにログイン画面を表示します。 「ユーザーアカウント」で設定したユーザー名とパスワードを入力します。	—
PJLink	PJLink（ピージェイリンク）を使用するときの設定をします。 パスワード：パスワードを設定します。 クラス……Class1 と Class2 を切り替えます。 デスティネーション… クラスを「クラス 2」に設定した場合に、通知先となる IP アドレスを入力します。 **[参考]** ● PJLink（ピージェイリンク）とは一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会（略称 JBMIA）が制定したネットワーク（通信）インターフェース規格です。 https://pjlink.jbmia.or.jp/index.html ● 登録したパスワードを忘れてしまった場合は、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご連絡ください。	最大 32 文字

次ページに続く

AMX Device Discovery	本機を AMX 社の NetLinx コントロールシステムに対応したネットワークに接続した場合、AMX Device Discovery からの検出の有効／無効を設定します。 **[参考]** ● AMX Device Discovery は、対応した機器を接続すると自動的に検出し、制御に必要な Device Discovery Module を AMX のサーバーからダウンロードする仕組みです。 オン……AMX Device Discovery からの本機の検出を有効にします。 オフ……AMX Device Discovery からの本機の検出を無効にします。	—
CRESTRON	ROOMVIEW：コンピューターで制御する場合に設定します。 ・☑（チェックマークを付ける）…ROOMVIEW を有効にします。 ・■（チェックマークを外す）…ROOMVIEW を無効にします。 CRESTRON CONTROL：コントローラーで制御する場合に設定します。 ・☑（チェックマークを付ける）…CRESTRON CONTROL を有効にします。 CONTROLLER IP ADDRESS：CRESTRON SERVER の IP ADDRESS を入力します。 IP ID：CRESTRON SERVER の IP ID を入力します。 ・■（チェックマークを外す）…CRESTRON CONTROL を無効にします。 **[参考]** ●CRESTRON の項目は、CRESTRON ROOMVIEW を使用する場合に設定します。 CRESTRON ROOMVIEW については、Crestron 社のホームページをご覧ください。 （英語のみ）https://www.crestron.com	12 文字（この欄は IP アドレスが入ります。）

次ページに続く

Extron XTP	本機を Extron 社の XTP トランスミッターに接続する場合に設定します。 オン……XTP トランスミッターとの接続を有効にします。 オフ……XTP トランスミッターとの接続を無効にします。	—
PC CONTROL	PC コントロール機能の有効 / 無効を設定します。 オン……PC コントロール機能を有効にします。 RS-232C ケーブルを使って本機の PC コントロール端子と接続したコンピューターから制御コマンドを送信して本機を操作できます。 オフ……PC コントロール機能を無効にします。	—
認証付き PC CONTROL	認証を用いた PC コントロール機能の有効 / 無効を設定します。 オン……「ユーザーアカウント」で登録されたユーザー名とパスワードを用いた認証付き PC コントロール機能を有効にします。 オフ……認証付き PC コントロール機能を無効にします。 **[参考]** この機能は、将来の拡張用です。認証機能に対応したアプリケーションソフトウェアと組み合わせることで、セキュリティを向上させることができます。 アプリケーションソフトウェアで必要な認証手続きに関する仕様については、ホームページに掲載している、「コントロールコマンド認証手続仕様書」をご覧ください。 https://smj.jp.sharp/r/32/	—

次ページに続く

<table>
<tr>
<td>Art-Net</td>
<td>Art-Net は、イーサネットを介して DMX512 プロトコルのデータを送受信するための通信規格です。
Art-Net コントローラーを使ってプロジェクターを制御する場合の設定をします。
<table>
<tr><td>Art-Net</td><td>Art-Net 機能のオン、オフを切り替えます。</td></tr>
<tr><td>[2.X.X.X]
[10.X.X.X]</td><td>Art-Net の仕様にしたがって IP アドレスを自動計算して、現在の有線 LAN 設定 (IP アドレス、サブネットマスク) に上書きします。</td></tr>
<tr><td>設定</td><td>プロジェクターが使用する DMX Universe と開始チャンネルを設定します。</td></tr>
<tr><td>チャンネル</td><td>1 ～ 12 のチャンネルに割り当てるプロジェクターの機能を選択します。割り当てた機能を一時的に無効にする場合は、ロックを選択してパラメーターを操作不可の値にしてください。</td></tr>
</table>
・Art-Net は、Artistic Licence 社によって開発されたイーサネット・プロトコルです。
● 各チャンネルに設定された機能と DMX 値は、情報画面で確認することができます。
● DMX のパラメーターは「Art-Net の DMX パラメーター一覧」（→ 211 ページ）をご覧ください。</td>
<td>—</td>
</tr>
</table>

入力設定

●初期入力選択

本機の電源を入れたとき、どの入力信号（入力端子）にするかを設定します。

ラスト	最後に投写した入力信号を投写します。
自動	入力信号を自動検出し、最初に見つかった入力信号を投写します。
HDMI1	HDMI 1 入力端子の入力信号を投写します。
HDMI2	HDMI 2 入力端子の入力信号を投写します。
HDBaseT	HDBaseT IN ポートの入力信号を投写します。
SDI	SDI 入力端子の入力信号を投写します。

●シームレススイッチング

入力端子切り替え時、切り替え前の映像を保持 (フリーズ) することで、無信号状態を経ずに切り替え後の映像が映し出されます。

●バックグラウンド

入力信号がないときの背景色を選択します。

ブルーバック	背景色が青
ブラックバック	背景色が黒
ロゴ	背景に画像を表示 工場出荷時はブラックバックが表示されます。ロゴの画像は、ウェブブラウザーで HTTP サーバーに接続して登録します。 (→ 76 ページ)

[注意]

- バックグラウンドに「ロゴ」を選択していても、PIP/PICTURE BY PICTURE で 2 画面を表示している場合は、無信号状態になるとロゴは表示されずブルーバック表示になります。

● HDBaseT OUT 選択

本機の HDBaseT OUT ポートから出力する信号を選択します。

オフ	信号を出力しません。
自動	投写している信号を出力します。２画面表示のとき（PIP/PICTURE BY PICTURE）は、主画面の信号を出力します。
HDMI1	HDMI1 入力端子の入力信号を出力します。
HDMI2	HDMI2 入力端子の入力信号を出力します。
HDBaseT	HDBaseT IN ポートの入力信号を出力します。

[注意]

- 2 画面表示のときの主画面の入力端子、および子画面の入力端子と異なる入力端子に設定されているときは出力できません。
- 4K60p、4K50p の信号を投写しているときは出力できません。

● EDID バージョン

HDMI1 入力端子と HDMI2 入力端子の対応信号モードを切り替えます。

モード 1	標準的な映像信号に対応します。
モード 2	4K の映像信号に対応します。4K の映像に対応している機器を使用して、4K の映像を表示するときに設定します。

[注意]

- 「モード 2」で映像や音声が正常に出力されないときは、「モード 1」に設定してください。

● HDCP バージョン

HDMI1 入力端子、HDMI2 入力端子および HDBaseT IN ポートの HDCP バージョンを設定します。

HDCP2.2	HDCP2.2/HDCP1.4 を自動的に切り替えて動作します。
HDCP1.4	HDCP1.4 強制で動作します。

[注意]

- HDBaseT OUT ポートに接続したモニターで映像や音声が出力されないときは、「HDCP1.4」に設定してください。

電源設定

●省電力

本機の電源を切った後のスタンバイ設定を選択します。

オン	スタンバイ時の消費電力を必要最低限に抑える設定です。 本機の設定や接続機器の状態および継続時間などの条件によって、スタンバイの状態は自動で変わります（→ 206 ページ）。スタンバイの状態にあわせて消費電力も変わります。
オフ	スタンバイ時の機能制限がない設定です。 スリープ状態を維持するため、オンに設定しているときに比べて消費電力が上がります。

[参考]

- 省電力をオンにしていても、以下の場合はスリープ状態になります。
  - ・PC CONTROL（HDBaseT）が「オン」のとき
  - ・リモコン受光部設定が「HDBaseT」のとき
  - ・HDBaseT OUT 選択が「オフ」以外のとき
  - ・オートパワーオン選択が「オフ」以外で、かつ HDMI1 または HDMI2 入力端子に信号が入力されているとき
  - ・有線 LAN のインターフェースが「HDBaseT」のとき
  - ・Extron XTP が「オン」のとき
  - ・同期制御のモードが「メイン」または「サブ」のとき
  - ・レンズの移動中
  - ・温度エラーなどのエラーが発生しているとき
- 省電力のオン、オフは、カーボンメーターの CO_2 排出削減量の計算に影響しません。

●ダイレクトパワーオン

本機の電源プラグに AC 電源が供給されると自動的に電源が入るように設定します。
本機を制御卓などでコントロールする場合に使用します。

オフ	ダイレクトパワーオン機能は働きません。
オン	AC 電源が供給されると電源が入ります。初期入力選択（→ 159 ページ）で設定している信号が投写されます。

⚠警告	● プロジェクターは強い光を投写します。電源を入れる際は、投写範囲内にレンズを見ている人がいないことを確認してください。

●オートパワーオン選択

本機がスタンバイ状態またはスリープ状態のとき、HDMI1/2、HDBaseT、SDI 入力端子から入力される同期信号を検出して自動的に投写する設定です。

オフ	オートパワーオン機能は働きません。
HDMI1	選択した入力端子の信号を感知すると本機の電源を自動で入れて画面を投写します。
HDMI2	
HDBaseT	
SDI	

⚠警告	● プロジェクターは強い光を投写します。電源が入る際に、投写範囲内にレンズを見ている人がいないようにしてください。

[注意]

- 本機の電源を切ったあとにオートパワーオン選択を働かせたい場合は、入力端子の信号を遮断、またはケーブルを抜いて、電源を切ったあと 3 秒以上（入力信号が HDBaseT の場合は 1 分以上）待ってから、設定した信号を入力してください。
  信号が本機に入力され続けていると、本機の電源を切りスリープ状態にしても、外部機器の仕様によっては再度、本機が起動する場合があります。
- 本機がスタンバイ状態のときは、HDMI1 または HDMI2 入力端子の信号のみ検出して投写します。

●オートパワーオフ

設定した時間以上信号入力がなく、また本機を操作しなかった場合、自動的に本機の電源を切ります。

オフ	オートパワーオフ機能は働きません。
0:05 ／ 0:10 ／ 0:15 ／ 0:20 ／ 0:30 ／ 1:00	設定した時間（5 分／ 10 分／ 15 分／ 20 分／ 30 分／ 1 時間）以上信号入力がないと自動的に本機の電源を切りスタンバイ状態になります。

●オフタイマー

オフタイマーを設定しておくと、本機の電源の切り忘れ防止になり、省エネになります。設定した時間後に本機の電源が切れます（スタンバイ状態になります）。
オフタイマーを設定するとオンスクリーンメニュー下部には、本機の電源が切れるまでの残り時間が表示されます。また、オフタイマー動作時は電源インジケーターの青色が長い点滅になります。

リセット

本機に記憶されている全調整・設定値、または表示中の信号について、調整した調整値を工場出荷状態に戻します。
リセットの処理には多少時間がかかります。

●表示中の信号

表示中の信号について、調整した調整値が工場出荷状態に戻ります。

[注意]

- 信号リストでロックされている信号調整値は変更されません。

●全データ

調整・設定値が工場出荷状態に戻ります。

【リセットされないデータ】

信号リスト、幾何学補正、エッジブレンディング、映像設定、マルチスクリーン、言語、スクリーン、基準ホワイトバランス、コンバージェンス、スリープ音声出力、基準レンズメモリー、アダプティブフォーカス、レンズ移動量、色むら補正（ツール）、ガンマ（ツール）、管理者モード、日付と時刻設定、本体キーロック、スタートアップロック、通信速度、PC CONTROL（HDBaseT）、コントロール ID、ユーザーキー、コマンドフォーマット、管理者パスワード、ユーザーアカウント、同期制御、ネットワーク設定、バックグラウンド、EDID バージョン、HDCP バージョン、省電力、オフタイマー、ライト使用時間、機器使用時間、総 CO_2 削減量

●全データ（信号リストを含む）

信号リストに登録されている内容を含め、調整・設定値が工場出荷状態に戻ります。

【リセットされないデータ】

幾何学補正、エッジブレンディング、映像設定、マルチスクリーン、言語、スクリーン、基準ホワイトバランス、コンバージェンス、スリープ音声出力、基準レンズメモリー、アダプティブフォーカス、レンズ移動量、色むら補正（ツール）、ガンマ（ツール）、管理者モード、日付と時刻設定、本体キーロック、スタートアップロック、通信速度、PC CONTROL（HDBaseT）、コントロール ID、ユーザーキー、コマンドフォーマット、管理者パスワード、ユーザーアカウント、同期制御、ネットワーク設定、バックグラウンド、EDID バージョン、HDCP バージョン、省電力、オフタイマー、ライト使用時間、機器使用時間、総 CO_2 削減量

[注意]

- 信号リストでロックされている信号調整値は変更されません。

●プロジェクター初期化

パスワードやネットワーク設定などを含めたすべての調整・設定値が工場出荷状態に戻ります。

【リセットされないデータ】

ライト使用時間、機器使用時間、総 CO2 削減量

[注意]

- 本機には、IP アドレス等、個人情報が記録されている可能性があります。廃棄・譲渡する際には、オンスクリーンメニューの「プロジェクター初期化」を実行して、設定の初期化をしてください。

5-7. 情報

ライト使用時間、総 CO2 削減量、有線 LAN のアドレス情報、入力選択されている入力信号の詳細、製品の形名や製造番号、ファームウェアなどの情報を表示します。

サブメニュー	項目名
使用時間	ライト使用時間、機器使用時間、総 CO2 削減量
信号（1）	入力端子、解像度、水平同期周波数、垂直同期周波数、同期極性、走査方式、信号名、登録番号
信号（2）	信号形式、色深度、ビデオレベル、サンプリング周波数
信号（3）	入力端子、解像度、水平同期周波数、垂直同期周波数、同期極性、走査方式、信号名、登録番号
信号（4）	信号形式、色深度、ビデオレベル、サンプリング周波数
有線 LAN	IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MAC アドレス、DNS
VERSION	SOFTWARE
その他	日付と時刻、プロジェクター名、MODEL NO.、SERIAL NUMBER、CONTROL ID、レンズ ID
状態	吸気温度、排気温度、大気圧、設定位置、X 軸、Y 軸、Z 軸、
HDBaseT	信号品質、オペレーションモード、リンクステータス、HDMI ステータス
Art-Net (1)	CH1、CH2、CH3、CH4、CH5、CH6、CH7、CH8、CH9
Art-Net (2)	CH10、CH11、CH12
同期制御	メイン、サブ 1、サブ 2、サブ 3

- 使用時間ページの「ライト使用時間」は、実使用時間に使用環境の温度やライトモードの設定を反映した値を表示します。
  「機器使用時間」は、プロジェクターの実使用時間を表示します。
  「総 CO_2 削減量」は、プロジェクターの省エネ効果を表示します。（→ 65 ページ）
- 信号ページは、色が極端におかしかったり、画面が流れたり、映像が投写されない場合、入力信号が本機に適しているかの確認に使います。「対応解像度一覧」（→ 190 ページ）もあわせてご覧ください。
- NP 形名のレンズユニットを取り付けている場合でも、その他ページの「レンズ ID」には XP 形名で表示されます。
- HDBaseT ページは、HDBaseT IN ポートの接続状態などを表示します。
  - 信号品質：信号の品質レベルを表示します。
    - ノーマル　：正常な信号の品質レベルです
    - 注意　：映像にノイズが生じる可能性のある注意レベルです。
    - 異常　：映像が乱れたり、表示が不可能な異常レベルです。

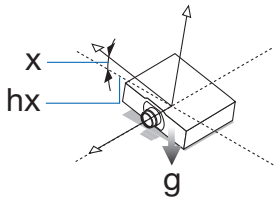
次ページに続く

・オペレーションモード　：接続動作状態を表示します。
　　HDBaseT　：HDBaseT モードで接続動作しています。
　　イーサネット　：ETHERNET モードで接続動作しています。
　　LOW POWER　：低消費電力モードで動作しています。
　　切断　：接続が切断されてます。
・リンクステータス　：通信リンク状態を表示します。
　　HDBaseT　：HDBaseT 方式で通信しています。
　　イーサネット　：イーサネット方式で通信しています。
　　LOW POWER　：通信が途切れています (低消費電力モードで動作します)。
　　NO LINK　：通信が確立していません。
・HDMI ステータス　：HDMI 信号の状態を表示します。
　　HDMI オン　：HDCP で保護されていない信号です。
　　HDCP オン　：HDCP で保護された信号です。
　　NO HDMI　：信号がありません。

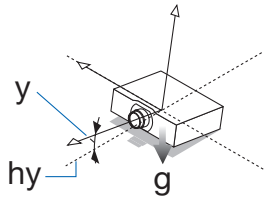
[参考]

● 状態の X 軸、Y 軸、Z 軸表示について
（注）右図の Z 軸の矢印方向がプロジェクターの上面を表します。

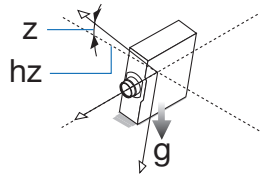
X 軸：
プロジェクターの図の X 軸方向において、水平に対する傾きを－ 100 ～＋ 100 の値で表示します。



Y 軸：
プロジェクターの図の Y 軸方向において、水平に対する傾きを－ 100 ～＋ 100 の値で表示します。



Z 軸：
プロジェクターの図の Z 軸方向において、垂直に対する傾きを－ 100 ～＋ 100 の値で表示します。



hx：水平面 X 軸 / hy：水平面 Y 軸 / hz：水平面 Z 軸
x：プロジェクターの X 軸値 / y：プロジェクターの Y 軸値 / z：プロジェクターの Z 軸値
g：重力方向

6. 別売品などの取り付け／取り外し

6-1. レンズユニット（別売）

本機は、6 種類の別売レンズユニットが使用できます。ここでは XP-54ZL で説明します。他のレンズユニットも同じ方法で取り付けてください。
レンズユニットを本機に取り付けたとき、またはレンズユニットを交換したときは、本体の ZOOM/L-CALIB. ボタンを長く（2 秒以上）押して、「レンズキャリブレーション」を実行してください。
レンズキャリブレーションを実行することにより、レンズの調整範囲を校正します。

⚠ 警告	レンズユニットの取り付けや取り外しは（1）電源を切る操作をし、冷却ファンが停止するのを待つ、（2）電源プラグをコンセントから抜いて、本体が十分冷えてから着脱してください。投写状態で脱着すると目の障害、感電やけどの原因になります。

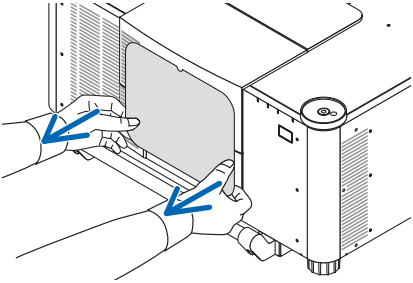
[重要]

- プロジェクターおよびレンズユニットは精密部品でできています。衝撃を与えたり、無理な力を加えたりしないでください。
- 別売のレンズユニットを装着しているときに本機を移動する際はいったんレンズユニットを取り外してください。移動する際にレンズユニットに衝撃を与えると、レンズユニットおよびレンズシフト機構が破損するおそれがあります。
  本機を高所や特殊な場所に設置する場合など、レンズユニットを取り付けた状態で移動しなくてはならないときは、レンズユニットに付属のネジを使って、レンズユニットを本体に固定してください。移動の際は、レンズ部分を持たないでください。
- 本機からレンズユニットを取り外す際は、電源を切る前にレンズ位置をホームポジションに戻してください。ホームポジションに戻していないと、プロジェクターとレンズユニットの隙間が狭くなり、取り外しおよび取り付けの障害になります。
- 作業中、レンズ面には絶対に手を触れないでください。
- レンズ面にゴミや油などが付着しないよう、また、傷が付かないように十分ご注意ください。
- 作業は平らな場所で、傷が付かないように布などを敷いてください。
- 長時間レンズユニットを外しておく場合は、防塵キャップを本体に取り付け、ほこりやゴミが内部に入らないようにしてください。

取り付けかた

1. 本体の防塵キャップを外す。

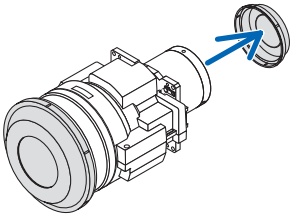
下端を指で引いて外してください。



2. レンズユニット後ろのレンズキャップを外す。

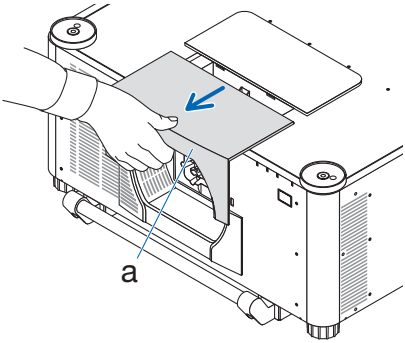
[注意]

- 後ろのレンズキャップは必ず取り外してください。後ろのレンズキャップを取り付けたまま本体に取り付けると故障の原因となります。



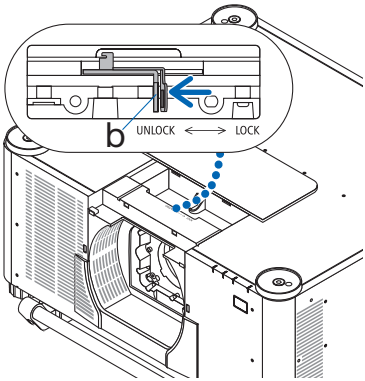
3. レンズカバーⓐを外す。

手前に 2 cm 程度引いて、ロックが外れてから持ち上げます。



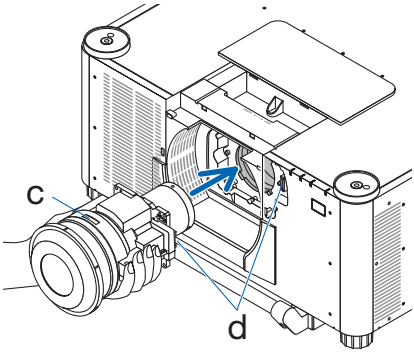
4. レンズ固定レバーⓑが UNLOCK の位置にあることを確認する。

LOCK の位置にある場合は、レンズ固定レバーⓑの右側面を押して、UNLOCK の位置へ移動させてください。



5. レンズユニットのプレートⓒを上にして本体のレンズ挿入口に挿入する。

コネクターⓓの位置を合わせて、奥までゆっくり挿入してください。

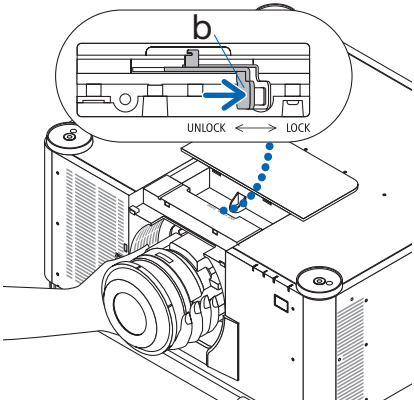


【注意】

- レンズユニットを装着するとき、けがの恐れがありますので、キャビネットに手を挟まないようにご注意ください。

6. レンズユニットを手で押さえながら、レンズ固定レバーⓑの左側面を押して、LOCK の位置へ止まるまで移動させる。

カチッと音がして、レンズユニットがプロジェクター本体に固定されます。
レンズユニットが正しく装着されると、レンズ固定レバーの左側部分と右側部分が開きます。

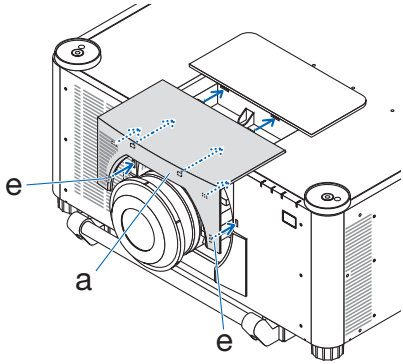


【注意】

- レンズユニットが傾いていると固定されません。レンズ挿入口に密着させた状態でレンズ固定レバーを移動させてください。

7. 本体にレンズカバーⓐを取り付ける。

(1) 2 cm 程度の隙間をあけて、レンズカバーを置きます。
(2) 矢印方向へ押し込みます。
(3) レンズカバーのツメⓔの部分を押して、本体のミゾへ確実にはめ込みます。

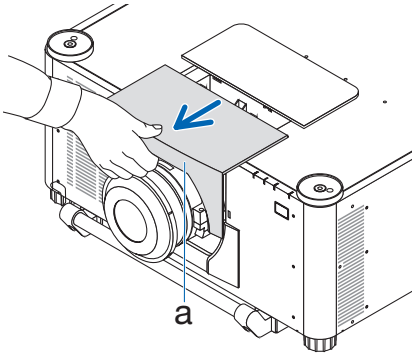


取り外しかた

準備：1. プロジェクターの電源を入れ投写状態にしてください。
2. 本体の SHIFT/HOME POSITION ボタンを長押し（約 2 秒以上）してください。レンズ位置がホームポジションに戻ります。
3. 電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
4. レンズにレンズキャップを取り付けてください。
5. しばらく待って、本体が十分に冷えたことを確認してください。

1. レンズカバーⓐを外す。

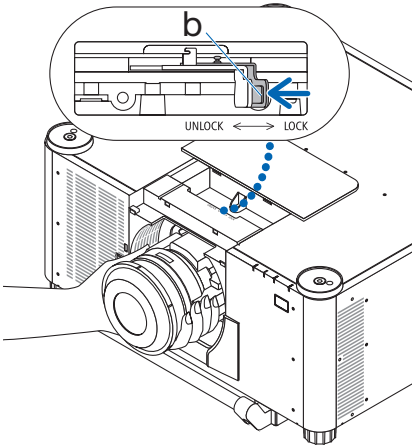
手前に 2 cm 程度引いて、ロックが外れてから持ち上げます。



2. レンズユニットを手で押さえながら、レンズ固定レバーⓑの右側面を押して、UNLOCK の位置へ止まるまで移動させる。

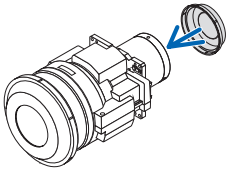
【注意】

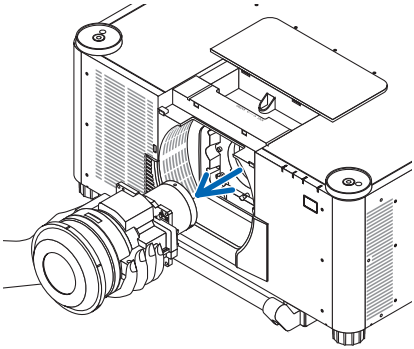
- レンズユニットが落下しないように、しっかりと支えてください。
- レンズユニットを支えるとき、けがの恐れがありますので、キャビネットに手を挟まないようにご注意ください。



3. 本体からレンズユニットをゆっくり引き出す。

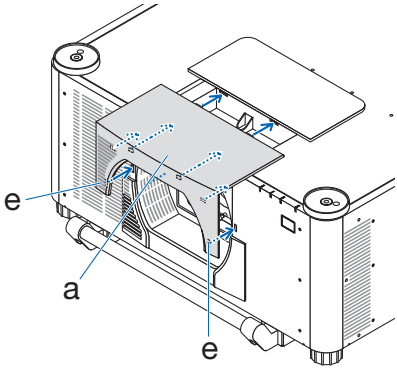
外したレンズユニットは、レンズユニットに添付していた後ろ用のレンズキャップを取り付けてから保管してください。





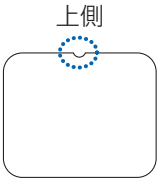
4. 本体にレンズカバーⓐを取り付ける。

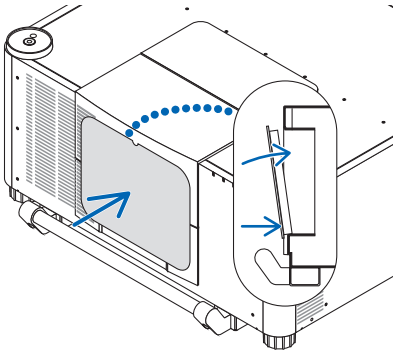
（1）2 cm 程度の隙間をあけて、レンズカバーを置きます。
（2）矢印方向へ押し込みます。
（3）レンズカバーのツメⓔの部分を押して、本体のミゾへ確実にはめ込みます。



※ レンズユニットを取り付けないときは、本体に添付の防塵キャップを取り付けてください。

防塵キャップの向きを本体に合わせ、下側を先に本体に当ててから周囲を押し込みます。





6-2. アイボルト（市販）

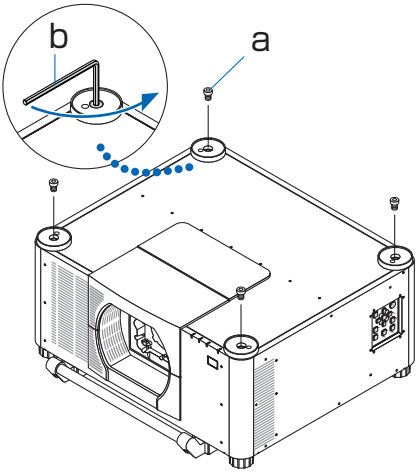
アイボルトを使用して、本機を吊り上げて移動したり、天吊りで常設することができます。

⚠警告	● アイボルトの取り付けおよびアイボルトを使用した運搬と設置は、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご依頼ください。お客様による設置は絶対におやめください。落下してけがの原因となります。

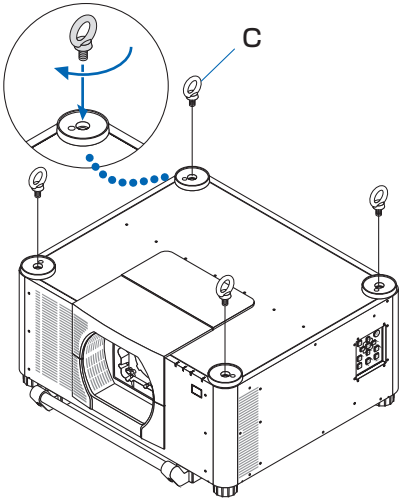
用意するもの：アイボルト（市販）M12 × 22 mm　4 個
六角レンチ（市販）（対辺 8 mm）

1. プロジェクターのアイボルト取り付け用穴からネジⓐ 4 個を六角レンチⓑを使って取り外す。

・ 取り外したネジは、なくさないように保管してください。



2. アイボルトⓒ 4 個を取り付ける。



7. 機器と接続する

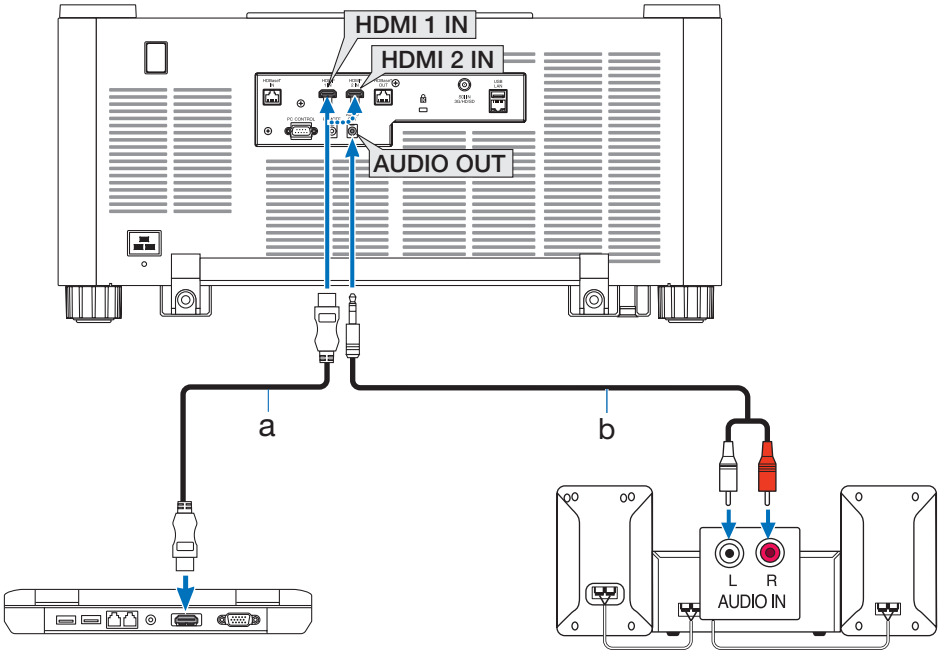
⚠注意	● 本機と外部機器は、必ず本機の電源が切れた状態で接続してください。投写光が目に入ると、視力障害の原因となることがあります。

[注意]

● 本機に接続ケーブルは添付していません。外部機器と接続する際は、接続に合ったケーブルをご用意ください。
HDMI、LAN、BNC、RS-232C、オーディオについてはシールドタイプのケーブルを使用してください。
これ以外のタイプのケーブルを使用した場合、受信障害の原因となることがあります。

7-1. コンピューターと接続する

・コンピューターの HDMI 出力端子と本機の HDMI1 入力端子（HDMI 1 IN）または HDMI2 入力端子（HDMI 2 IN）を HDMI ケーブルで接続します。



a：HDMI ケーブル（市販）/ b：ミニプラグ—RCA プラグ変換ケーブル（市販）

● 本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた入力端子名を選択してください。

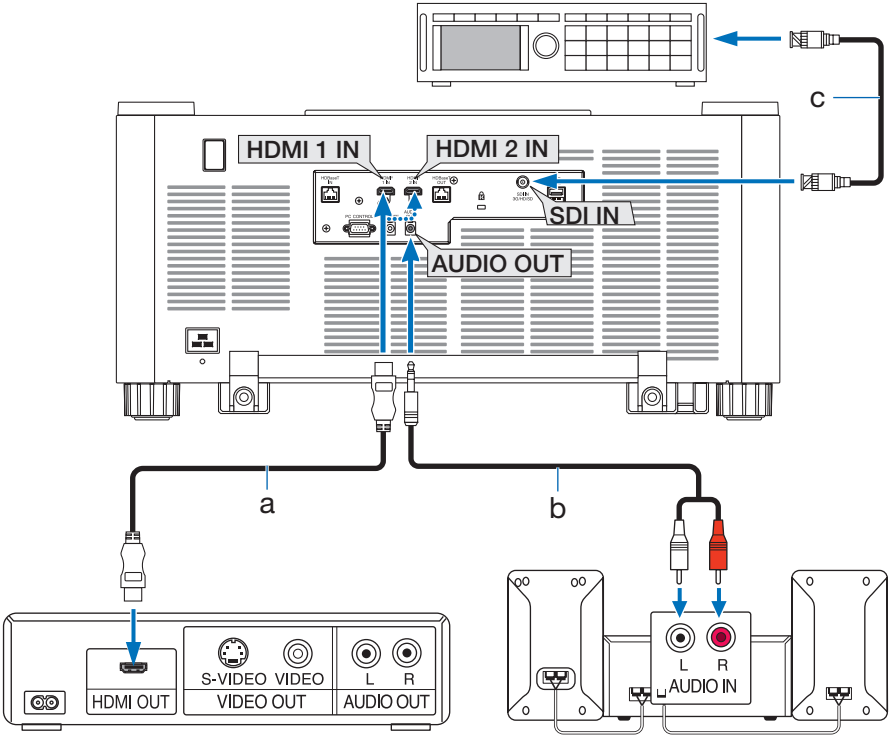
接続端子	本体の INPUT ボタン	リモコンのボタン
HDMI 1 入力端子	HDMI1	HDMI1
HDMI 2 入力端子	HDMI2	HDMI2

● HDMI ケーブル接続時の注意

・プレミアムハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。

7-2. 映像機器と接続する

ブルーレイプレーヤーまたはデジタル放送チューナーなどの HDMI 出力端子を本機に接続してハイビジョン映像を投写することができます。本機の HDMI 1 入力端子または HDMI 2 入力端子にデジタル映像とデジタル音声を入力します。
また、本機の SDI 入力端子を使って業務用映像機器などを接続できます。
SD-SDI、HD-SDI、3G-SDI に対応しています。



a:HDMI ケーブル（市販）（プレミアムハイスピード対応の HDMI ケーブルを使用してください。）
b：ミニプラグ—RCA プラグ変換ケーブル（市販）
c：BNC ケーブル（市販）

※機器によって、端子の名称、位置や向きが異なりますので、機器の取扱説明書でご確認ください。

●本機の電源を入れたあとに接続端子に応じた入力端子名を選択してください。

接続端子	本体の INPUT ボタン	リモコンのボタン
HDMI 1 入力端子	HDMI1	HDMI1
HDMI 2 入力端子	HDMI2	HDMI2
SDI 入力端子	SDI	SDI

[注意]

- BNC ケーブルは、5C-FB 以上（5C-FB、7C-FB など）または Belden 1694A 以上のものを使用してください。また、ケーブルの長さは 100m 以下のものを使用してください。
- 信号によって使用できるケーブルの長さが変わる場合があります。

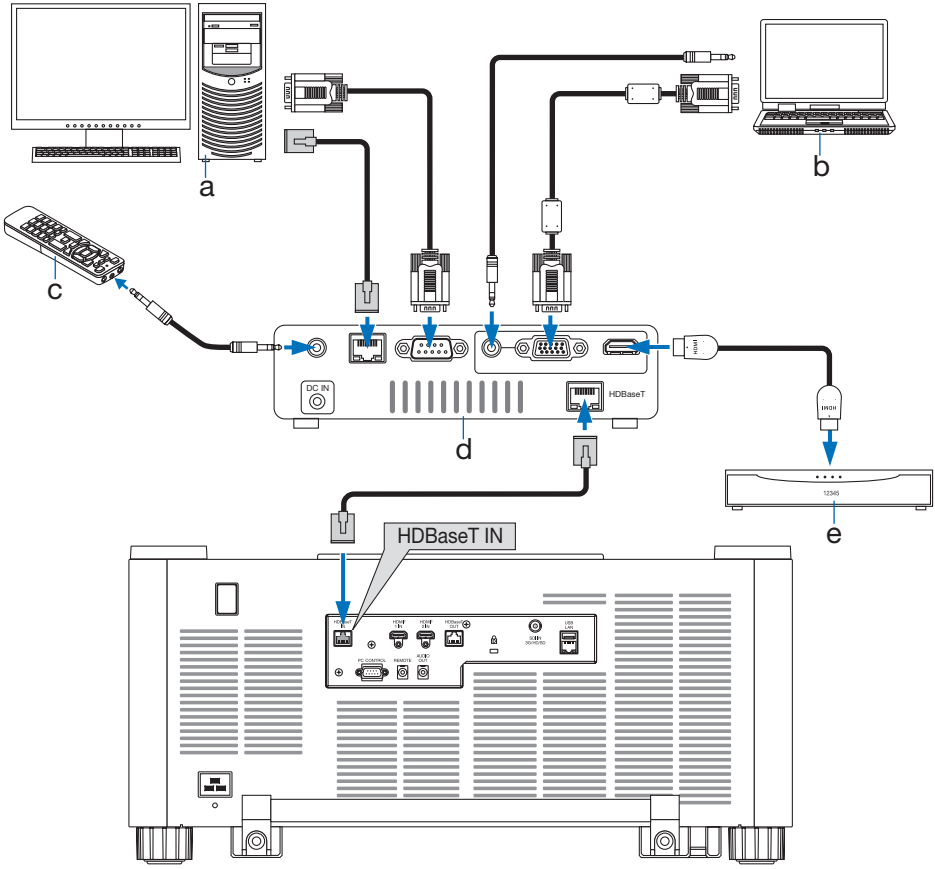
[参考]

- 本機の HDMI 1 入力および HDMI 2 入力端子にブルーレイプレーヤーを接続している場合に、ブルーレイプレーヤーのビデオレベルの設定に合わせて本機のビデオレベルを設定できます。本機のオンスクリーンメニューの調整→ビデオ→ビデオレベルで設定します。ブルーレイプレーヤーのビデオレベルの設定については、ブルーレイプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
- 本機は HDCP（不正コピー防止を目的とする著作権保護用システム）を装備しています。ただし、HDCP の規格が変更された場合などは、プロジェクターが故障していなくても、HDMI 1 入力および HDMI 2 入力端子の映像が表示されないことがあります。

7-3. HDBaseT 対応の伝送機器（市販）と接続する

HDBaseT は、HDBaseT Alliance によって策定された家電製品向けの接続規格です。
市販の LAN ケーブルを使って、本機の HDBaseT IN ポートを市販の HDBaseT 対応の伝送機器に接続します。
本機の HDBaseT IN ポートは、伝送機器からの HDMI 信号（HDCP 対応）、外部機器からの制御信号（シリアル、LAN）、リモコン信号（IR コマンド）に対応しています。外部機器との接続については、HDBaseT 対応の伝送機器の取扱説明書をご覧ください。

接続例



a：コンピューター（制御用）/ b：コンピューター（出力用）/ c：リモコン /
d：伝送機器の例 / e：HDMI 出力映像機器

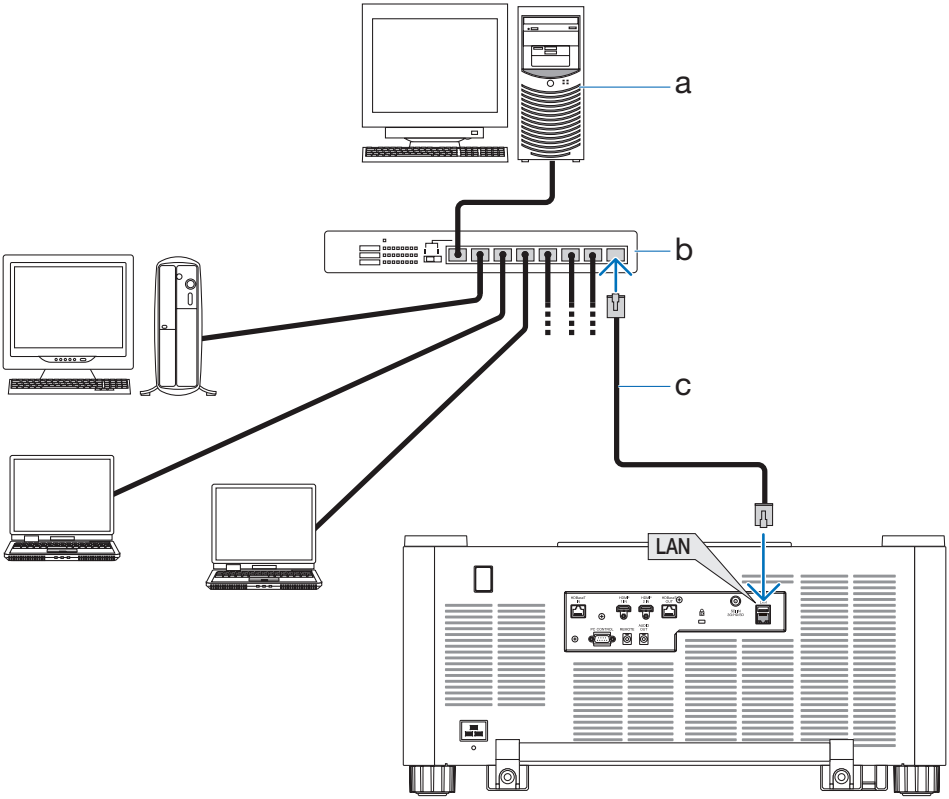
[注意]

- LAN ケーブル（市販）は、カテゴリ 5e 以上のシールド付きツイストペア（STP）ケーブルを使用してください。
- LAN ケーブルで伝送可能な距離は、最長 100 m です（4K 信号の場合は最長 70m）。
- 本機と伝送装置との間に他の伝送装置を使用しないでください。画質が劣化することがあります。
- 本機は、市販のすべての HDBaseT 対応の伝送機器との接続を保証するものではありません。

7-4. 有線 LAN と接続する

本機には LAN ポートが標準装備されています。LAN ケーブルを接続すると LAN 環境を利用することができます。本機を LAN 環境で使用する場合は、本機に IP アドレスなどを設定する必要があります。本機への LAN の設定について詳しくは、本書のオンスクリーンメニュー→セットアップ→ネットワーク設定→有線 LAN（→ 153 ページ）をご覧ください。

接続例



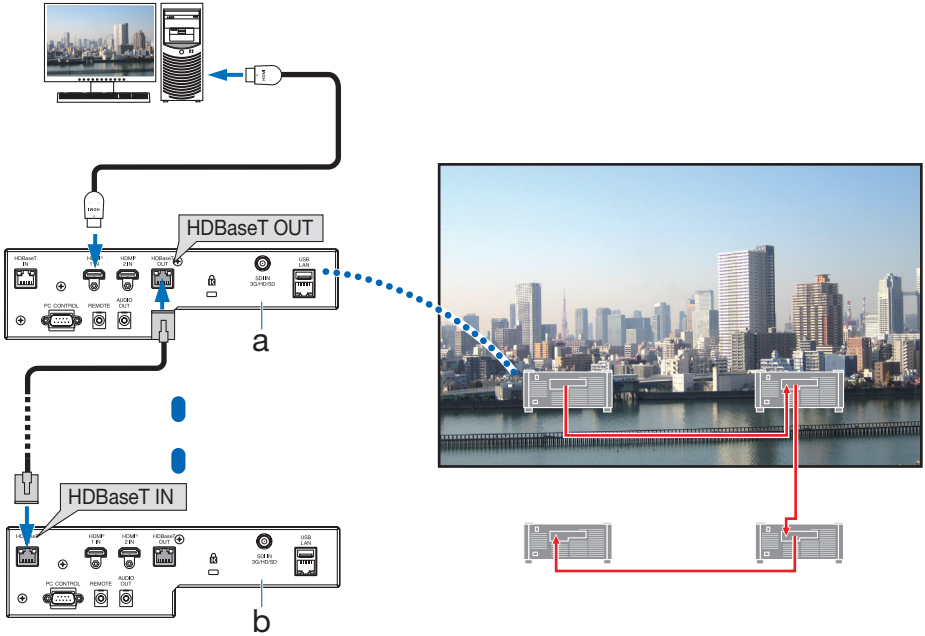
a：サーバー / b：HUB など /

c：LAN ケーブル（市販）（カテゴリ 5e 以上のシールド付きツイストペア（STP）ケーブルを使用してください。）

7-5. 複数のプロジェクターを接続する

デイジーチェーンの接続例

本機の HDBaseT IN ポートと HDBaseT OUT ポートを LAN ケーブルで接続して、HDMI、HDBaseT の映像を投写できます。
同じ機種を４台まで接続できます。



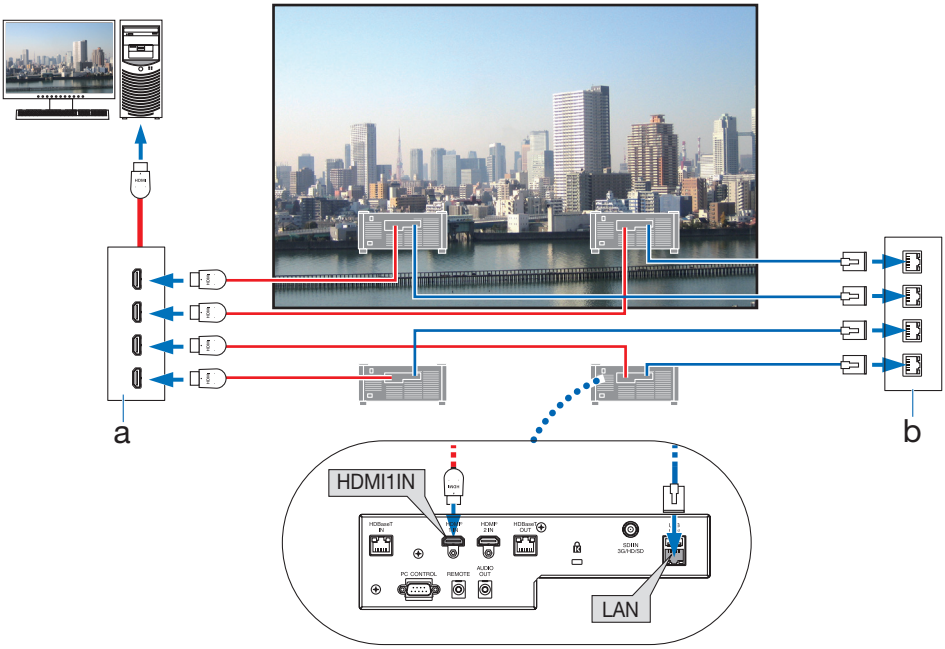
a：親プロジェクター / b：子プロジェクター

[注意]

- HDMI 信号を出力する場合は、本機に映像信号を入力する前に、出力する側の映像機器の電源を入れて接続した状態にしてください。
  本機の HDBaseT OUT ポートはリピーター機能を有しています。HDBaseT OUT ポートに機器が接続された場合、出力する信号は接続先の機器の対応解像度に制限されます。
- 2 台目以降のプロジェクターの端子切り替えや LAN ケーブルの抜き差しをすると、HDBaseT リピーター機能が動作しなくなります。
- ディスプレイなど他の機器と接続したときの動作は保証しません。

有線 LAN の接続例

本機の LAN ポートとルーターを LAN ケーブルで接続します。LAN の設定について、詳しくは「有線 LAN」（→ 153 ページ）をご覧ください。
映像信号は、分配器を使って各々のプロジェクターに入力します。



a：HDMI 分配器 / b：ルーター

[注意]

- HDBaseT OUT 選択は「オフ」に設定してください。（→ 160 ページ）

8. 本体のお手入れ

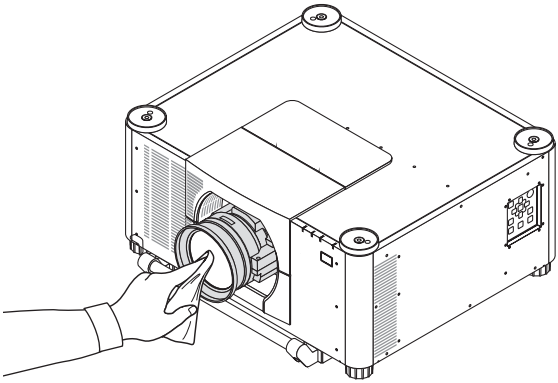
8-1. レンズの清掃

⚠ 警告	● レンズを清掃する際は、電源を切り電源プラグをコンセントから抜いてください。レンズの清掃中に電源が入ると、レンズからの強い光が目に入り、視力障害の原因となります。 また強い光によって指をやけどするおそれがあります。 ● レンズなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。

市販のプラスチック用レンズクリーナーを使用して汚れをふき取ってください。

［注意］

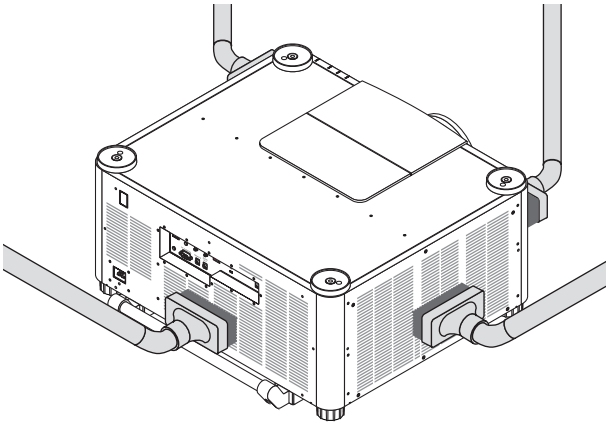
● アルコールは絶対に使用しないでください。レンズの表面を傷める原因となります。



8-2. キャビネットの清掃

⚠ 警告	● お手入れの前に必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 ● キャビネットなどに付着したほこりの除去に可燃性ガスのスプレーを使用しないでください。火災の原因となります。

- 毛羽立ちの少ないやわらかい乾いた布でふいてください。
  汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布で仕上げてください。
- シンナーやベンジンなどの溶剤でふかないでください。変質したり、塗料がはげることがあります。
- 通風口やスピーカー部のほこりを取り除く場合は、掃除機のブラシ付きのアダプターを使用して吸い取ってください。なお、アダプターを付けずに直接当てたり、ノズルアダプターを使用することは避けてください。



通風口のほこりを吸い取ります。

- 通風口にほこりがたまると、空気の通りが悪くなり内部の温度が上昇し、故障の原因となりますので、こまめに清掃をしてください。
- キャビネットを爪や硬いもので強くひっかいたり、当てたりしないでください。傷の原因となります。
- 本体内部の清掃については、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

[注意]

- キャビネットやレンズおよびスクリーンに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。
  また、ゴムやビニール製品などを長時間接触したままにしないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。

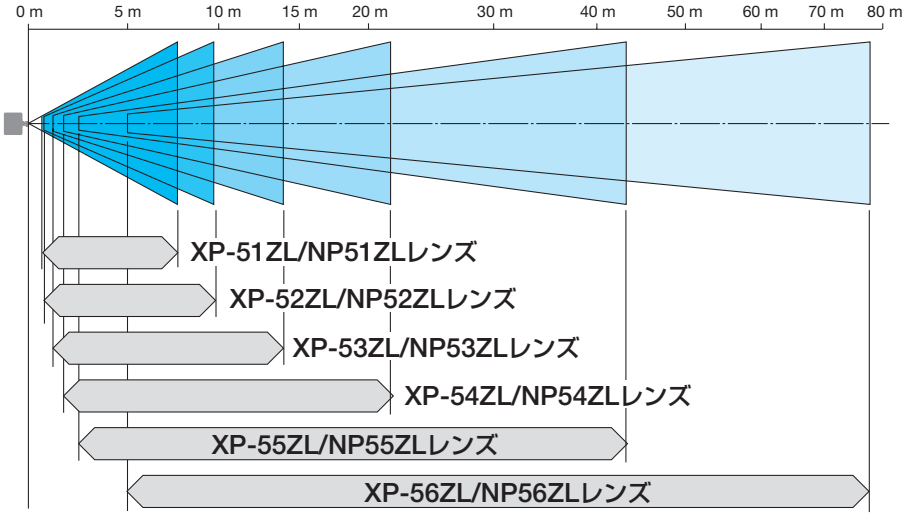
9. 付　録

9-1. 投写距離とスクリーンサイズ

本機は、6 種類のレンズユニット（別売）が使用できます。このページの情報を参考にして、設置環境（スクリーンサイズと投写距離）に応じたレンズユニットをお使いください。

下図は各レンズユニットの投写範囲のイメージです。

（プロジェクターからスクリーンまでの距離の目安）



レンズユニットの種類と投写距離（アスペクト比 16:10）

スクリーンサイズ（cm）			レンズユニットの形名と投写距離（m）		
	対角	幅 x 高さ	XP-51ZL/NP51ZL	XP-52ZL/NP52ZL	XP-53ZL/NP53ZL
60 型	152.4	129.2 x 80.8	0.7 ～ 0.8	0.8 ～ 1.1	1.1 ～ 1.6
80 型	203.2	172.3 x 107.7	0.9 ～ 1.1	1.1 ～ 1.5	1.5 ～ 2.2
100 型	254.0	215.4 x 134.6	1.1 ～ 1.4	1.4 ～ 1.9	1.8 ～ 2.7
120 型	304.8	258.5 x 161.5	1.4 ～ 1.7	1.7 ～ 2.3	2.2 ～ 3.3
150 型	381.0	323.1 x 201.9	1.7 ～ 2.1	2.1 ～ 2.8	2.8 ～ 4.1
200 型	508.0	430.8 x 269.2	2.3 ～ 2.9	2.8 ～ 3.8	3.7 ～ 5.5
240 型	609.6	516.9 x 323.1	2.8 ～ 3.5	3.4 ～ 4.5	4.5 ～ 6.6
300 型	762.0	646.2 x 403.9	3.6 ～ 4.3	4.3 ～ 5.7	5.6 ～ 8.2
400 型	1016.0	861.6 x 538.5	4.8 ～ 5.8	5.7 ～ 7.6	7.5 ～ 11.0
500 型	1270.0	1077.0 x 673.1	6.0 ～ 7.3	7.2 ～ 9.5	9.4 ～ 13.7

スクリーンサイズ（cm）			レンズユニットの形名と投写距離（m）		
	対角	幅 x 高さ	XP-54ZL/NP54ZL	XP-55ZL/NP55ZL	XP-56ZL/NP56ZL
60 型	152.4	129.2 x 80.8	1.6 ～ 2.6	2.5 ～ 5.0	5.2 ～ 9.8
80 型	203.2	172.3 x 107.7	2.1 ～ 3.4	3.4 ～ 6.8	6.9 ～ 13.0
100 型	254.0	215.4 x 134.6	2.7 ～ 4.3	4.3 ～ 8.5	8.5 ～ 16.2
120 型	304.8	258.5 x 161.5	3.2 ～ 5.2	5.1 ～ 10.2	10.2 ～ 19.4
150 型	381.0	323.1 x 201.9	4.0 ～ 6.5	6.4 ～ 12.8	12.6 ～ 24.2
200 型	508.0	430.8 x 269.2	5.4 ～ 8.7	8.6 ～ 17.1	16.7 ～ 32.1
240 型	609.6	516.9 x 323.1	6.5 ～ 10.5	10.4 ～ 20.6	20.0 ～ 38.5
300 型	762.0	646.2 x 403.9	8.2 ～ 13.1	13.0 ～ 25.7	24.9 ～ 48.0
400 型	1016.0	861.6 x 538.5	10.9 ～ 17.5	17.4 ～ 34.3	33.2 ～ 63.9
500 型	1270.0	1077.0 x 673.1	13.7 ～ 21.9	21.7 ～ 43.0	41.4 ～ 79.8

レンズユニットの種類と投写距離（アスペクト比 16:9）

スクリーンサイズ（cm）			レンズユニットの形名と投写距離（m）		
	対角	幅 x 高さ	XP-51ZL/NP51ZL	XP-52ZL/NP52ZL	XP-53ZL/NP53ZL
60 型	152.4	132.8 x 74.7	0.7 ～ 0.8	0.8 ～ 1.1	1.1 ～ 1.6
80 型	203.2	177.1 x 99.6	0.9 ～ 1.1	1.1 ～ 1.5	1.5 ～ 2.2
100 型	254.0	221.4 x 124.5	1.2 ～ 1.4	1.4 ～ 1.9	1.9 ～ 2.8
120 型	304.8	265.7 x 149.4	1.4 ～ 1.7	1.7 ～ 2.3	2.3 ～ 3.3
150 型	381.0	332.1 x 186.8	1.8 ～ 2.2	2.2 ～ 2.9	2.9 ～ 4.2
200 型	508.0	442.8 x 249.1	2.4 ～ 2.9	2.9 ～ 3.9	3.8 ～ 5.6
240 型	609.6	531.3 x 298.9	2.9 ～ 3.5	3.5 ～ 4.7	4.6 ～ 6.7
300 型	762.0	664.1 x 373.6	3.7 ～ 4.5	4.4 ～ 5.9	5.8 ～ 8.4
400 型	1016.0	885.5 x 498.1	4.9 ～ 6.0	5.9 ～ 7.8	7.7 ～ 11.3
500 型	1270.0	1106.9 x 622.6	6.1 ～ 7.5	7.4 ～ 9.8	9.7 ～ 14.1

スクリーンサイズ（cm）			レンズユニットの形名と投写距離（m）		
	対角	幅 x 高さ	XP-54ZL/NP54ZL	XP-55ZL/NP55ZL	XP-56ZL/NP56ZL
60 型	152.4	132.8 x 74.7	1.6 ～ 2.6	2.6 ～ 5.2	5.4 ～ 10.1
80 型	203.2	177.1 x 99.6	2.2 ～ 3.5	3.5 ～ 7.0	7.1 ～ 13.4
100 型	254.0	221.4 x 124.5	2.7 ～ 4.5	4.4 ～ 8.7	8.8 ～ 16.7
120 型	304.8	265.7 x 149.4	3.3 ～ 5.4	5.3 ～ 10.5	10.4 ～ 19.9
150 型	381.0	332.1 x 186.8	4.2 ～ 6.7	6.6 ～ 13.2	13.0 ～ 24.8
200 型	508.0	442.8 x 249.1	5.6 ～ 9.0	8.9 ～ 17.6	17.2 ～ 33.0
240 型	609.6	531.3 x 298.9	6.7 ～ 10.8	10.7 ～ 21.1	20.6 ～ 39.5
300 型	762.0	664.1 x 373.6	8.4 ～ 13.5	13.4 ～ 26.4	25.6 ～ 49.3
400 型	1016.0	885.5 x 498.1	11.2 ～ 18.0	17.9 ～ 35.3	34.1 ～ 65.7
500 型	1270.0	1106.9 x 622.6	14.1 ～ 22.6	22.4 ～ 44.2	42.5 ～ 82.0

画面サイズからの投写距離の計算方法

L : 投写距離
W : スクリーンの幅

レンズユニット	計算式（ズーム最小～ズーム最大）
XP-51ZL/NP51ZL	L = W × 0.5 ～ W × 0.7
XP-52ZL/NP52ZL	L = W × 0.6 ～ W × 0.9
XP-53ZL/NP53ZL	L = W × 0.9 ～ W × 1.3
XP-54ZL/NP54ZL	L = W × 1.2 ～ W × 2.0
XP-55ZL/NP55ZL	L = W × 2.0 ～ W × 3.9
XP-56ZL/NP56ZL	L = W × 3.9 ～ W × 7.5

（計算例）

レンズユニット XP-54ZL を使用して 16:10 の 150 型スクリーンに投写する場合の投写距離

「レンズユニットの種類と投写距離（アスペクト比 16:10）」（→ 185 ページ）の表より、W（スクリーン幅）＝ 323.1 cm となります。
投写距離は、323.1 cm × 1.2 ～ 323.1 cm × 2.0 ＝ 387.7 cm ～ 646.2 cm となります（ズームレンズのため）。
※簡易計算式のため数%の誤差があります。

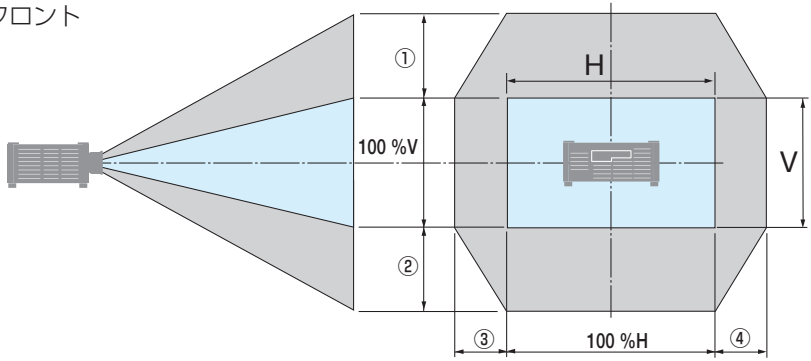
レンズシフト範囲

本機にはボタン操作で画面位置を調整するレンズシフト機能があります。次の範囲内のレンズシフトができます。

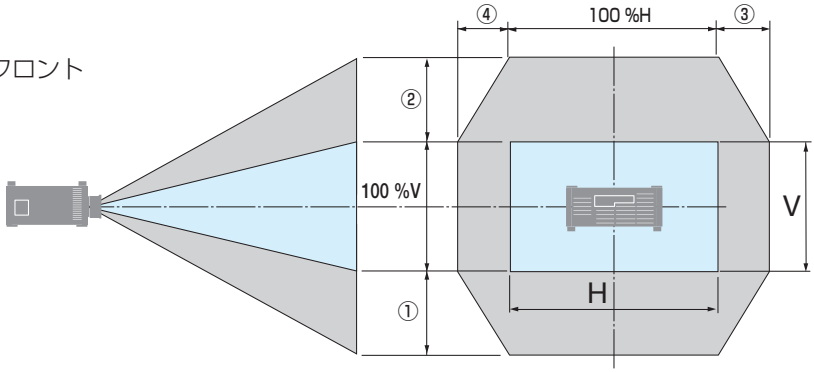
● レンズシフトの操作および注意事項は 52 ページをご覧ください。

記号の意味： V は垂直（投写画面の高さ）、H は水平（投写画面の幅）を表し、レンズシフト範囲を高さおよび幅の比率で表しています。

デスク / フロント



天吊り / フロント



図の番号	レンズユニット					
	XP-51ZL/ NP51ZL	XP-52ZL/ NP52ZL	XP-53ZL/ NP53ZL	XP-54ZL/ NP54ZL	XP-55ZL/ NP55ZL	XP-56ZL/ NP56ZL
①②	50 %V	55%V	65%V			
③④	20%H		25%H			

（計算例）

XP-54ZL レンズで 16:10 の 150 型で投写している場合

「レンズユニットの種類と投写距離（アスペクト比 16:10）」（→ 185 ページ）の表より H=323.1 cm、V=201.9 cm になります。

垂直方向の調整範囲：上下両方向に 0.65 × 201.9 cm ≒ 131 cm 投写画面を移動することができます（レンズが中心位置の場合）。

水平方向の調整範囲：左右両方向に 0.25 × 323.1 cm ≒ 81 cm 投写画面を移動することができます。

※簡易計算式のため数%の誤差があります。

9-2. 対応解像度一覧

HDMI

信号名	解像度（ドット）	アスペクト比	垂直走査周波数（Hz）	色深度（ビット）	信号形式
VGA	640 × 480	4 : 3	60	8	RGB
SVGA	800 × 600	4 : 3	60	8	RGB
XGA	1024 × 768	4 : 3	60	8	RGB
HD	1280 × 720	16 : 9	60	8	RGB
WXGA	1280 × 768	15 : 9	60	8	RGB
	1280 × 800	16 : 10	60	8	RGB
Quad-VGA	1280 × 960	4 : 3	60	8	RGB
SXGA	1280 × 1024	5 : 4	60	8	RGB
FWXGA	1360 × 768	16 : 9	60	8	RGB
	1366 × 768	16 : 9	60	8	RGB
SXGA+	1400 × 1050	4 : 3	60	8	RGB
WXGA+	1440 × 900	16 : 10	60	8	RGB
WXGA++	1600 × 900	16 : 9	60	8	RGB
WSXGA+	1680 × 1050	16 : 10	60	8	RGB
UXGA	1600 × 1200 *1	4 : 3	60	8	RGB
Full HD	1920 × 1080 *1	16 : 9	60	8	RGB
WUXGA	1920 × 1200 *1	16 : 10	60 Reduced Blanking	8	RGB
WQHD	2560 × 1440	16 : 9	60 Reduced Blanking	8	RGB
WQXGA	2560 × 1600	16 : 10	60 Reduced Blanking	8	RGB
UWFHD	2560 × 1080	21 : 9	24/25/30/50/60	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
UHD	3840 × 2160	16 : 9	24/25/30	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
			50/60	8	RGB/ YCbCr4:4:4
				8/10/12 *2	YCbCr4:2:2/ YCbCr4:2:0
4K	4096 × 2160	17 : 9	24/25/30	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
			50/60	8	RGB/ YCbCr4:4:4
				8/10/12 *2	YCbCr4:2:2/ YCbCr4:2:0

信号名	解像度（ドット）	アスペクト比	垂直走査周波数（Hz）	色深度（ビット）	信号形式
HDTV(1080p)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	24/25/30/50/60	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
HDTV(1080i)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	50/60		
HDTV (720p)	1280 × 720	16 ： 9	50/60		
SDTV (480p)	720/1440 × 480	4:3 / 16:9	60		
SDTV (576p)	720/1440 × 576	4:3 / 16:9	50		
SDTV(480i)	1440 × 480	4:3 / 16:9	60		
SDTV(576i)	1440 × 576	4:3 / 16:9	50		

HDBaseT

信号名	解像度（ドット）	アスペクト比	垂直走査周波数（Hz）	色深度（ビット）	信号形式
VGA	640 × 480	4 ： 3	60	8	RGB
SVGA	800 × 600	4 ： 3	60	8	RGB
XGA	1024 × 768	4 ： 3	60	8	RGB
HD	1280 × 720	16 ： 9	60	8	RGB
WXGA	1280 × 768	15 ： 9	60	8	RGB
	1280 × 800	16 ： 10	60	8	RGB
Quad-VGA	1280 × 960	4 ： 3	60	8	RGB
SXGA	1280 × 1024	5 ： 4	60	8	RGB
FWXGA	1360 × 768	16 ： 9	60	8	RGB
	1366 × 768	16 ： 9	60	8	RGB
SXGA+	1400 × 1050	4 ： 3	60	8	RGB
WXGA+	1440 × 900	16 ： 10	60	8	RGB
WXGA++	1600 × 900	16 ： 9	60	8	RGB
WSXGA+	1680 × 1050	16 ： 10	60	8	RGB
UXGA	1600 × 1200 *1	4 ： 3	60	8	RGB
Full HD	1920 × 1080 *1	16 ： 9	60	8	RGB
WUXGA	1920 × 1200 *1	16 ： 10	60 Reduced Blanking	8	RGB
WQHD	2560 × 1440	16 ： 9	60 Reduced Blanking	8	RGB
WQXGA	2560 × 1600	16 ： 10	60 Reduced Blanking	8	RGB
UWFHD	2560 × 1080	21 ： 9	24/25/30/50/60	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
UHD	3840 × 2160	16 ： 9	24/25/30	8	RGB/ YCbCr4:4:4
				8/10/12 *2	YCbCr4:2:2

信号名	解像度（ドット）	アスペクト比	垂直走査周波数（Hz）	色深度（ビット）	信号形式
4K	4096 × 2160	17 ： 9	24/25/30	8	RGB/ YCbCr4:4:4
				8/10/12 *2	YCbCr4:2:2
HDTV(1080p)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	24/25/30/50/60	8/10/12 *2	RGB/ YCbCr4:4:4/ YCbCr4:2:2
HDTV(1080i)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	50/60		
HDTV (720p)	1280 × 720	16 ： 9	50/60		
SDTV (480p)	720/1440 × 480	4:3 / 16:9	60		
SDTV (576p)	720/1440 × 576	4:3 / 16:9	50		
SDTV(480i)	1440 × 480	4:3 / 16:9	60		
SDTV(576i)	1440 × 576	4:3 / 16:9	50		

SDI

信号名	解像度（ドット）	アスペクト比	垂直走査周波数（Hz）	色深度（ビット）	信号形式
SD-SDI (480i)	720/1440 × 480	4 ： 3	59.94	10	YCbCr4:2:2
SD-SDI (576i)	720/1440 × 576	4 ： 3	50	10	YCbCr4:2:2
HD-SDI (1080p)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	24/25/30	10	YCbCr4:2:2
HD-SDI (1080i)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	50/60	10	YCbCr4:2:2
HD-SDI (720p)	1280 × 720	16 ： 9	50/60	10	YCbCr4:2:2
3G-SDI Level A (1080p)	1920 × 1080 *1	16 ： 9	50/60	10	YCbCr4:2:2
3G-SDI Level A (2K)	2048 × 1080	17 ： 9	48/50/60	10	YCbCr4:2:2

*1: リアル表示
リアル表示以外の信号が入力されたときは、文字や罫線の太さなどが不均一になったり、色がにじんだりする場合があります。

*2: 信号形式が YCbCr4:2:2 のとき、オンスクリーンメニューの情報→信号 (2) に色深度の情報は表示されません。

9-3. 仕　様

形名			XP-A201U-B
方式			三原色液晶シャッター投映方式
主要部品仕様	液晶パネル	サイズ	1.0 型（25.4 mm）× 3 枚、 アスペクト比 16:10
		画素数 (*1)	2,304,000 画素（1920 ドット× 1200 ライン）
	投写レンズ		投写レンズ仕様（別売）をご覧ください。（→ 195 ページ）
		ズーム	電動
		フォーカス	電動
		レンズシフト	電動
	光源		レーザーダイオード＋蛍光体
	光学装置		ダイクロイックミラーによる光分離、 クロスプリズムによる合成方式
明るさ (*2) (*3)			AC200 V 時：20,000 lm AC100 V 時：12,000 lm
画面サイズ（投写距離）			60 ～ 500 型（投写距離はレンズユニットにより異なります）
色再現性			10 ビット カラープロセッシング（約 10 億 7000 万色）
走査周波数		水平	15 kHz、24 ～ 153 kHz
		垂直	24,　25,　30,　48 Hz、50 ～ 85 Hz、100, 120 Hz
入出力端子	HDMI IN 1/2	映像入力	タイプ A × 2 Deep Color、LipSync、HDCP (*4)、4K
		音声入力	サンプリング周波数 32/44.1/48 kHz サンプリングビット　16/20/24 bit
	HDBaseT IN	映像入力	RJ-45 × 1、 Deep Color、LipSync、HDCP (*4)、4K
		音声入力	サンプリング周波数 32/44.1/48 kHz サンプリングビット 16/20/24 bit
		制御	100BASE-TX、Art-Net、PJLink class2
	HDBaseT OUT	映像出力	RJ-45 × 1、 Deep Color、LipSync、HDCP (*4)、4K
		音声出力	サンプリング周波数 32/44.1/48 kHz サンプリングビット 16/20/24 bit
		制御	100BASE-TX、Art-Net、PJLink class2
	SDI IN	映像入力	BNC × 1　3G/HD/SD
		音声入力	2ch Setereo Audio Audio Channel1 : L ch Audio Channel2 : R ch サンプリング周波数 : 48kHz
	AUDIO OUT		ステレオミニジャック× 1（全信号共通）
	USB		USB タイプ A × 1、電源供給 5.0 V /1.4 A

形名		XP-A201U-B
制御入出力端子		
	LAN	RJ-45 × 1、10BASE-T/100BASE-TX、 Art-Net、PJLink class2
	PC CONTROL	D-Sub 9 ピン× 1、RS232C
	REMOTE	ステレオミニジャック× 1
スピーカー		なし
使用環境 (*5)		動作温度 :0 ～ 45 ℃ 動作湿度 :20 ～ 80 %（ただし、結露しないこと）
		保存温度 : － 10 ～ 50 ℃ 保存湿度 :20 ～ 80 %（ただし、結露しないこと）
		動作高度：0 ～ 3650 m
電源		AC 100 V ～ 240 V 50/60 Hz
消費電力		1020 W（100 ～ 130 V）、1530 W（200 ～ 240 V）
消費電力 （スタンバイ時）	ネットワーク有効時	0.8 W（100 ～ 130 V）、0.9 W（200 ～ 240 V）
	ネットワーク無効時	0.20 W（100 ～ 130 V）、0.32 W（200 ～ 240 V）
定格入力電流		11.9 A ～ 7.8 A
外形寸法		650（幅）× 262（高）× 549（奥行）mm（突起部含まず） 650（幅）× 311（高）× 661（奥行）mm（突起部含む）
質量		38.7 kg（レンズユニット含まず）

（＊ 1）：有効画素数は 99.99 %です。

（＊ 2）： 別売のレンズユニット XP-54ZL を装着し、基準ライトモードが「ノーマル」で基準ライト調整が「100」、プリセットが「高輝度モード」のときの明るさです。ライト調整をすると明るさが低下します。また、プリセットで他のモードを選択すると明るさが多少低下します。

（＊ 3）：JIS X6911:2021 データプロジェクターの仕様書様式にそって記載しています。測定方法、測定条件については、附属書 B に基づいています。

（＊ 4）：HDCP/HDCP 技術とは？
HDCP とは "High-bandwidth Digital Content Protection" の略称で、HDMI を経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムのことをいいます。HDCP の規格は、Digital Content Protection, LLC という団体によって、策定・管理されています。
本機の HDMI 1 および HDMI2 入力端子、HDBaseT IN ポートは、HDCP 技術を用いてコピープロテクトされているデジタルコンテンツを投写することができます。
ただし、HDCP の規格が変更された場合などは、プロジェクターが故障していなくても、HDMI 1 および HDMI2 入力端子、HDBaseT IN ポートの映像が表示されないことがあります。
映像：DeepColor (ディープカラー：色深度): 8/10/12 ビット、LipSync
音声：LPCM; チャンネル数 ; 2 ch、サンプリング周波数：32/44.1/48 kHz、サンプリングビット：16/20/24 ビット
HDMI：HDCP 2.2/1.4 に対応
HDBaseT：HDCP 2.2/1.4 に対応

（＊ 5）：使用環境の温度により、本機の保護機能が働きます。（→ 64 ページ）

・この仕様・意匠はお断りなく変更することがあります。

●投写レンズ仕様（別売）

レンズユニット形名		仕　様
XPレンズ	NPレンズ	
XP-51ZL	NP51ZL	投写比 0.53 ～ 0.65：1、F1.94 ～ 2.20、f=12.0 ～ 14.6 mm
XP-52ZL	NP52ZL	投写比 0.65 ～ 0.87：1、F1.84 ～ 2.25、f=14.4 ～ 19.1 mm
XP-53ZL	NP53ZL	投写比 0.86 ～ 1.25：1、F1.80 ～ 2.24、f=19.0 ～ 27.6 mm
XP-54ZL	NP54ZL	投写比 1.24 ～ 2.01：1、F1.80 ～ 2.24、f=27.7 ～ 44.3 mm
XP-55ZL	NP55ZL	投写比 1.98 ～ 3.95：1、F1.84 ～ 2.58、f=43.8 ～ 86.0 mm
XP-56ZL	NP56ZL	投写比 3.95 ～ 7.51：1、F1.85 ～ 2.41、f=86.2 ～ 164.8 mm

・ 投写比は 100 型の画面を投写する場合の値です。
・ NP 形名のレンズユニットを取り付けている場合でも、オンスクリーンメニューの情報→その他→レンズ ID には XP 形名で表示されます。

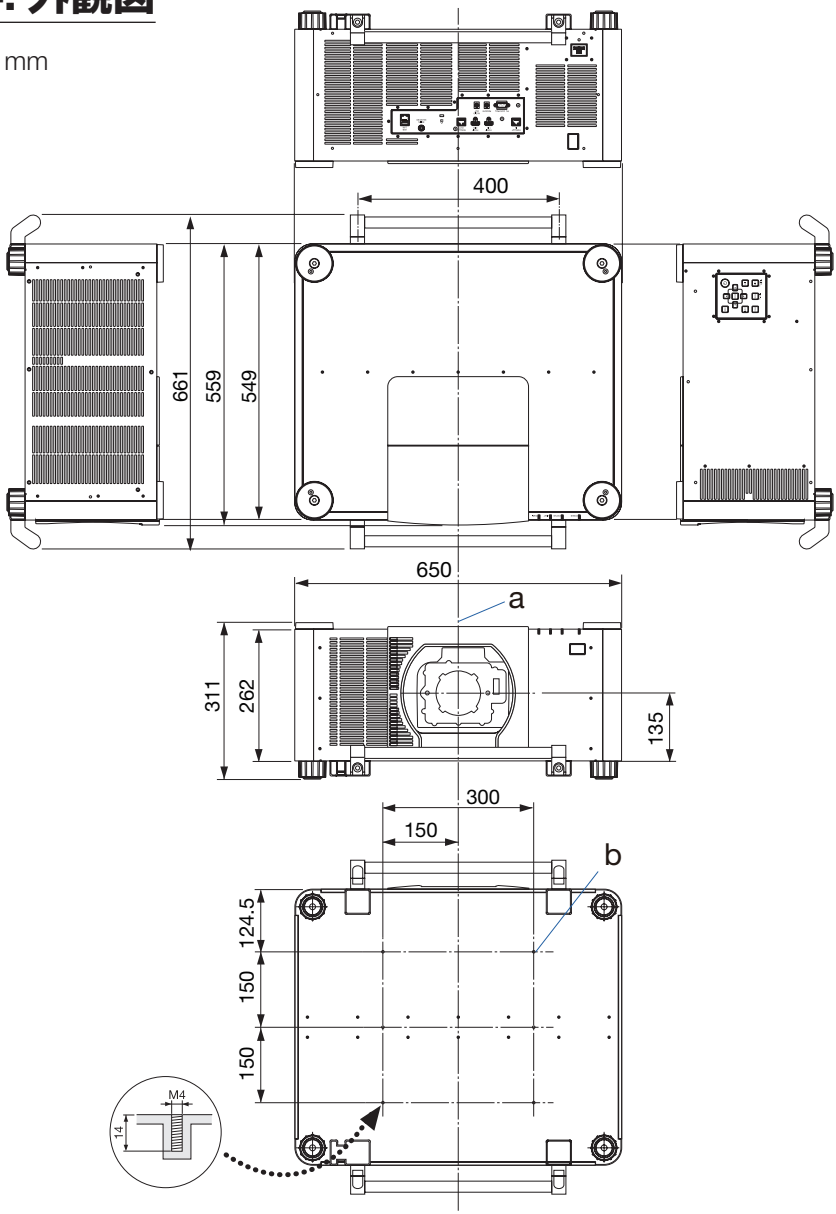
機能の対応表

機能 / レンズ形名	電動レンズシフト	電動ズーム	電動フォーカス		キャリブレーション	ホームポジション	基準レンズメモリー レンズメモリー
			中央	周辺			
XP-51ZL/NP51ZL	○	○	○	○	○	○	○
XP-52ZL/NP52ZL	○	○	○	○	○	○	○
XP-53ZL/NP53ZL	○	○	○	○	○	○	○
XP-54ZL/NP54ZL	○	○	○	×	○※	○	○※
XP-55ZL/NP55ZL	○	○	○	×	○※	○	○※
XP-56ZL/NP56ZL	○	○	○	×	○※	○	○※

○：対応　×：非対応
※：周辺フォーカスを除く

9-4. 外観図

単位：mm

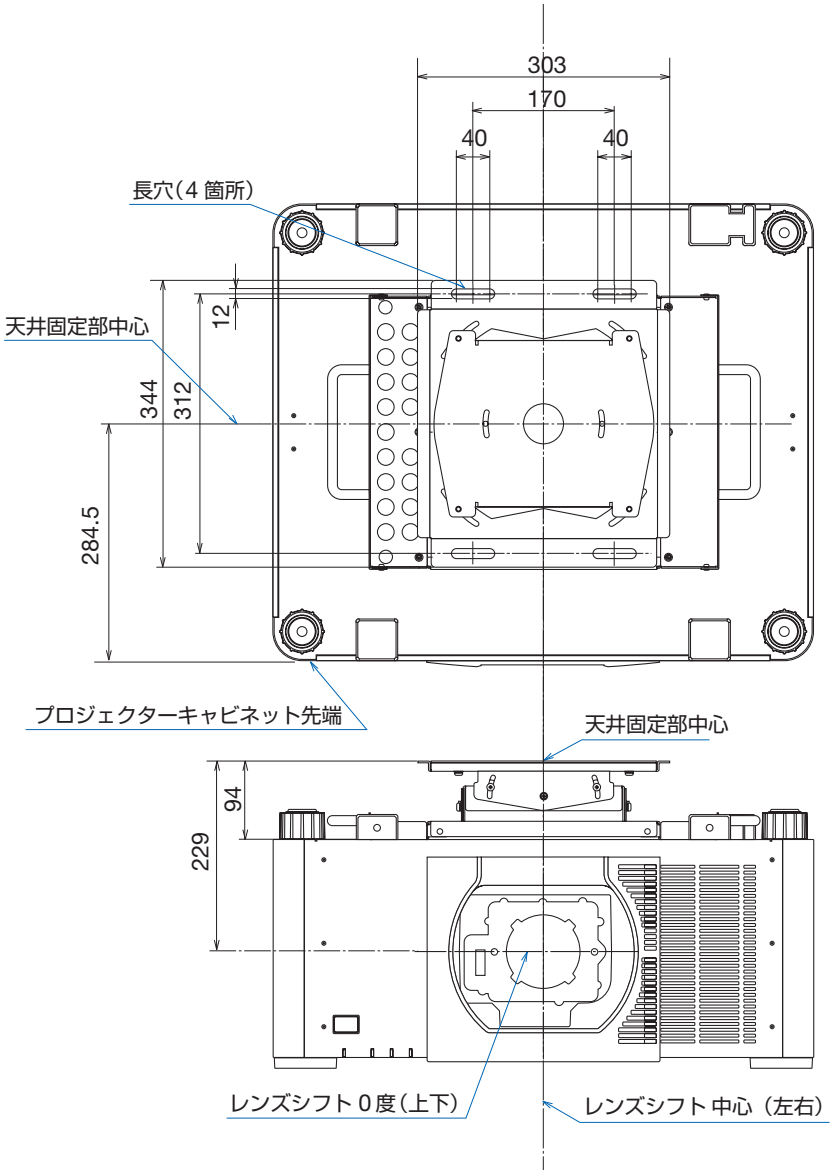


a：レンズ中心 / b：天吊り金具取り付け用ネジ穴※（6 箇所）M4 mm 深さ 14 mm

※ 天吊り金具の取り付けは、販売店に依頼してください。
設置業者様は、天吊り金具の取扱説明書に従って、金具と 6 箇所すべての固定用ネジを確実に取り付けてください。

天吊り金具（XP-15CM）取り付け図

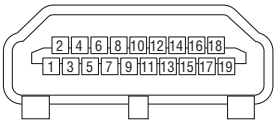
天井設置面寸法図（単位：mm）



注）天吊り金具が 左右 0 度、上下 0 度、傾き 0 度の位置です。

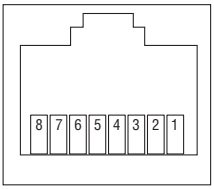
9-5. 主な端子のピン配列と信号名

● HDMI IN 1/2 端子（タイプ A）



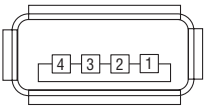
ピン番号	信号	ピン番号	信号
1	TMDS データ 2 ＋	11	TMDS クロック シールド
2	TMDS データ 2 シールド	12	TMDS クロック－
3	TMDS データ 2 －	13	CEC
4	TMDS データ 1 ＋	14	非接続
5	TMDS データ 1 シールド	15	SCL
6	TMDS データ 1 －	16	SDA
7	TMDS データ 0 ＋	17	DDC/CEC 接地
8	TMDS データ 0 シールド	18	＋ 5 V 電源
9	TMDS データ 0 －	19	ホットプラグ検出
10	TMDS クロック＋		

● HDBaseT ポート（RJ-45）



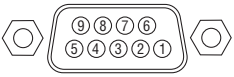
ピン番号	信号
1	TxD ＋ / HDBT0 ＋
2	TxD － / HDBT0 －
3	RxD ＋ / HDBT1 ＋
4	非接続 / HDBT2 ＋
5	非接続 / HDBT2 －
6	RxD － / HDBT1 －
7	非接続 / HDBT3 ＋
8	非接続 / HDBT3 －

● USB-A ポート（USB タイプ A）



ピン番号	信号
1	VBUS
2	D －
3	D ＋
4	接地

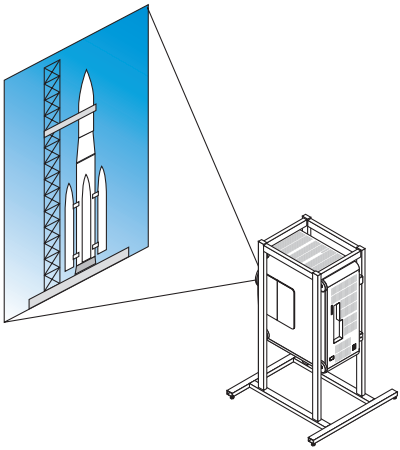
● PC コントロール端子（D-Sub 9 ピン）



ピン番号	信号
1	未使用
2	RxD　受信データ
3	TxD　送信データ
4	未使用
5	接地
6	未使用
7	RTS　送信要求
8	CTS　送信可
9	未使用

9-6. ポートレート（縦向き）投写をする

本機を縦向きに設置することでコンピューターなどのポートレート画面を投写することができます。



設置上のご注意

- 床や台の上に本体をそのまま縦向きで設置しないでください。転倒して故障や破損、けがの原因となります。また、排気口が塞がれて内部の温度が上昇し、故障や火災の原因となります。
- 排気の確保や転倒防止のために、本体を支えるスタンドを必ず製作してください。このとき本体の重心がスタンド脚の内側に十分入る様に設計してください。
  転倒して故障や破損、けがの原因となります。

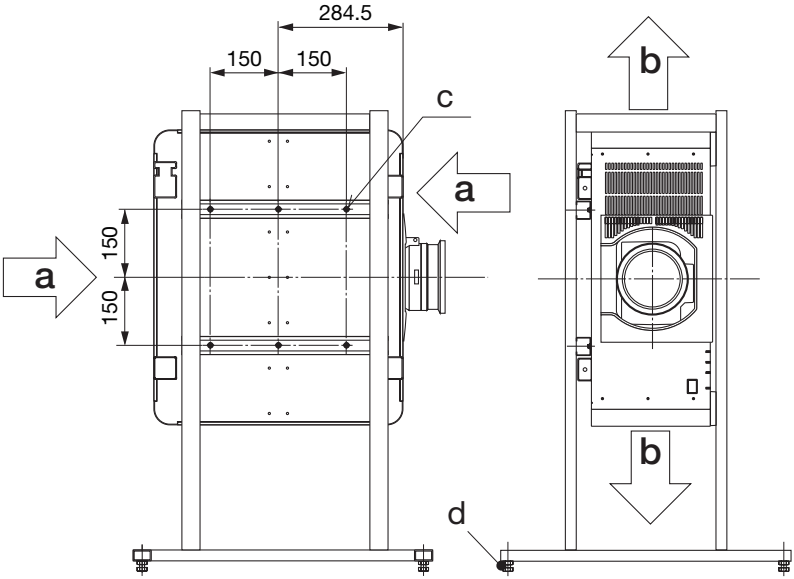
スタンド設計製作の条件

専用のスタンドの設計に際しては次のことをお守りください。

- 本体と床との間の距離を確保してください。（→次ページ）
- 本体背面にある 6 箇所のネジ穴を使ってスタンドと固定してください。
  ネジ穴センター間寸法：幅 300、長さピッチ 150 mm
  本体のネジ穴寸法：M4 ネジ最大深さ 6 mm
  4 箇所のチルトフットは回して外すことができます。
- 水平調整機構（たとえばボルトとナット：４箇所）
- スタンドは容易に転倒しないよう設計してください。

参考図

※寸法条件を表す図で、実際のスタンド設計図ではありません。
（単位 : mm）



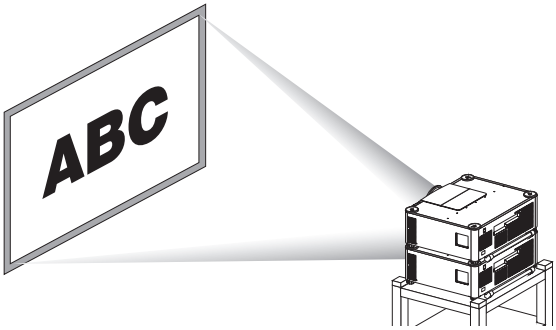
［側面図］　　［前面図］

a：吸気 / b：排気 / c：6-M4 ボルト / d：水平アジャスター

（注）本体操作部がある面を下向きにする場合の例です。
排気口がある面を下向きにする場合は、200 mm 以上あけてください。

9-7. プロジェクターをスタック設置して投写する

プロジェクターを上下に積んで同じ映像を重ねてスクリーンに投写することにより、さらに輝度を上げることができます。これを「スタック投写」と呼びます。
本機は、2 台のプロジェクターを上下に積む「スタック設置」に対応しています。



⚠ 注意	● ハンドルをつかんで、2 人以上で持ち上げてください。 1 人で持ち上げた場合、けがや腰痛の原因となることがあります。 ● 本機を持ち上げる際に、ハンドル以外の部分を持たないでください。 落下してけがの原因となることがあります。

【注意】

- 異なった形名のプロジェクターを混在してスタック設置することはできません。
  また、別売のレンズユニットは同じ形名のものを使用してください。
- 本機のスタック投写は、細かい文字や CAD などの画像が完全に重なるような精度はありません。
- 設置上のご注意
  - ・設置や調整はお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にご依頼ください。
  - ・スタック設置の場所や構造物は、本機 2 台分の質量に長期間耐えうる強度を確保してください。本機 1 台の質量は、最大約 44 kg（レンズユニットを含む）です。
  - ・地震などによる転倒防止対策を十分に施してください。
  - ・本機を 2 台使用すると、より高温になります。室内が適切な温度になるように調節してください。
  - ・天井にスタック設置することはできません。
  - ・最適な状態で使用するためには、1 時間程度のウォームアップが必要です。
  - ・スタック設置した場合、上側のプロジェクターは、下側のプロジェクターのチルトフット調整量がプラスされます。上側のプロジェクターの姿勢が仕様範囲を超えないように注意してください。
  - ・レンズユニットは、ズームの＋（ワイド）側と－（テレ）側で幾何学歪みが異なります。できるだけ歪みが小さくなるズーム位置を選んで設置してください。
  - ・横方向のレンズシフト位置はセンターに合わせてください。

9-8. 故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、もう一度接続や設定および操作に間違いがないかご確認ください。それでもなお異常なときはお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

現象と確認事項

このようなとき	確認してください	参照ページ
電源が入らない	電源プラグがコンセントから抜けていませんか。	44
	内部温度が高くなっていませんか。内部の温度が異常に高いと保護のため電源は入りません。しばらく待ってから電源を入れてください。	207
	上記の電源コードの接続、本機の内部温度上昇などが原因として考えられない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約 5 分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。	59
使用中に電源が切れる	オンスクリーンメニューのオフタイマー、オートパワーオフ、またはプログラムタイマーを「オン（時間を選択）」にしていませんか。	162 139
映像が出ない	接続している入力を選んでいますか。本体の入力切替ボタンまたはリモコンの入力を選択するボタンを再度押してください。	49
	入力端子のケーブルが正しく接続されていますか。	174 ～ 181
	調整のコントラスト、明るさが最小になっていませんか。	115
	オンスクリーンメニューのパワーオンシャッターが「閉」に設定されていませんか。	137
	SHUTTER CLOSE ボタンが押されていませんか。	61
	入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。	190
	HDMI1 入力端子および HDMI2 入力端子の映像がうまく投写できない場合は次の点をご確認ください。 お使いのコンピューターに内蔵されているグラフィックボードのドライバーを再インストールください。または最新のバージョンアップを適用してください。	–

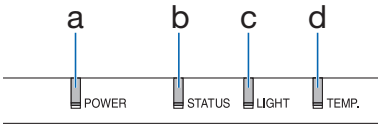
次ページに続く

このようなとき	確認してください	参照ページ
映像が出ない	再インストール、最新のバージョンアップに関しては、コンピューター、グラフィックボードの取扱説明書を参照いただくか、コンピューターのサポート窓口にお問い合わせください。 なお、最新ドライバーや最新 OS は、お客様の責任においてインストールしていただきますようお願いいたします。これらインストールに起因するトラブル、不具合については一切の責任を負わないものとします。	–
	HDBaseT 対応伝送機器によっては信号が対応していない場合があります。また IR、RS-232C が対応できない場合があります。	–
	各設定が正しく調整・設定されていますか。	100
	それでも解決しない場合は、リセットをしてください。	163
	スタートアップロックが有効になっている場合は、本機の電源を入れたときに、あらかじめ登録しておいたスタートアップロックキーワードを入力しないと映像は投写されません。	72
	本機の動作温度内であっても、スリープ状態が長く続いた場合などに内部が高温になることがあります。このときに電源を入れると、冷却ファンのみが動作して、映像が投写されるまでに時間がかかります。 しばらくお待ちください。	–
映像が歪む	正しく設置されていますか。	51
	台形状に歪む場合は台形補正で調整してください。	66、124
映像がぼやける	レンズのフォーカスは合っていますか。	54
	投写画面と本機が正しい角度で設置されていますか。	51
	投写距離がフォーカスの範囲を超えていませんか。	184
	レンズシフトの移動量が保証範囲を超えていませんか	188
	レンズなどが結露していませんか 気温が低い所に保管しておいて温かい所で電源を入れるとレンズや内部の光学部が結露することがあります。このような場合は結露がなくなるまで数分お待ちください。	—
映像が乱れる	本機に接続している信号ケーブルが断線していませんか。	—
映像が突然暗くなった	室温が高いと、本機の保護機能が働いて、一時的に輝度（明るさ）が下がることがあります。 室温を下げてください。	65

このようなとき	確認してください	参照ページ
水平または垂直方向に映像がずれて正常に表示されない	水平、垂直を正しく調整しましたか。	116
	入力信号が対応している解像度、周波数になっていますか。	190
フォーカスを調整できない ズームを調整できない	オンスクリーンメニューのアダプティブフォーカスを「オン」にしていませんか。 フォーカス（中央／周辺）とズームを調整する場合は、本体またはリモコンの FOCUS ボタンを 10 秒以上押して、アダプティブフォーカスを「オフ」にしてください。	81 138
リモコンで操作できない	リモコンのリモコン送信部を本体のリモコン受光部に向けていますか。	41
	リモコンの乾電池が消耗していませんか。新しい乾電池と交換してください。	40
	リモコンと本体のリモコン受光部との間に障害物がありませんか。	41
	リモコンの有効範囲を超えていませんか。	41
	コントロール ID 機能を設定している場合、リモコンの ID 番号とプロジェクターの ID 番号は一致していますか。コントロール ID を「オン」にすると、本機のリモコンから本機を操作できなくなります。	144
オンスクリーンメニューが表示されない	オンスクリーンミュートになっていませんか。 リモコンの CTL ボタンと OSD OPEN ボタンを同時に押すか、本体の MENU ボタンを 10 秒以上押し続けることで解除できます。	61
インジケーターが点滅する	インジケーター表示一覧をご覧ください。	206 ～ 208
本機の動作が不安定になる	電源プラグをコンセントから抜いてください。そして約５分間待って再び電源プラグをコンセントに接続してください。	59

9-9. インジケーター表示一覧

本体操作部の 3 つのインジケーターが点灯、点滅しているときは、以下の説明を確認してください。



a：電源インジケーター
b：ステータスインジケーター
c：ライトインジケーター
d：温度インジケーター

●通常のインジケーター表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態
（消灯）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	主電源が切れている
オレンジ色（点滅※1）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	スタンバイ状態（省電力が「オン」で、ネットワークが待機状態）
オレンジ色（長い間隔の点滅※2）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	スタンバイ状態（省電力が「オン」で、ネットワークが無効状態）
オレンジ色（点灯）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	スタンバイ状態（省電力が「オン」で、ネットワークが有効状態）
オレンジ色（長い点滅※3）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	プログラムタイマー オン時刻有効状態（スタンバイ状態）
緑色（点灯）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	スリープ状態
緑色（長い点滅※3）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	プログラムタイマー オン時刻有効状態（スリープ状態）
青色（点灯）	（消灯）	緑色（点灯）	（消灯）	電源オン状態（基準ライトモードが「ノーマル」）
青色（点灯）	（消灯）	緑色（長い点滅※3）	（消灯）	電源オン状態（基準ライトモードが「静音」または「長寿命」）

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態
（各状態）	オレンジ色（2 回周期点滅※4）	（各状態）	（消灯）	レンズキャリブレーション実行要求（画面にレンズキャリブレーション実行要求のメッセージを表示）
青色（点灯）	緑色（2 回周期点滅※4）	（各状態）	（消灯）	レンズキャリブレーション中
青色（点灯）	（各状態）	（消灯）	（消灯）	レンズシャッターが「閉」の状態（光源が消灯）
青色（長い点滅※3）	（消灯）	（各状態）	（消灯）	オフタイマー有効状態、プログラムタイマー オフ時刻有効状態（電源オン状態）
青色（短い点滅※5）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	電源オン準備中

※1　1.5 秒点灯 /1.5 秒消灯 のくり返し
※2　1.5 秒点灯 /7.5 秒消灯 のくり返し
※3　2.5 秒点灯 /0.5 秒消灯 のくり返し
※4　0.5 秒点灯 /0.5 秒消灯 /0.5 秒点灯 /2.5 秒消灯のくり返し
※5　0.5 秒点灯 /0.5 秒消灯 のくり返し

●異常時のインジケーター表示

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態	処置方法
青色（点灯）	オレンジ色（点灯）	（各状態）	（消灯）	本体キーロック中にボタンを押したとき	本体キーロック中です。操作する場合は、設定を解除する必要があります。（→ 144 ページ）
				プロジェクターの ID 番号とリモコンの ID 番号が一致しないとき	コントロール ID を確認してください。（→ 144 ページ）
青色（点灯）	（消灯）	オレンジ色（点灯）	オレンジ色（点灯）	周囲高温	周囲の温度が高くなっているため、保護機能が働いています。室温を下げてください。
赤色（短い点滅※5）	（消灯）	（消灯）	（消灯）	温度エラー	室温が、本機の動作温度（0 ～ 45℃）を超えています。適切な室温に調節してください。また、排気口がふさがれていないか、吸気口の近くに他のプロジェクターの排気口がないか確認してください。

POWER	STATUS	LIGHT	TEMP.	本機の状態	処置方法
赤色 （短い点滅※5）	赤色（点灯）	赤色（点灯）	（消灯）	レンズ未装着または非対応	レンズが正しく取り付けられているか確認してください。
青色（点灯）	（各状態）	オレンジ色 （長い点滅※3） または （短い点滅※5） 赤色（点灯）	（各状態）	修理が必要な異常発生中	そのままでもご使用いただけますが、お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ点検を依頼することをおすすめします。
赤色（点灯）	（各状態）	（各状態）	（消灯）	修理が必要な異常発生中	お買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口へ修理を依頼してください。その際に、インジケーターの点灯状態をお知らせください。

※3　2.5 秒点灯 /0.5 秒消灯のくり返し
※5　0.5 秒点灯 /0.5 秒消灯のくり返し

●温度プロテクターが働いたときは

本機内部の温度が異常に高くなると、電源インジケーターが赤色で短く点滅します。
その後、本機の温度プロテクター機能が働いて、本機の電源が切れることがあります。
このようなときは、以下の処置をしてください。

・電源プラグをコンセントから抜いてください。
・周囲の温度が高い場所に置いて使用しているときは、涼しい場所に設置しなおしてください。
・通風口にほこりがたまっていたら、清掃してください。（→ 183 ページ）
・本機内部の温度が下がるまで、約 1 時間そのままにしてください。

9-10.ASCII コントロールコマンドについて

本機は、当社のプロジェクターまたはディスプレイを制御するための共通 ASCII コントロールコマンドに対応しています。
コマンドの詳細は、ホームページに掲載しているリファレンスマニュアルをご覧ください。
https://smj.jp.sharp/r/32/

外部機器との接続方法

プロジェクターとコンピューターなどの外部機器との接続方法には、次の 2 つがあります。

① **シリアルポートを使用した接続**
シリアルケーブル（クロスケーブル）を使用して、コンピューターとプロジェクターを接続します。

② **ネットワーク (LAN) 経由での接続**
LAN ケーブルを使用して、コンピューターとプロジェクターを接続します。
使用する LAN ケーブルの種類（ストレート / クロス）については、ネットワーク管理者にご確認ください。

接続インターフェース

① **シリアルポートを使用した接続**
通信条件

項目	詳細
ボーレート	115200/38400/19200/9600/4800 bps
データ長	8 ビット
パリティビット	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし
通信手順	全二重

② **ネットワーク（LAN/HDBaseT）経由での接続**
通信条件（LAN による接続）

項目	詳細
伝送速度	自動設定 (10/100 Mbps)
対応規格	IEEE802.3 (10BASE-T) IEEE802.3u (100BASE-TX, Auto-Negotiation)

コマンドの送受信には、TCP のポート番号「7142」を使用します。

通信条件（HDBaseT による接続）

項目	詳細
伝送速度	100 Mbps
対応規格	IEEE802.3u (100BASE-TX, Auto-Negotiation)

コマンドの送受信には、TCP のポート番号「7142」を使用します。

本機で使用するパラメーター

● input コマンド

入力端子	レスポンス	パラメーター
HDMI1	hdmi1	hdmi1 または hdmi
HDMI2	hdmi2	hdmi2
HDBaseT	hdbaset	hdbaset または hdbaset1
SDI	sdi	sdi または sdi1

● status コマンド

レスポンス	本機の状態
error:temp	温度エラー
error:fan	ファン異常
error:light	光源異常
errorl:lens	レンズ異常
error:system	システム異常

9-11. Art-Net の DMX パラメーター一覧

機能	動作	パラメーター	備考
電源	オフ	0 ～ 63	
	無操作	64 ～ 191	
	オン	192 ～ 255	
入力端子	無操作	0 ～ 7	
	HDMI1	8 ～ 15	
	無操作	16 ～ 23	
	HDMI2	24 ～ 31	
	無操作	32 ～ 39	
	HDBaseT	40 ～ 47	
	無操作	48 ～ 55	
	SDI	56 ～ 63	
	無操作	64 ～ 255	
映像消去	オフ	0 ～ 63	
	無操作	64 ～ 191	
	オン	192 ～ 255	
シャッター	開	0 ～ 63	
	無操作	64 ～ 191	
	閉	192 ～ 255	
静止	オフ	0 ～ 63	
	無操作	64 ～ 191	
	オン	192 ～ 255	
ライト調整	無操作	0 ～ 49	
	調整値	50 ～ 100	
	無操作	101 ～ 255	
レンズシフト（水平）	左調整	0 ～ 63	
	停止	64 ～ 191	
	右調整	192 ～ 255	
レンズシフト（垂直）	下調整	0 ～ 63	
	停止	64 ～ 191	
	上調整	192 ～ 255	
フォーカス	(-) 調整	0 ～ 63	
	停止	64 ～ 191	
	(+) 調整	192 ～ 255	

機能	動作	パラメーター	備考
ズーム	(-) 調整	0 ～ 63	
	停止	64 ～ 191	
	(+) 調整	192 ～ 255	
台形補正（水平）	無操作		128 をセンター (調整値 0) として±を調整します。
	調整値		
	無操作		
台形補正（垂直）	無操作		128 をセンター (調整値 0) として±を調整します。
	調整値		
	無操作		
ロック	操作不可	0 ～ 127	Art-Net の機能を無効にします。
	操作可	128 ～ 255	Art-Net の機能を有効にします。

9-12. トラブルチェックシート

本シートはトラブルに関するお問い合わせの際、迅速に故障箇所を判断させていただくためにご記入をお願いするものです。本書の「故障かな？と思ったら」をご覧いただき、それでもトラブルが回避できない場合、本シートをご活用いただき、具体的な症状をお買いあげの販売店またはお客様ご相談窓口の受付担当者へお伝えください。
※このページと次のページを印刷してお使いください。

発生頻度　□常時　□時々（　　回中　　回）　□その他(　　)

電源関係

- □ 電源が入らない（電源インジケーターが青色に点灯しない）。
  - □ 電源プラグはコンセントにしっかり挿入されている。
  - □ ⏻ボタンを押しても電源が入らない。
- □ 使用中、電源が切れる。
  - □ 電源プラグはコンセントにしっかり挿入されている。
  - □ オートパワーオフは「オフ」に設定されている。
  - □ オフタイマーは「オフ」に設定されている。

映像・音声関係

- □ コンピューターの画面が投写されない。
  - □ コンピューターと本機を接続したあとにコンピューターを起動してもなおらない。
  - □ ノートブックコンピューターにおいて外部出力信号が出力されている。
    Windowsの場合は、[Fn]キー+[F1]～[F12]キーのいずれかを押すと外部出力信号が出力されます（コンピューターによって異なります）。
- □ 映像が出ない（ブルーバック ・ ロゴ ・ 表示なし）。
  - □ リセットを実行してもなおらない。
  - □ 入力端子にケーブルが、しっかり挿入されている。
  - □ 画面に何かメッセージが出ている。
    （　　）
  - □ 接続している入力を選択している。
  - □ 明るさ・コントラストを調整してもなおらない。
  - □ 入力は対応している解像度・周波数の信号である。
- □ 映像が暗い。
  - □ 明るさ・コントラストを調整してもなおらない。
- □ 映像が歪む。
  - □ 台形に歪む（台形補正を実行してもなおらない）。
- □ 映像が切れる。
  - □ リセットを実行してもなおらない。
  - □ 水平または垂直方向に映像がずれる。
  - □ コンピューター映像入力の場合、水平位置・垂直位置は正しく調整されている。
  - □ 入力は対応している解像度・周波数の信号である。
  - □ 数ドット欠けている。
- □ 映像がちらつく。
  - □ リセットを実行してもなおらない。
  - □ コンピューター映像入力で文字がちらついたり、色がずれている。
- □ 映像がぼやける・フォーカスが合わない。
- □ 音声が出ない。
  - □ 音量を調整してもなおらない。

その他

- □ リモコンが利かない。
  - □ リモコンと本体のリモコン受光部との間に障害物はない。
  - □ 蛍光灯の近くに本体が設置されている。
  - □ プロジェクター本体のIDとリモコンのIDは一致している。
- □ 本体操作パネルのボタンが利かない。
  本体キーロック設定のある機種において
  - □ 本体キーロック設定は「オフ」または「無効」に設定されている。
  - □ 本体のEXITボタンを10秒以上押してもなおらない。

症状を具体的に記入してください。

使用状況・環境

プロジェクター

形名：□**XP-A201U-B**

製造番号：

購入時期：

ライト使用時間：

基準ライトモード：□ノーマル　□静音
□長寿命

入力信号情報：

水平同期周波数　　[kHz]

垂直同期周波数　　[Hz]

同期極性　H □(+)　□(−)
V □(+)　□(−)

インジケーターの状態

POWER　：色（　　）／点灯・点滅（　　）
STATUS：色（　　）／点灯・点滅（　　）
LIGHT　：色（　　）／点灯・点滅（　　）
TEMP.　：色（　　）／点灯・点滅（　　）

設置環境

スクリーンサイズ：　　型

タイプ：□ホワイトマット　□ビーズ　□偏光
□広視野角　□ハイコントラスト

投写距離：　　m

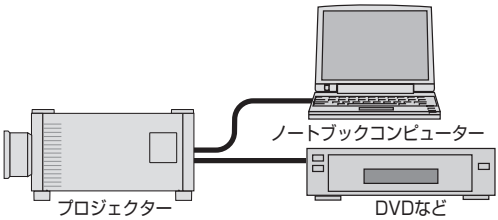
投写方法：□天吊り　□床置き

電源コンセントは？

□壁からのコンセントを直接利用している。

□電源用テーブルタップを利用している。
（他、接続機器の数：　　台）

□電源ドラム（ロール式）を利用している。
（他、接続機器の数：　　台）



コンピューター

メーカー：

形名：

ノートブックコンピューター・デスクトップ一体型

解像度：

リフレッシュレート：

ビデオボード：

その他：

信号ケーブル

純正・その他
（形名：　　長さ：　　m）

分配器
形名：

スイッチャー
形名：

アダプター
形名：

接続機器

ビデオ ・ ブルーレイプレーヤー ・ カメラ ・ ゲーム ・

その他

メーカー：

形名：

9-13. 別売品

商品名		XP 形名	NP 形名
レンズユニット	電動ズームレンズ	XP-51ZL	NP51ZL
	電動ズームレンズ	XP-52ZL	NP52ZL
	電動ズームレンズ	XP-53ZL	NP53ZL
	電動ズームレンズ	XP-54ZL	NP54ZL
	電動ズームレンズ	XP-55ZL	NP55ZL
	電動ズームレンズ	XP-56ZL	NP56ZL
天吊り金具	天井用取付けユニット	XP-15CM	—

・NP 形名のレンズユニットを取り付けている場合でも、オンスクリーンメニューの情報→その他→レンズ ID には XP 形名で表示されます。

アフターサービスについて

■ 製品の保証について

- この製品には保証書がついています。保証書は、販売店にて所定事項を記入してお渡ししますので、内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。
- 保証期間はお買いあげの日から 3 年間です。
  本製品には有寿命部品（光学エンジン、光源ユニットなど）が含まれます。
  有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温度、湿度など）の条件により異なります。
  長時間連続使用など、ご使用状況によっては製品の保証期間内であっても有料での部品交換が必要になりますので、シャープサポートページ（裏表紙）をご確認ください。

■ 補修用性能部品について

当社は、本製品の補修用性能部品を製造打切後、8 年間保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品のことです。

■ 修理を依頼されるときは

先に「故障かな？と思ったら」（→ 203 ページ）をお読みのうえ、もう一度お調べください。それでも異常があるときは、使用をやめて、電源コードをコンセントから抜き、お買いあげの販売店またはもよりのお客様ご相談窓口にご連絡ください。ご自分での修理はしないでください。たいへん危険です。

ご連絡していただきたい内容

品名	プロジェクター
形名	XP-A201U-B （取り付けている別売品があれば、その形名も連絡ください。）
お買いあげ日	（年月日）
故障の状況	（できるだけ具体的に）
ご住所	
お名前	
電話番号	

次ページへ続く

保証期間中

保証書をご提示ください。保証書の規定に従って修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。

修理料金のしくみ

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。
部品代	修理に使用した部品代金です。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の料金です。

アフターサービスについてわからないことは、お買いあげの販売店またはもよりのお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

使いかたのご相談など

弊社製品が接続されているシステムの使いかたなどは、ご購入の販売店・営業担当にお問い合わせください。

シャープサポートページ：

https://jp.sharp/business/lcd-display/support/

- 問い合わせフォームよりお問い合わせください。
- 「よくあるご質問」もご活用ください。

修理のご相談など

【修理ご相談窓口】

シャープマーケティングジャパン株式会社

携帯OK **0570-00-5008**（・全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。・携帯電話からもご利用いただけます。）

受付時間 月曜～土曜：9:00～17:40（日曜・祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

■ IP 電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は … 06-6794-9676

■ 沖縄地区の方は … 沖縄シャープ電機株式会社　098-861-0866

受付時間 月曜～金曜：9:00～17:00（土曜・日曜・祝日など弊社休日は休ませていただきます。）

● 電話番号・受付時間などは変わることがあります。（2024.9）

シャープNECディスプレイソリューションズ株式会社

本 社 〒108-0073　東京都港区三田一丁目 4 番 28 号